秋田県文化財調査報告書第413集

遺跡詳細分布調査報告書

２００６・３

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７cm、凝灰岩。

遺跡詳細分布調査報告書

２００６・３

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできない貴重なものであります。

一方、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎となるものです。

本報告書は、平成17年度に国庫補助事業として実施した、県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業・国道のバイパス建設事業などに係る、遺跡分布調査及び遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に御協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解くださいますようお願い申し上げます。

平成18年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　　清

例　　言

1　本報告書は、平成17年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお、本書収録の報告は平成17年度４月から12月までの実施分であり、平成18年１月以降については来年度に報告する予定である。また、平成17年１月から３月に実施した遺跡分布調査の結果報告を平成16年度補足分として掲載した。

2　本報告書に収録の遺跡分布調査は秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、遺跡確認調査は秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の１地形図と、国土交通省、日本道路公団（現東日本高速道路株式会社）、県建設交通部、県農林水産部が作成した平面図である。

目　　次

序
例言
目次
第１章　はじめに …… 1
第２章　実施要項 …… 1
　第１節　遺跡分布調査 …… 1
　第２節　遺跡確認調査 …… 4
第３章　調査の記録 …… 6
　第１節　遺跡分布調査 …… 6
１　平成16年度補足分
（１）一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業… 6
（２）秋田中央道路整備工事 …… 7
（３）高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線・県道琴丘上小阿仁線 …… 7
（４）平鹿平野農業水利事業　皆瀬頭首工建設工事 …… 8
（５）担い手育成基盤整備事業　銅屋地区…… 9
（６）担い手育成基盤整備事業　里見地区…… 9
（７）旧本荘養護学校校舎解体工事 …… 10
（８）小坂製錬分析棟裏造成工事 …… 11
２　平成17年度分
（１）一般国道7号大館西道路建設事業 …… 12
（２）一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業…… 13
（３）一般国道13号神宮寺バイパス建設事業…… 13
（４）一般国道13号院内道路建設事業…… 14
（５）片山自歩道事業 …… 15
（６）成瀬ダム建設事業 …… 15
（７）平鹿平野農業水利事業　皆瀬6号幹線用水路工事 …… 17
（８）日本海沿岸東北自動車道（大館～小坂）建設事業 …… 18
（９）国道道路改築事業　国道285号滝ノ沢バイパス …… 18
(10)特定交通安全施設等整備事業 国道107号 …… 19
(11)一般県道川西六郷線建設事業 …… 19
(12)高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線 …… 20
(13)都市計画街路工事　横山金足線 …… 21
(14)地方道路交付金事業　湯沢栗駒公園線…… 21
(15)重要港湾改修工事　臨港道路生鼻崎線…… 22
(16)広域基幹河川改修事業　馬踏川 …… 22
(17)広域基幹河川改修事業　新城川 …… 23
(18)担い手育成基盤整備事業　中渡地区 …… 23
(19)担い手育成基盤整備事業　会塚地区 …… 24
(20)ふるさと農道緊急整備事業　北川尻地区…… 24
(21)地域用水環境整備事業　天王長沼地区…… 25
(22)フォレストコミュニティ総合整備事業石塚線 …… 25
(23)流域循環資源林整備事業　蒲台線 …… 26
(24)高能率生産団地路網整備事業　川西線… 27
(25)秋田中央高等学校長期整備計画 …… 27
第２節　遺跡確認調査 …… 28
（１）日本海沿岸東北自動車道（大館～小坂）建設事業坂下Ⅱ遺跡 …… 28
（２）一般国道7号大館西道路建設事業根下戸道下遺跡 …… 36
（３）高速交通関連道路整備事業　県道能代五城目線 …… 44
①鹿渡渉Ⅰ遺跡 …… 44
②鹿渡渉Ⅱ遺跡 …… 46
③樋向Ⅰ遺跡 …… 54
④樋向Ⅱ遺跡 …… 61
⑤樋向Ⅲ遺跡 …… 68
⑥大沢Ⅰ遺跡 …… 76
⑦大沢Ⅱ遺跡 …… 83
（４）一般国道13号神宮寺バイパス建設事業布田谷地遺跡 …… 90

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成16年度の補足分は、仁賀保本荘道路建設事業、秋田中央道路整備工事、平鹿平野農業水利事業、県営ほ場整備事業、施設建設事業等に係る遺跡分布調査８件である。平成17年度は、大館西道路建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、日本海沿岸東北自動車道建設事業、国道県道改築事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査25件と、大館西道路建設事業、日本海沿岸東北自動車道建設事業、県道改築事業等に係る遺跡確認調査10件である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が、地元教育委員会職員の協力を得て、平成17年１月から平成17年12月にかけて実施したものである。

第２章　実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

（３）遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室　榮一郎　藤澤昌　五十嵐一治　糸屋和憲　吉川耕太郎

５　市町村教育委員会担当者

神田和彦・小野隆志（秋田市）、澤谷敬・島田祐悦（横手市）、伊藤卓雄（横手市〈旧十文字町〉）、泉明・竹内弘和・工藤直子（男鹿市）、金野寛子（湯沢市）、三浦良隆（由利本荘市）、瀬下三男（潟上市）、齊藤浩志（大仙市）、亀沢修（小坂町）、児玉匡史・西村直仁・木村将来（三種町）、田村高夫（八峰町）、高橋隆義（井川町）、煙山光成・山形博康（美郷町）

６．調査対象地域及び事業名

※平成16年度補足分（平成17年１月～３月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	備　　考
1	国土交通省	一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業	西目町 仁賀保町	3月14日	試掘	試掘箇所では遺跡は確認されなかった。
2	建設交通部	秋田中央道路整備工事	秋田市	1月25日・2月22日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
3	建設交通部	高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線	琴丘町	3月9日	踏査	事業地内で今後再踏査・試掘が必要である。
4	農林水産省	平鹿平野農業水利事業　皆瀬頭首工建設工事	増田町	1月18日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。今後試掘が必要な箇所を残している。
5	農林水産部	担い手育成基盤整備事業　銅屋地区	秋田市	1月12日・1月13日	試掘	事業地内に新発見の遺跡1か所を確認した。
6	農林水産部	担い手育成基盤整備事業　里見地区	平鹿町	1月14日	試掘	事業地内に新発見の遺跡1か所を確認した。
7	教　育　庁	旧本荘養護学校校舎解体工事	本荘市	3月14日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
8	小坂製錬所	小坂製錬分析棟裏造成工事	小坂町	2月23日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。

※平成16年度補足分の市町村名は、合併前の表記としている。

※平成17年度分（平成17年４月～12月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	備　　考
1	国土交通省	一般国道７号大館西道路建設事業	大館市	7月13･14日、8月4日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
2	国土交通省	一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業	にかほ市 (旧仁賀保町)	12月12日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	大仙市 (旧神岡町)	6月16･28日	試掘	事業地内に新発見の遺跡１か所を確認した。
4	国土交通省	一般国道13号院内道路建設事業	湯沢市 (旧雄勝町)	12月8日	踏査	事業地内で今後試掘調査が必要である。
5	国土交通省	片山自歩道事業	大館市	4月28日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
6	国土交通省	成瀬ダム建設事業	東成瀬村	9月14･15日	試掘	事業地内に新発見の遺跡１か所を確認した。
7	農林水産省	平鹿平野農業水利事業　皆瀬６号幹線用水路工事	横手市 (旧十文字町)	6月14日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
8	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業　大館小坂間	大館市	8月30日	試掘	事業地内に新発見の遺跡１か所を確認した。
9	建設交通部	国道道路改築事業　国道285号滝ノ沢バイパス	北秋田市 (旧森吉町)	5月18日	踏査	事業地内で今後試掘調査が必要である。
10	建設交通部	特定交通安全施設等整備事業　国道107号	横手市 (旧平鹿町)	8月23日、10月21日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
11	建設交通部	一般県道川西六郷線建設事業	大仙市 (旧大曲市)	4月20日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
12	建設交通部	高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線	三種町 (旧琴丘町)	4月19日､6月1･2･7日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡２か所、新発見の遺跡7か所を確認した。
13	建設交通部	都市計画街路工事　横山金足線	秋田市	9月22日	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかった。
14	建設交通部	地方道路交付金事業　湯沢栗駒公園線	湯沢市	11月1日、12月9日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
15	建設交通部	重要港湾改修工事　臨港道路生鼻崎線	男鹿市	5月24日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
16	建設交通部	広域基幹河川改修事業　馬踏川	秋田市	9月22日	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかった。

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	備　　考
17	建設交通部	広域基幹河川改修事業　新城川	秋田市	9月22日	試掘	事業地内を踏査し、試掘箇所を選定した。
18	建設交通部	担い手育成基盤整備事業　中渡地区	八峰町(旧峰浜村)	5月26日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
19	建設交通部	担い手育成基盤整備事業　会塚地区	横手市(旧雄物川町)	12月16日	試掘	事業地内に新発見の遺跡１か所を確認した。
20	建設交通部	ふるさと農道緊急整備事業　北川尻地区	井川町	11月15･16日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
21	建設交通部	地域用水環境整備事業　天王長沼地区	潟上市(旧天王町)	11月8･9日	試掘	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
22	建設交通部	フォレストコミュニティ総合整備事業石塚線	由利本荘市(旧東由利町)	10月27日	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかった。
23	建設交通部	流域循環資源林整備事業　蒲台線	由利本荘市(旧東由利町)	10月27日	踏査	平成18年度事業地内で遺跡は確認されなかった。
24	建設交通部	高能率生産団地路網整備事業　川西線	由利本荘市(旧由利町)	10月27日	踏査	事業地内に周知の遺跡１か所を確認した。
25	教　育　庁	秋田中央高等学校長期整備計画	秋田市	8月31日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。今後試掘が必要な箇所を残している。

※平成17年度工事立会（平成17年４月～12月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	備　　考
1	国土交通省	一般国道７号琴丘能代道路建設事業	能代市(旧二ッ井町)	6月30日	周知の遺跡（関口館跡）
2	建設交通部	地方道路交付金事業　払戸箱井線	男鹿市	4月21日、6月22日、11月16日	周知の遺跡（十文字Ⅳ遺跡）
3	建設交通部	通常砂防事業　麓沢地区	羽後町	5月30日、6月13日	周知の遺跡（田代館跡）
4	農林水産部	ため池等整備事業　福島地区	羽後町	7月7日	周知の遺跡（馬場野遺跡）
5	農林水産部	担い手育成基盤整備事業　堀板地区	美郷町(旧千畑町)	9月1・2日	新発見の遺跡（西館遺跡）

第２節　遺跡確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

（１）地形を考慮したトレンチ及び試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、出来る限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。

（２）確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さなどは、実測図などにより記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況などは写真撮影する。

（３）使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

副　主　幹　　柴田陽一郎　栗澤光男

主任学芸主事　　利部　修

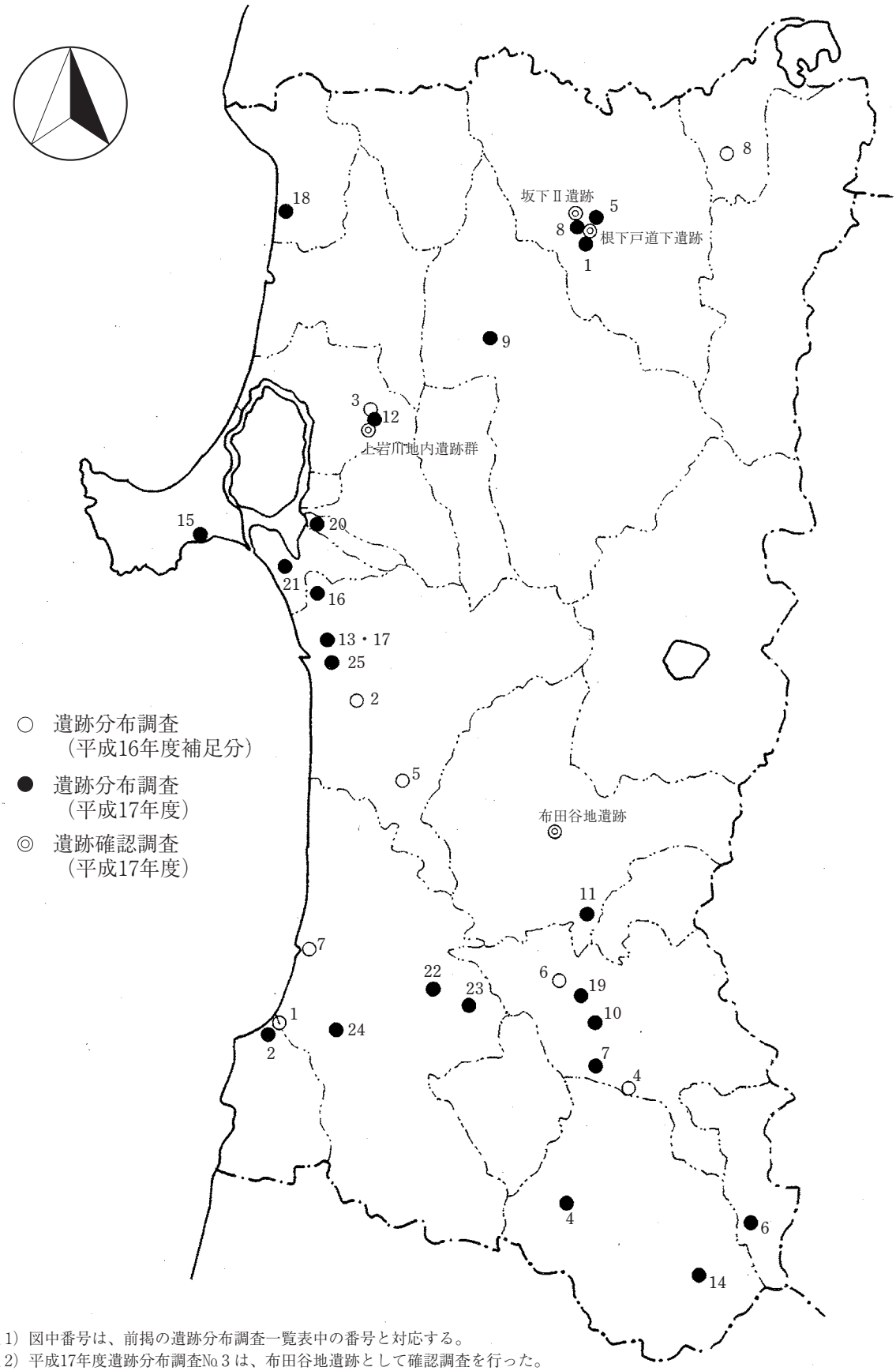
学 芸 主 事　　石澤宏基　伊藤　誠　開田猛夫　吉川寿朗　徳永辰實　簗瀬圭二　山田徳道　山村　剛

文 化 財 主 事　　山田祐子

調査・研究員　　打矢泰之　海道澄子　片岡稔彦　菊地　亮　小松田博嗣　今野沙貴子　鈴木健一　深沢恵里子

５　調査対象遺跡及び事業名

No.	事　業　名	遺跡名（所在地）	調　査　期　間	調　査　担　当　者
①	日本海沿岸東北自動車道（大館～小坂間）建設事業	坂下Ⅱ遺跡（大館市）	平成17年11月７日～11月18日	栗澤・山村・海道・片岡・菊地
②	一般国道７号大館西道路建設事業	根下戸道下遺跡（大館市）	平成17年11月16日～12月９日	柴田・石澤・伊藤・吉川・徳永・簗瀬・山田(徳)・山田(祐)・打矢・小松田・鈴木・深沢
③	高速交通関連道路整備事業 県道能代五城目線	上岩川地内遺跡群 鹿渡渉Ⅰ・鹿渡渉Ⅱ・樋向Ⅰ・樋向Ⅱ・樋向Ⅲ・大沢Ⅰ・大沢Ⅱ遺跡 (三種町－旧琴丘町)	平成17年８月30日～10月25日	柴田・利部・伊藤・小松田
④	一般国道13号 神宮寺バイパス建設事業	布田谷地遺跡（大仙市－旧神岡町）	平成17年11月14日～12月２日	開田・打矢・今野



注１）図中番号は、前掲の遺跡分布調査一覧表中の番号と対応する。
注２）平成17年度遺跡分布調査№３は、布田谷地遺跡として確認調査を行った。

第１図　遺跡分布調査・遺跡確認調査地点図

第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

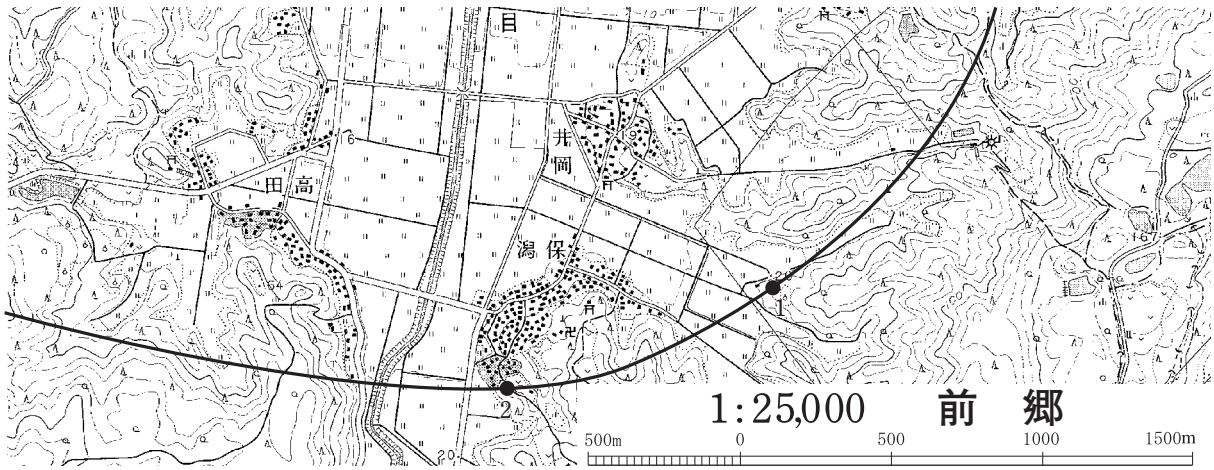
１　平成16年度補足分

（１）一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業

本荘市（現由利本荘市）の本荘ＩＣから仁賀保町（現にかほ市）の仁賀保ＩＣに至る事業予定地12.5kmのうち、路線中心杭№24～70と用地買収が済んだNo.260、No.300付近について、試掘を行った。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。今後も事業の進捗状況に合わせ、試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	西目町西目字前ヶ沢	・・	果樹園	なし	
2	・・・・	西目町西目字清水沢	・・	山林	なし	
3	・・・・	仁賀保町両前寺	・・	山林	なし	



第２図　一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業　遺跡分布調査位置図（１）

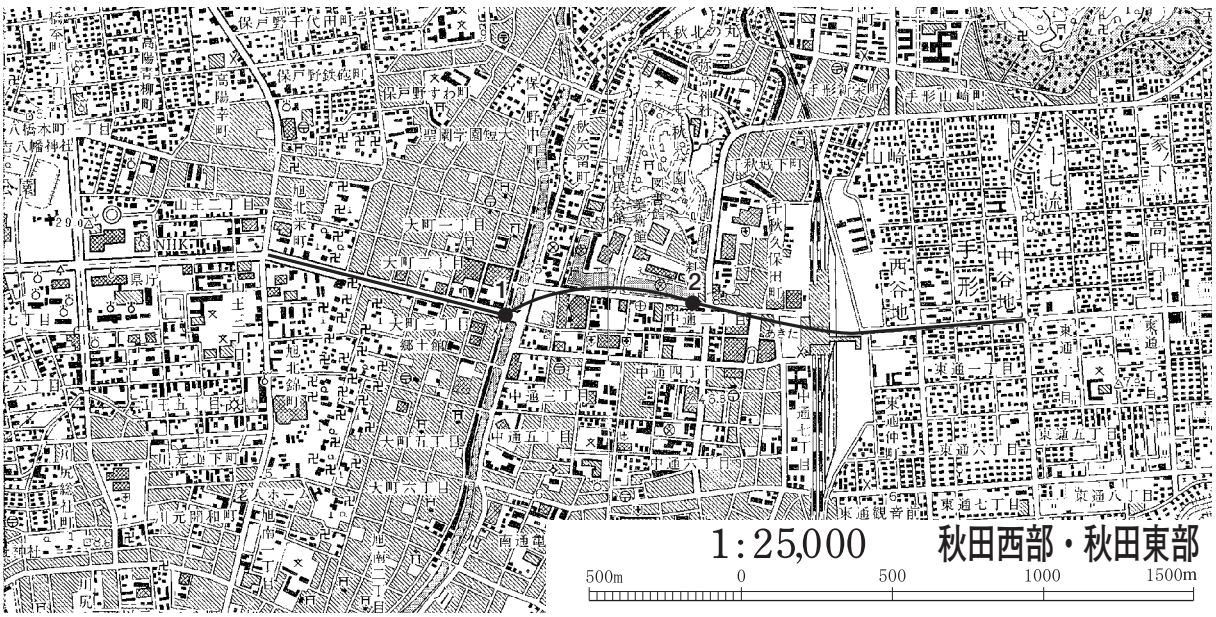
第３図　一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業　遺跡分布調査位置図（２）

（２）秋田中央道路整備工事

秋田市旭北錦町を起点に、秋田市手形西谷地を終点とする工事延長2.41kmの事業予定地のうち、大町避難口と千秋公園避難口の２か所について試掘を行った。

調査の結果、大町避難口では、明治期の護岸工事跡と陶磁器を検出した。久保田城期以前に遡る遺構・遺物は確認できないことから、埋蔵文化財対応は不要とした。千秋公園避難口の方は、久保田城の内堀部分と推測されるが、砂層が厚く、２ｍ以上掘り下げることが不可能であった。そのため、工事施工の対応を工事立会とし、その際に遺構や遺物の有無を確認することとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	秋田市大町二丁目	・・	駐車場	なし	明治期の護岸工事跡
2	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	近世	公園	なし	周知の遺跡



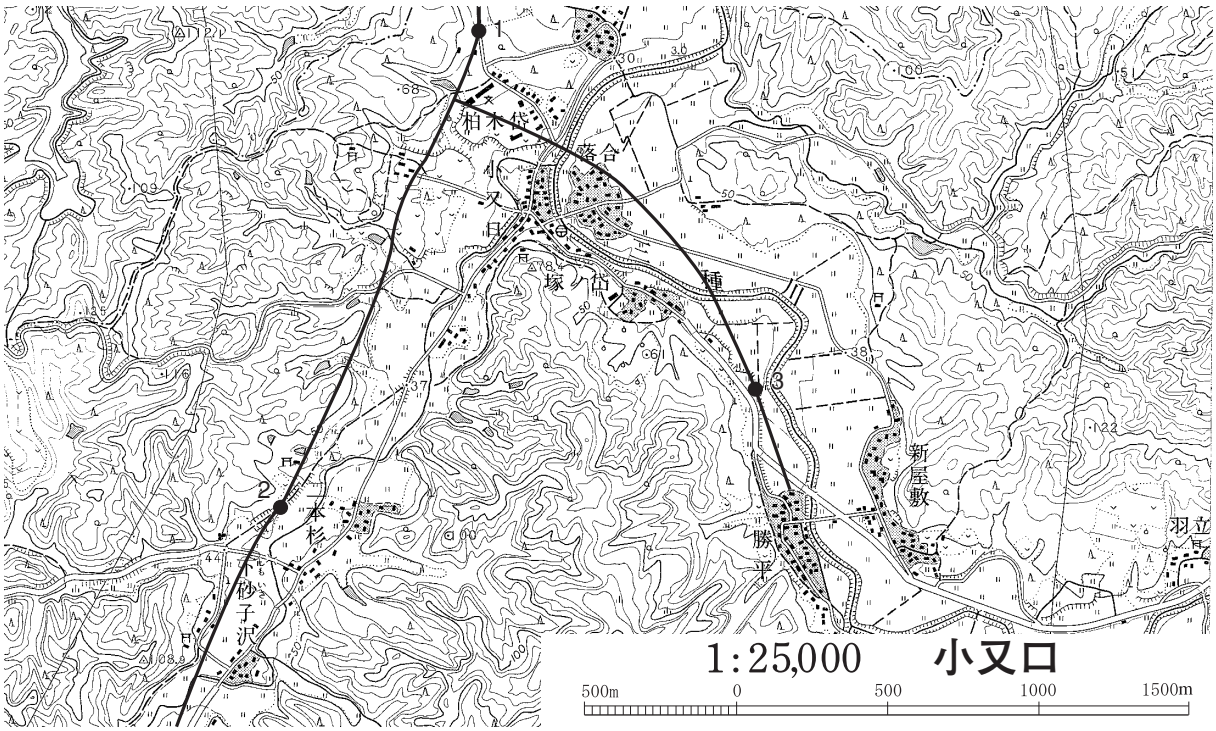
第４図　秋田中央道路整備工事　遺跡分布調査位置図

（３）高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線・県道琴丘上小阿仁線

琴丘町（現三種町）上岩川を起点とし、下砂小沢に至る能代五城目線と上岩川小学校の南側から新勝平橋付近に至る琴丘上小阿仁線の事業予定地を踏査した。

能代五城目線は周知の遺跡（柏木岱遺跡・向台遺跡）が路線にかかる予定である。山裾の丘陵地で平坦面が続いており、二本杉付近では、頁岩片の散布が確認できた。琴丘上小阿仁線は、三種川岸の第一段目の河岸段丘を通る。いずれも用地の取得状況に応じて試掘をする必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	柏木岱遺跡	琴丘町上岩川字柏木岱	縄文	山林	なし	周知の遺跡
2	・・・・	琴丘町上岩川字大沢	・・	山林	なし	
3	・・・・	琴丘町上岩川字勝平	・・	水田	なし	



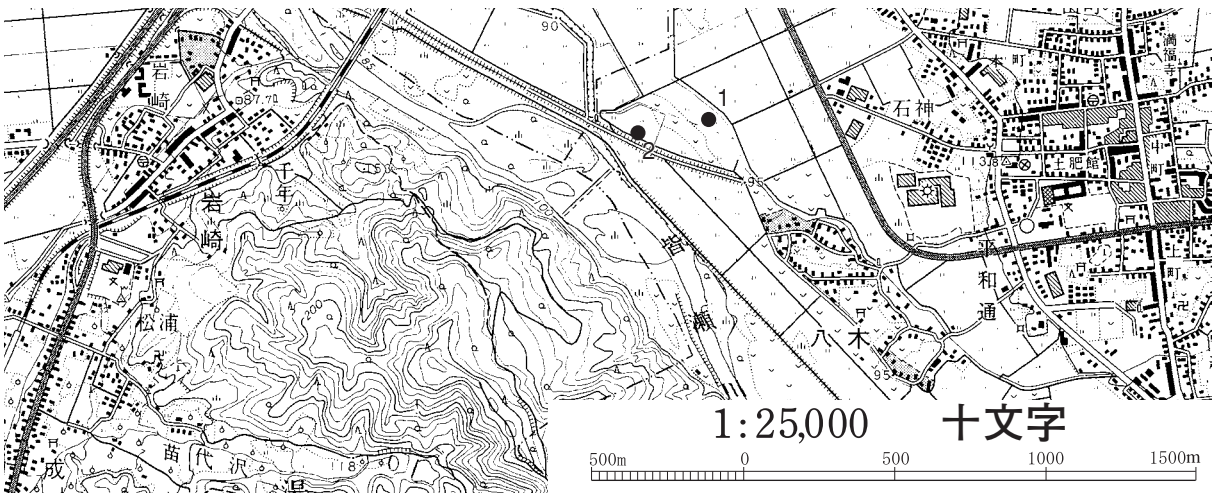
第５図　高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線・琴丘上小阿仁線　遺跡分布調査位置図

（４）平鹿平野農業水利事業　皆瀬頭首工建設工事

増田町（現横手市）大字八木地区で実施されている皆瀬頭首工建設工事である。事業予定地区について試掘した。

調査対象地は、周知されている八木遺跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	増田町八木字下川原	・・	水田	なし	
2	・・・・	増田町八木字下川原	・・	水田	なし	



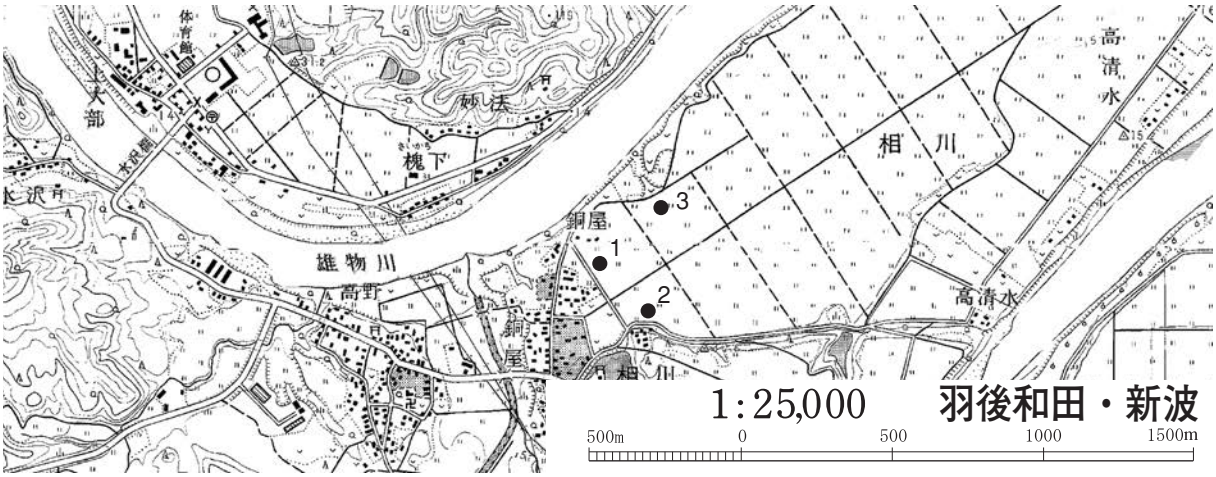
第６図　平鹿平野農業水利事業　皆瀬頭首工建設工事　遺跡分布調査位置図

（５）担い手育成基盤整備事業　銅屋地区

雄和町（現秋田市）銅屋地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積180.1ha、平成21年度まで６か年の事業である。このうち平成17年度事業予定地区について試掘した。

調査の結果、事業予定地で新発見の遺跡１か所を確認した。小谷地遺跡は、地山粘土層の直上で縄文土器を１点検出したことにより確認した。事業地区外の南側丘陵部に縄文時代の集落があると予想され、遺物出土地点は、低地に流入した遺物包含層の末端にあたると考えられる。工事施工の対応については、施工計画が遺物包含層の深さに至らないことから工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	雄和町相川字小谷地	・・	水田	なし	
2	小谷地遺跡	雄和町相川字小谷地	縄文	水田	縄文土器	新発見の遺跡
3	・・・・	雄和町相川字小谷地	・・	水田	なし	



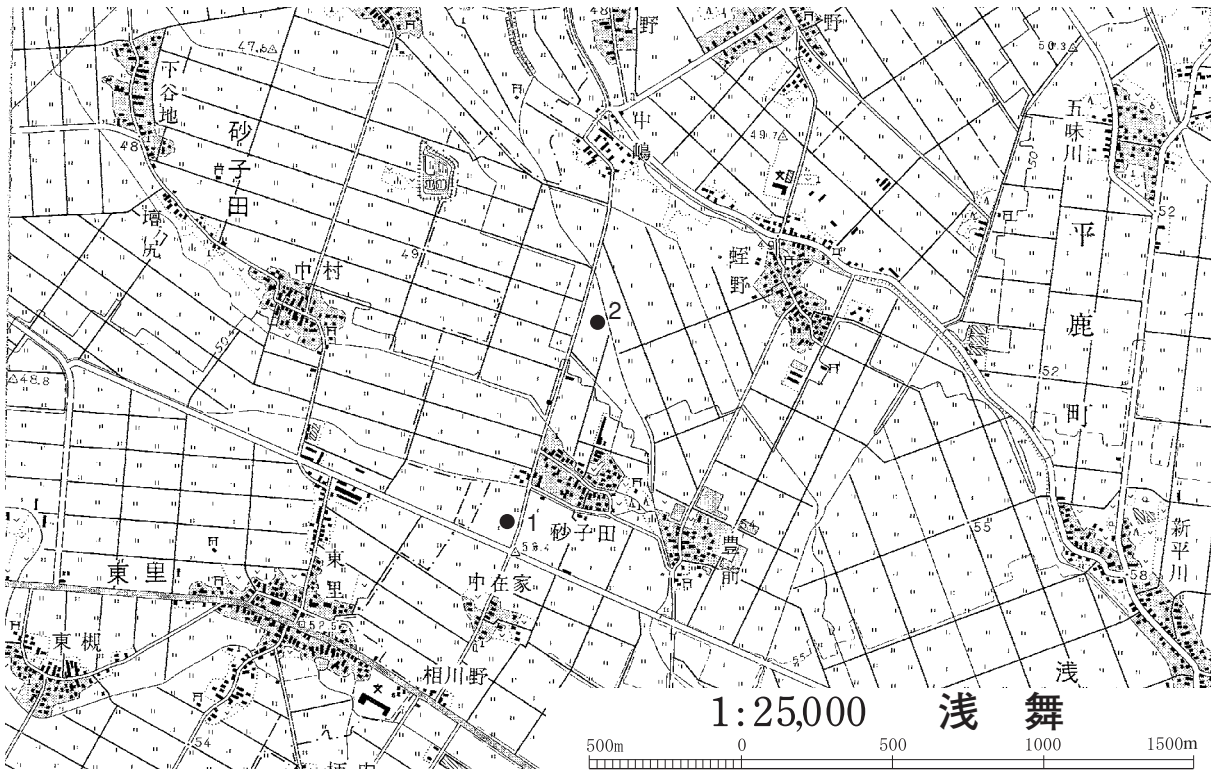
第７図　担い手育成基盤整備事業　銅屋地区　遺跡分布調査位置図

（６）担い手育成基盤整備事業　里見地区

平鹿町（現横手市）里見地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積345.0ｈａ、平成18年度まで７か年計画の事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡を１か所を発見した。砂子田遺跡は、溝跡４条、土坑７基、柱穴19基、縄文土器片２点、土師器片37点、須恵器片３点の検出により確認した。工事施工が遺構確認面の深さに及ぶ排水路部分については発掘調査が必要である。その他は、工事施工計画が遺構確認面の深さに至らないことから工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	砂子田遺跡	平鹿町樽見内字砂子田	縄文・古代	水田	溝跡・土坑・柱穴・縄文土器・土師器・須恵器	新発見の遺跡
2	・・・・	平鹿町樽見内字砂子田	・・	水田	なし	



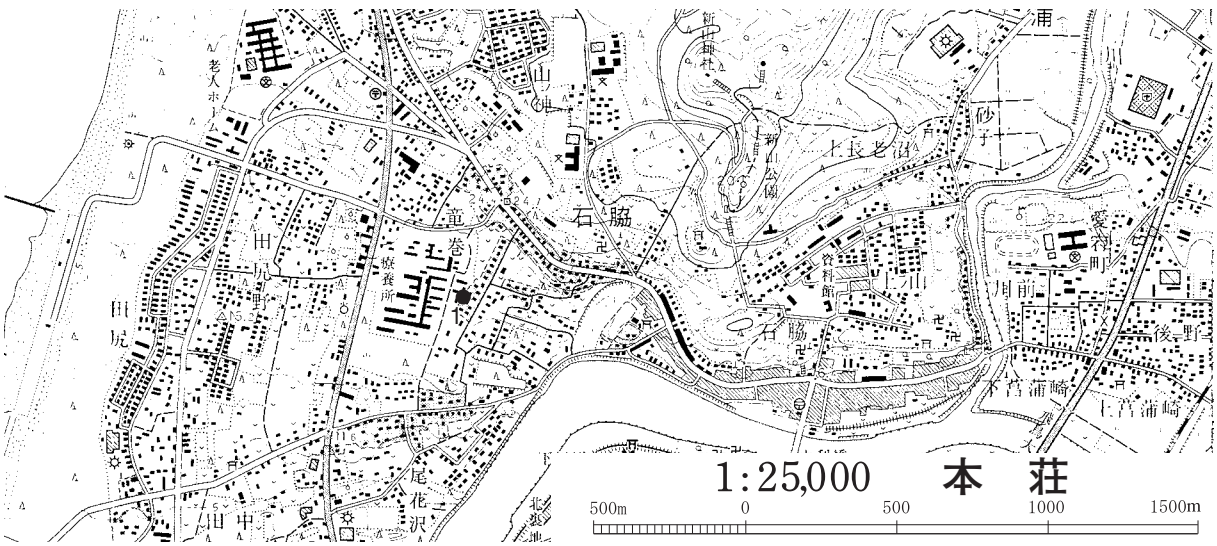
第８図　担い手育成基盤整備事業　里見地区　遺跡分布調査位置図

（７）旧本荘養護学校校舎解体工事

本荘市（現由利本荘市）で予定されている旧秋田県立本荘養護学校校舎解体工事である。事業予定地は、周知されている田尻遺跡、田尻野遺跡の近接地であることから踏査及び試掘をした。

調査の結果、事業地内で遺跡は確認されなかった。工事施工の対応としては、慎重工事とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	本荘市竜巻	・・	学校敷地	なし	



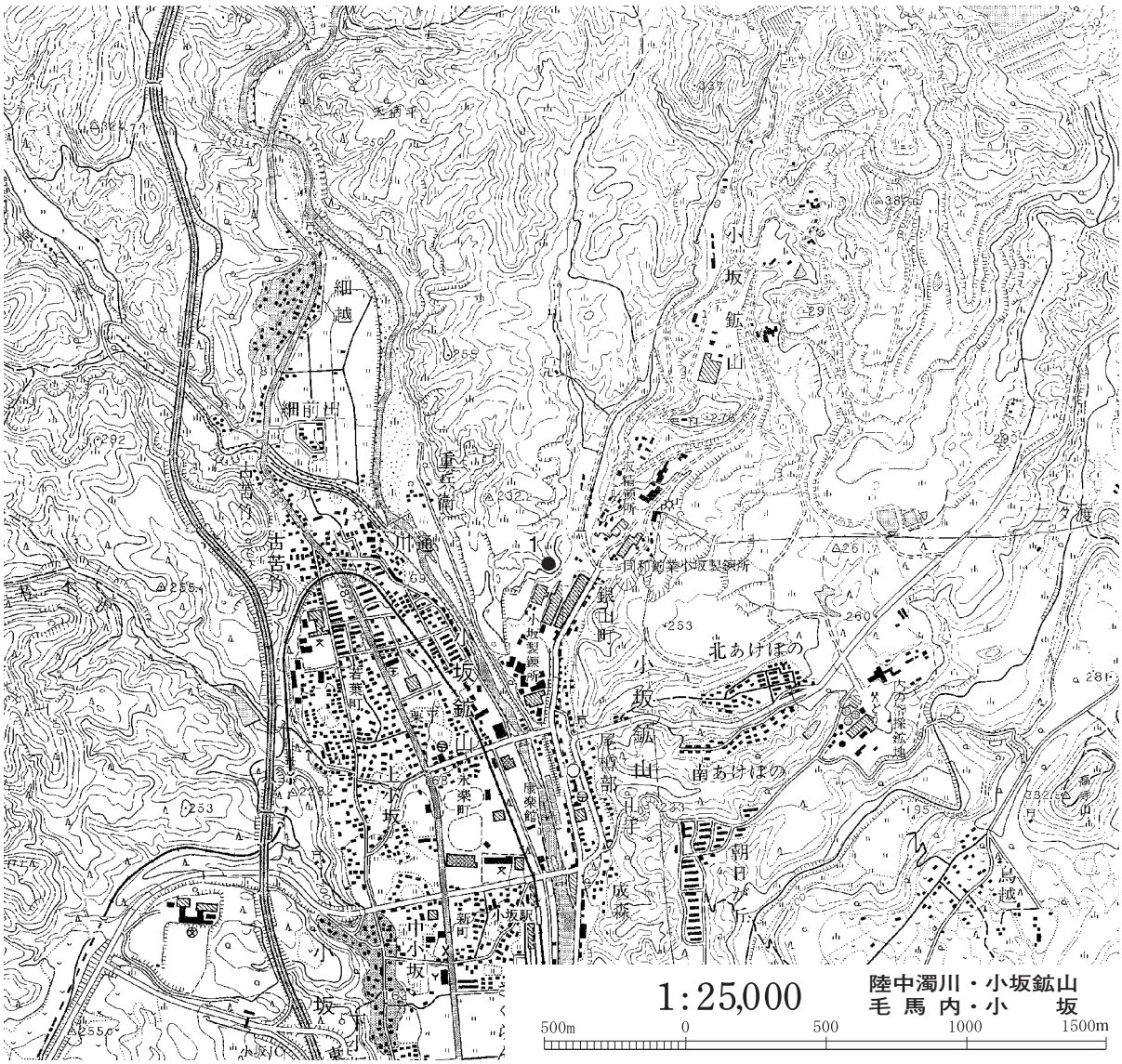
第９図　旧本荘養護学校校舎解体工事　遺跡分布調査位置図

（８）小坂製錬分析棟裏造成工事

小坂町小坂製錬所地内で計画されている工場用地造成工事区域内で試掘調査を実施した。

調査対象地は、周知されている下大谷地遺跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地で土坑と石器、十勝沖地震で倒壊した明治期の中煙突が発見され、小坂鉱山及び小坂町の近代史上極めて貴重な遺構が遺存していることを確認した。周知の下大谷地遺跡が広がり、新たに近代の複合遺跡であることを確認した。調査結果をもとに原因者と協議し、発掘調査を実施し記録保存の措置をとることとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	下大谷地遺跡	小坂町小坂鉱山字杉沢	縄文・近代	山林	土坑・石器・中煙突基礎及び付属施設	周知の遺跡



第10図　小坂製錬分析棟裏造成工事　遺跡分布調査位置図

２　平成17年度分

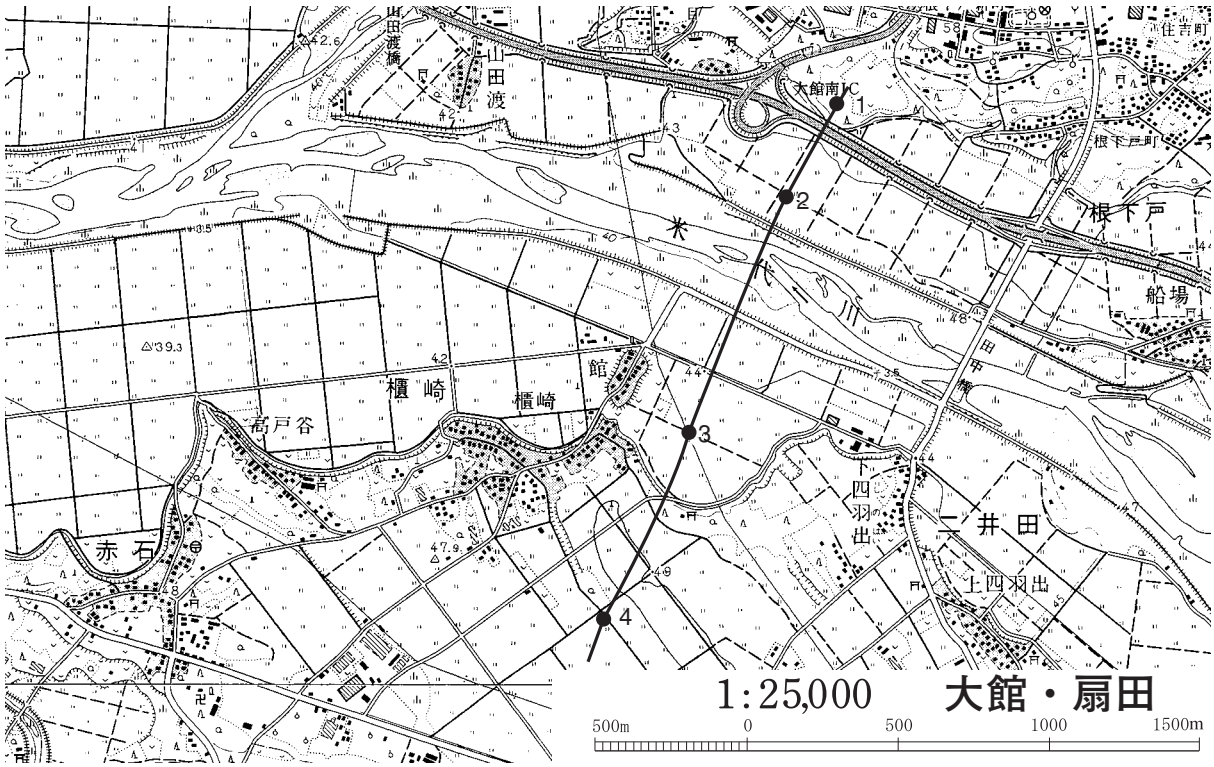
（１）一般国道７号大館西道路建設事業

大館市根下戸新町地区の大館南ＩＣ建設予定地から南南西方向に米代川を越えて、主要地方道比内田代線に至る大館西道路１９工区建設工事予定地に対して、平成15年度に続いて試掘調査を実施した。調査対象地は北から、鳥越段丘面、米代川両岸の氾濫源、毛馬内段丘面とに大きく分かれる。前者は大館南ＩＣ建設予定地にあたり、過去に発掘調査が行われた根下戸道下遺跡・根下戸Ⅰ遺跡・根下戸Ⅱ遺跡・根下戸Ⅲ遺跡の一部が係る、もしくは隣接する。

調査の結果、大館南ＩＣ建設予定地北西側で土坑・焼土遺構各１基と剥片１点を検出した。これらは、その分布状況から周知の遺跡である根下戸道下遺跡の南東側の広がりと判断できる。その他の地点では、遺構・遺物は確認できなかった。ただし、工事予定地南側の毛馬内段丘面においては、毛馬内火砕流堆積物の層厚が３ｍ以上に達し、それ以下まで調査することができなかった。

今後、大館南ＩＣ建設予定地では、今後の対応を協議するため、確認調査が必要である。その他の地点は、今回遺跡を確認できなかったことから、埋蔵文化財対応は不要とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根下戸道下遺跡	大館市根下戸新町	縄文	畑地・山林	土坑ほか・剥片	周知の遺跡
2	・・・・	大館市櫃崎字赤沼	・・	水田	なし	
3	・・・・	大館市櫃崎字大道下	・・	水田	なし	
4	・・・・	大館市櫃崎字出川道上	・・	水田	なし	



第11図　大館西道路建設事業　遺跡分布調査位置図

（２）一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業

由利本荘市（旧本荘市）の本荘ＩＣからにかほ市（旧仁賀保町）の仁賀保ＩＣに至る事業予定地12.5kmのうち、路線中心杭№75～82の部分と既に調査を実施している№55～75の計画が変更になった部分について、試掘を行った。

周知の遺跡である前田表遺跡が路線にかかっていたが、調査の結果、事業予定地内に遺構・遺物は確認されなかった。

なお、立沢遺跡にかかる部分については、ＴＤＫ秋田工場建設の際に発掘調査も行われているが、

№.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	前田表遺跡	にかほ市両前寺字前田表	古代	水田	なし	周知の遺跡
2	・・・・	にかほ市両前寺字井戸尻	・・	山林	なし	

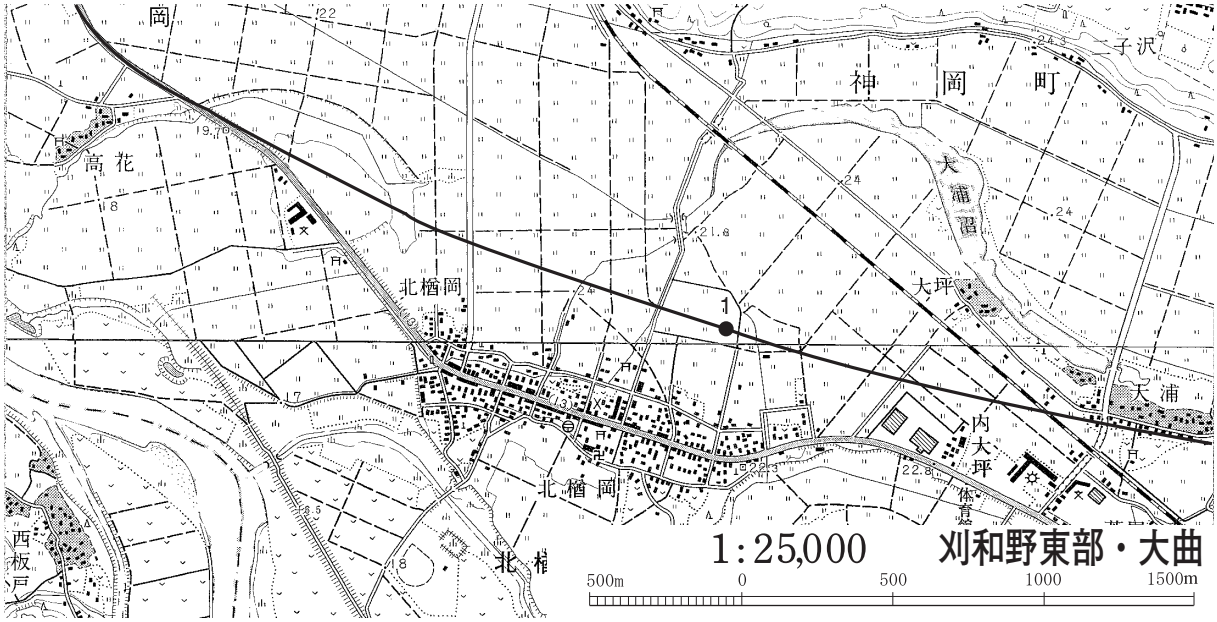
第12図　一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業　遺跡分布調査位置図

（３）一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

大仙市花館地区（旧大曲市）から北楢岡地区（旧神岡町）に至る事業予定地9.6kmのうち、路線中心杭№250～290について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡１か所を確認した。布田谷地遺跡は、土坑や須恵器片・土師器片の検出により確認した。今後、確認調査を実施し、その結果をもとに工事施工時の対応を協議することとした。本事業については、今後も事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

№.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	布田谷地遺跡	大仙市北楢岡字布田谷地	平安	水田	土坑・須恵器・土師器	新発見の遺跡



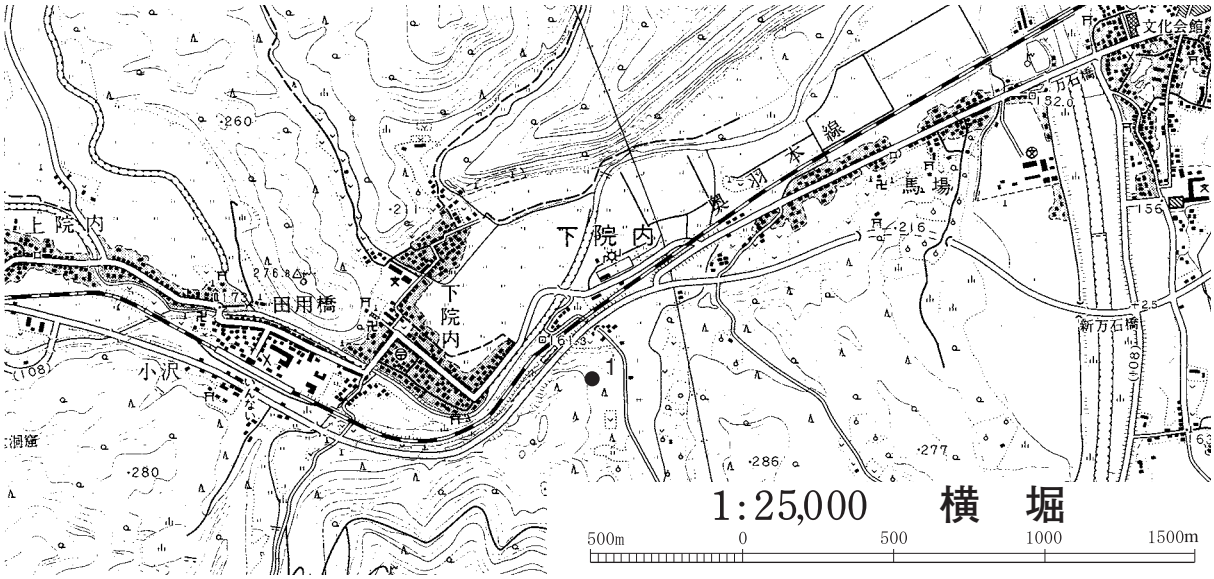
第13図　一般国道13号神宮寺バイパス建設事業　道路分布調査位置図

（４）一般国道13号院内道路建設事業

湯沢市の旧雄勝町上院内地区、下院内地区に建設が予定されている院内道路の事業予定地を踏査した。計画では周知の遺跡の臼館跡が路線に係り、終点側のトンネル坑口となる部分については開削される予定である。

踏査の結果、館地形が良好に残っており、計画が変更にならなければ、埋蔵文化財の対応が必要となる。また、現道とトンネルを結ぶ新規ルートも台地上の平坦面に計画されており、事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	臼館跡	湯沢市下院内字焼山	中世	山林	郭・空堀	周知の遺跡



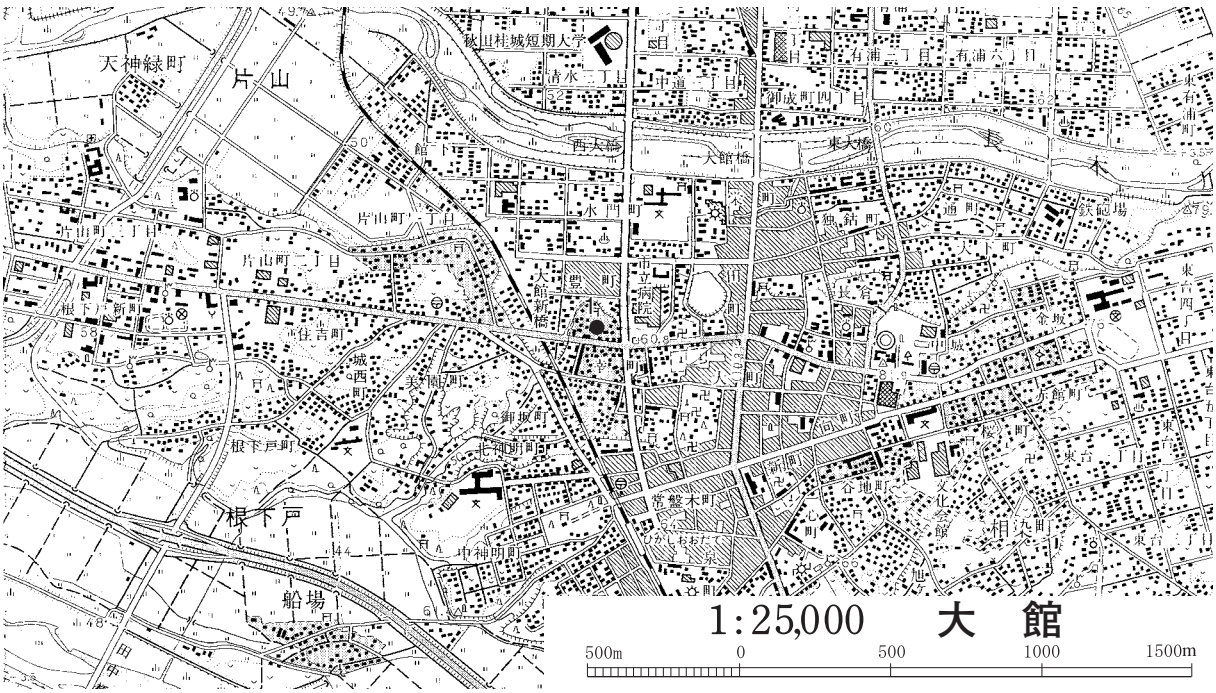
第14図　一般国道13号院内道路建設事業　遺跡分布調査位置図

（５）片山自歩道事業

大館市片山地区の国道７号線歩道拡幅工事予定地に周知の遺跡である土飛山館跡が係ることから、試掘調査を実施した。

調査の結果、古代の竪穴住居跡、土坑、土師器等を確認した。現状で、調査対象地点の北隣には空堀の痕跡が確認できることも勘案すると、本遺跡は中世の城館跡と古代の集落跡が重複するものと推定できる。工事による掘削範囲は原則として発掘調査等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	土飛山館跡	大館市豊町	古代・中世	宅地	竪穴住居跡・土坑・柱穴・土師器	周知の遺跡



第15図　片山自歩道事業　遺跡分布調査位置図

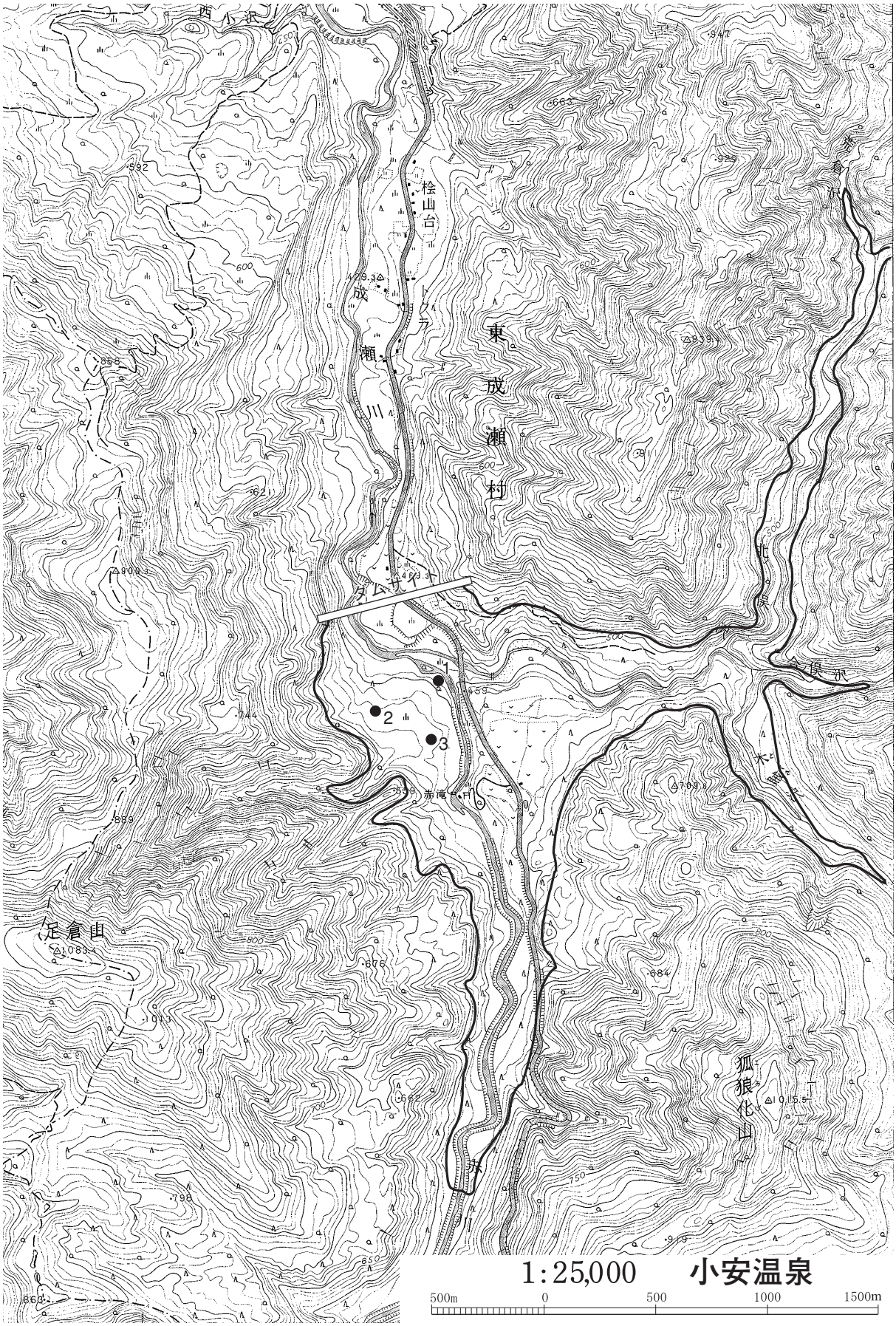
（６）成瀬ダム建設事業

東成瀬村で進められている成瀬ダム建設事業の事業予定地のうち、常時満水域となる赤川の左岸部を試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡１か所を確認した。白岩小沢遺跡は剥片の散布により確認した。今後、再試掘を行い、より確かな遺跡位置と内容を見極めた上で、確認調査をする必要がある。

また、赤滝広場周辺でも、石器が採取できたことから、試掘により、遺跡の有無を確かめる必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	白岩小沢遺跡	東成瀬村椿川字白岩小沢	縄文	山林	剥片	新発見の遺跡
2	・・・・	東成瀬村椿川字白岩小沢	・・	山林	なし	
3	・・・・	東成瀬村椿川字白岩小沢	・・	山林	なし	



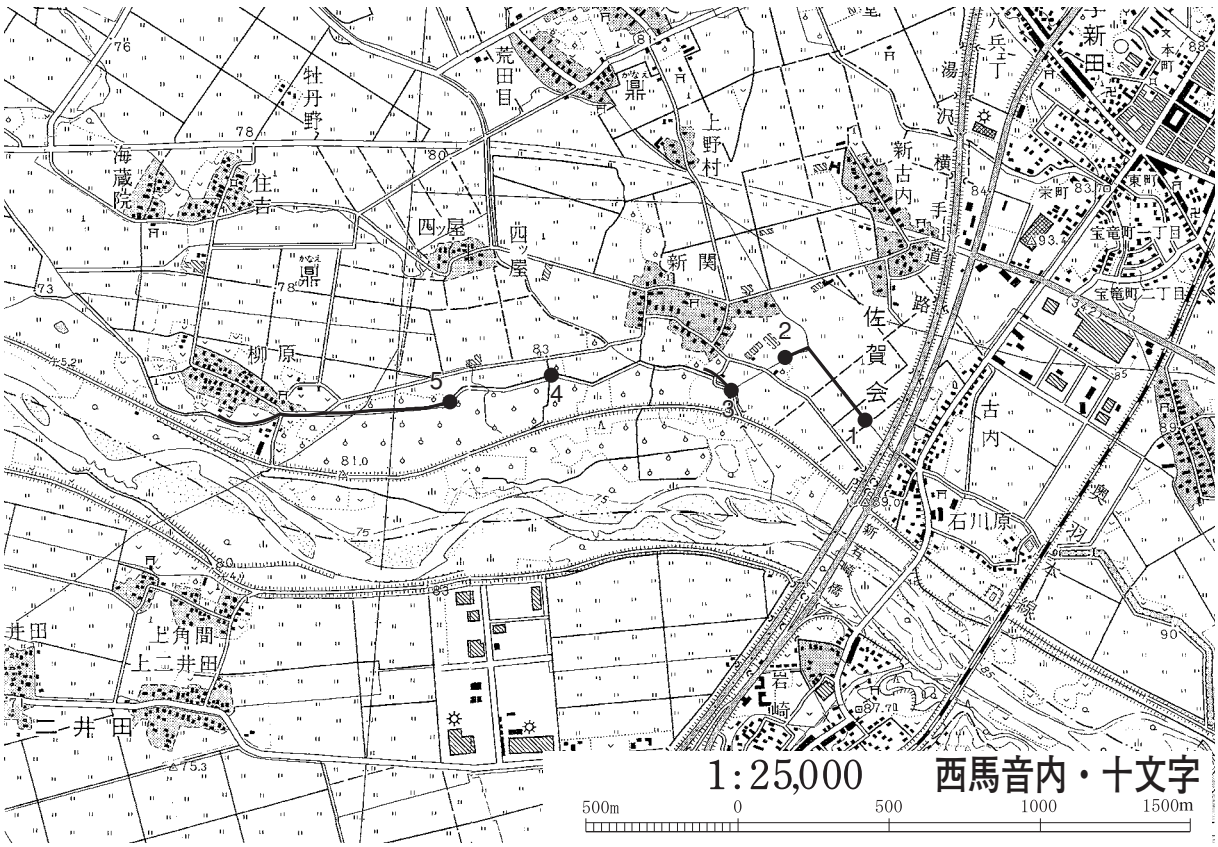
第16図　成瀬ダム建設事業　遺跡分布調査位置図

（７）平鹿平野農業水利事業　皆瀬６号幹線用水路工事

工事は横手盆地南部を北西方向に流れる皆瀬川右岸沿いの全延長5.7㎞の既設用水路の改修および管理用道路の造成である。平成17年度工事予定区域約0.7㎞を踏査し、工事区域内に周知の遺跡である前田城跡が係ることを確認した。当該地点を含め、工事区域内の用水路沿いの管理用道路部分合計５地点の試掘調査を実施した。

調査の結果、前田城跡に係る地点は、開田により大きく削平されていることを確認した。当該地点では、攪乱土中から土師質の土器破片１点を検出したものの、遺構は確認できなかった。その他の試掘地点はいずれも皆瀬川の旧流路もしくは氾濫源に相当し、遺構・遺物は確認できなかった。これらの地点には遺跡は分布しないものと判断した。前田城跡に係る地点については、遺跡は既に大きく削平されていると推定されることと、工事が既設水路の改修を主体とし、大規模な掘削を伴わないことから、工事立会の対応とした。残りの区間については、埋蔵文化財対応は不要と判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	前田城跡	横手市十文字町左賀会字新山道添	中世	水田	土師質土器	周知の遺跡
2	・・・・	横手市十文字町左賀会字新山前	・・	水田・果樹園	なし	
3	・・・・	横手市十文字町左賀会字上明戸	・・	水田・果樹園	なし	
4	・・・・	横手市十文字町左賀会字下川原	・・	水田・果樹園	なし	
5	・・・・	横手市十文字町左賀会字下川原	・・	水田・果樹園	なし	



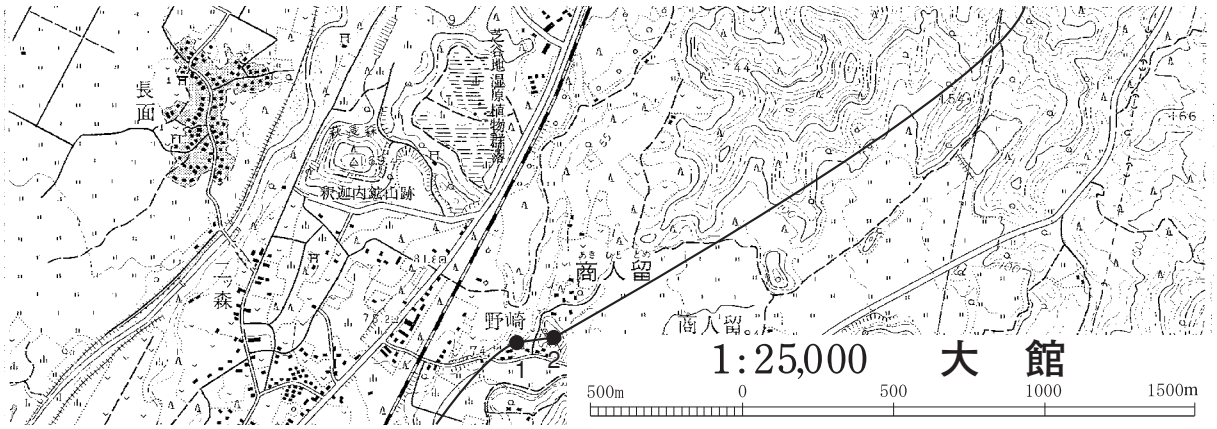
第17図　平鹿平野農業水利事業　皆瀬６号幹線用水路　遺跡分布調査位置図

（８）日本海沿岸東北自動車道（大館～小坂）建設事業

大館市の大館北ＩＣから東北自動車道に接続する14.5kmのうち、大館市の本線予定地の一部箇所について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡１か所を事業予定地に確認した。坂下Ⅱ遺跡は、縄文時代の石器、平安時代の土師器、須恵器の出土および焼土遺構の検出により確認した。工事施工の対応としては、確認調査を行い、今後の対応を協議することとした。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	坂下Ⅱ遺跡	大館市商人留字坂下	縄文・平安	畑地・宅地	焼土遺構・石器・土師器・須恵器	新発見の遺跡
2	・・・・	大館市商人留字坂下	・・	山林	なし	



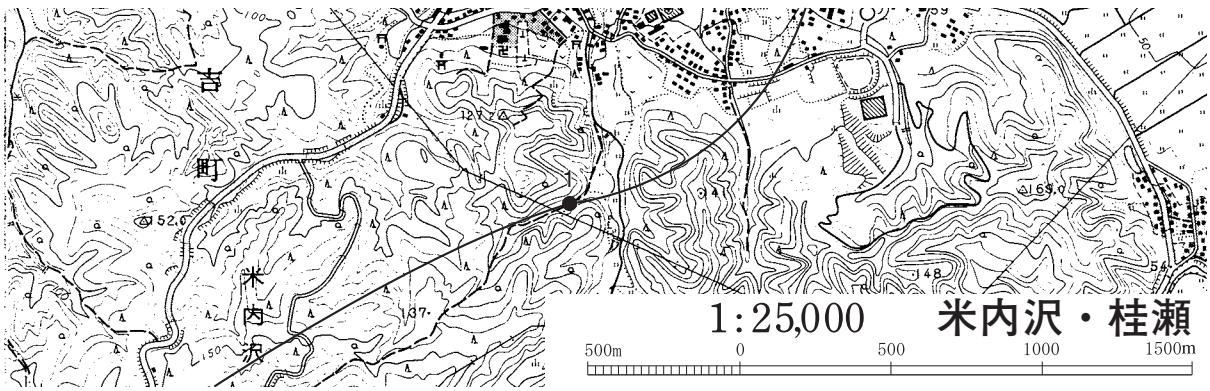
第18図　日本海沿岸東北自動車道建設事業　大館小坂間　遺跡分布調査位置図

（９）国道道路改築事業　国道285号滝ノ沢バイパス

北秋田市の旧森吉町米内沢で予定されている滝ノ沢バイパス建設事業予定地を踏査した。

計画では、周知の遺跡である米内沢城跡が倉ノ沢トンネルの建設に際し、坑口部分を開削することになる。今後、事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	米内沢城跡	北秋田市米内沢字倉ノ沢出口	中世	山林	なし	周知の遺跡



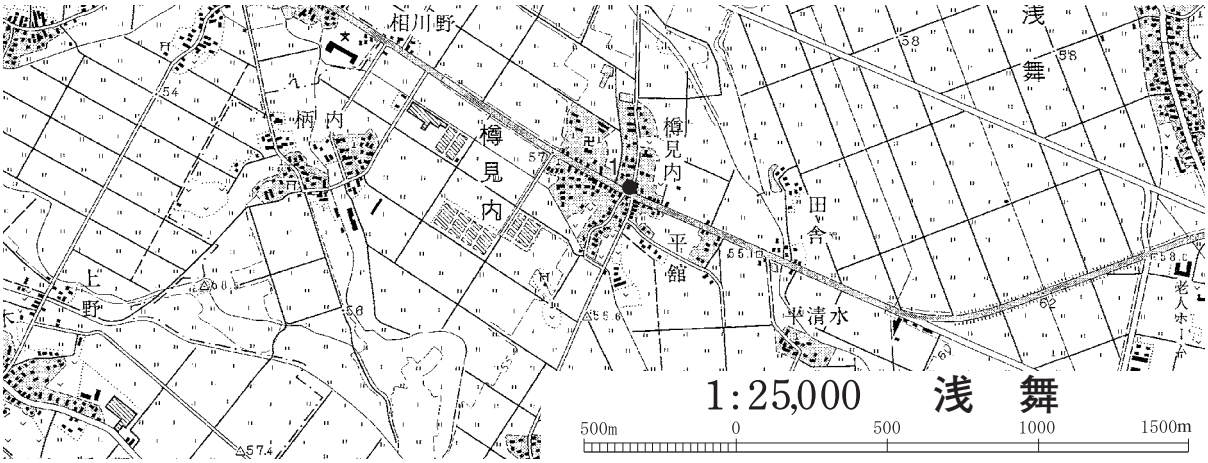
第19図　国道道路改築事業　国道285号滝ノ沢バイパス　遺跡分布調査位置図

（10）特定交通安全施設等整備事業　国道107号

横手市（旧平鹿町）樽見内地区で道路改良事業が予定されている国道107号について、路線中心杭№１～12の区間を試掘した。

調査の結果、周知の遺跡１か所が事業地内に係ることを確認したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。今後、用地買収の進捗に合わせ、中心杭№13以西の試掘が必要である。

№	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	樽見内古館跡	横手市平鹿町樽見内	古代	水田・宅地	なし	周知の遺跡



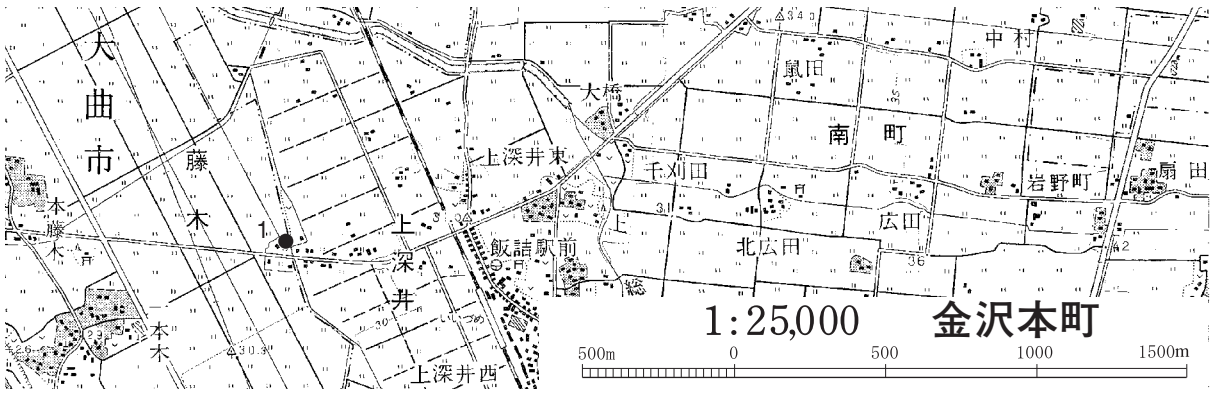
第20図　特定交通安全施設等整備事業　国道107号　遺跡分布調査位置図

（11）一般県道川西六郷線建設事業

大仙市（旧大曲市）藤木地内の事業予定地を試掘した。

調査の結果、周知の遺跡１か所が事業地内に係ることを確認した。旧水田に盛土造成された宅地部分を含め、水田造成時に削平を受けており、遺構・遺物とも確認できなかったことから、工事立会とした。

№	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	藤木遺跡	大仙市藤木字一本柳谷地	古代	水田	なし	周知の遺跡



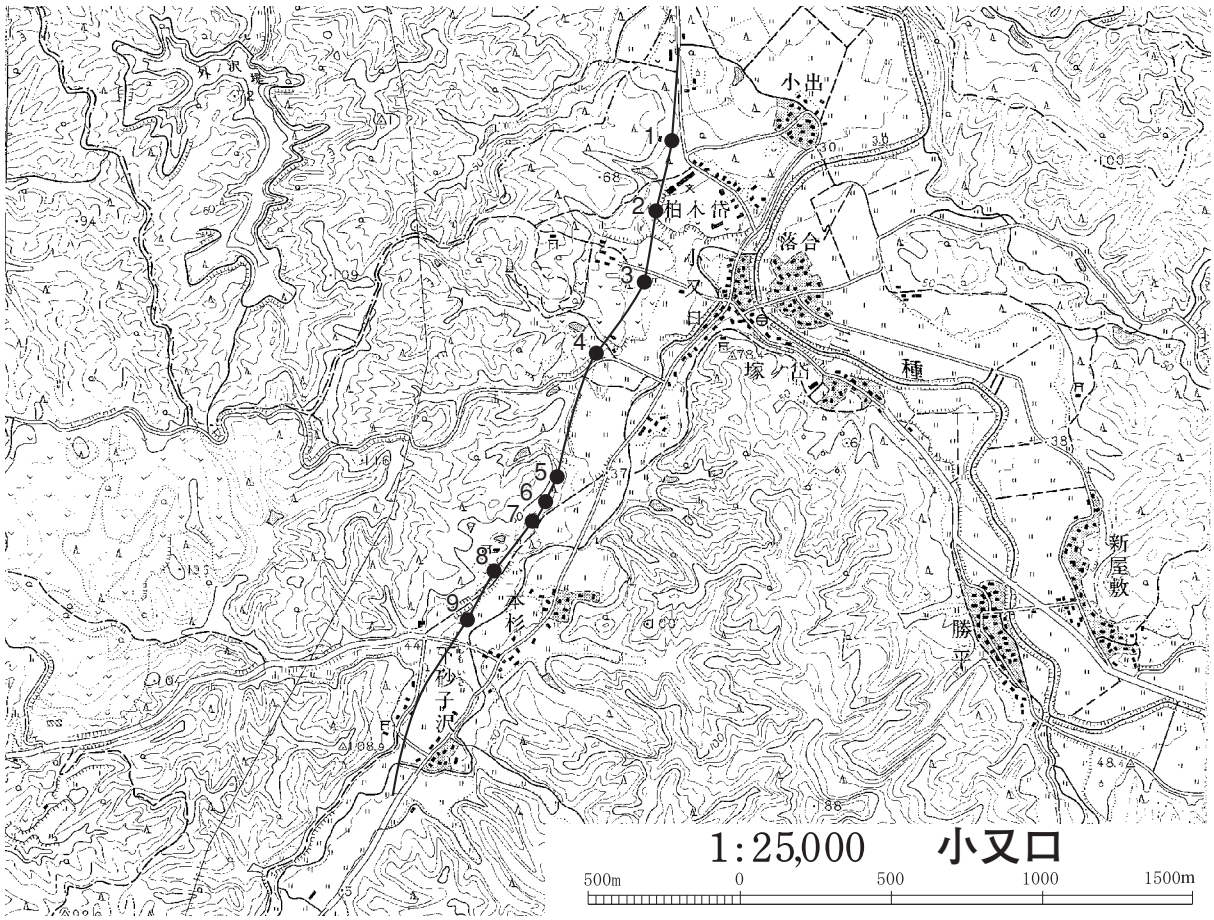
第21図　一般県道川西六郷線建設事業　遺跡分布調査位置図

（12）高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線

三種町（旧琴丘町）上岩川地区で道路改良事業が予定されている能代五城目線について、路線中心杭№１～101の区間を試掘した。

調査の結果、周知の遺跡２か所が事業地内に係ることと、新発見の遺跡７か所を確認した。周知の遺跡２か所については開田時の削平が明らかなこと等から慎重工事とし、新発見の遺跡７か所については確認調査を実施して対応を協議することとした。

№	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	柏木岱遺跡	三種町上岩川字柏木岱	縄文	山林	なし	周知の遺跡
2	鹿渡渉Ⅰ遺跡	三種町上岩川字鹿渡渉	縄文	山林	剥片	新発見の遺跡
3	向台遺跡	三種町上岩川字鹿渡渉	縄文	畑地	なし	周知の遺跡
4	鹿渡渉Ⅱ遺跡	三種町上岩川字鹿渡渉	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
5	樋向Ⅰ遺跡	三種町上岩川字樋向	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
6	樋向Ⅱ遺跡	三種町上岩川字樋向	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
7	樋向Ⅲ遺跡	三種町上岩川字樋向	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
8	大沢Ⅰ遺跡	三種町上岩川字大沢	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
9	大沢Ⅱ遺跡	三種町上岩川字大沢	縄文	山林	石器	新発見の遺跡



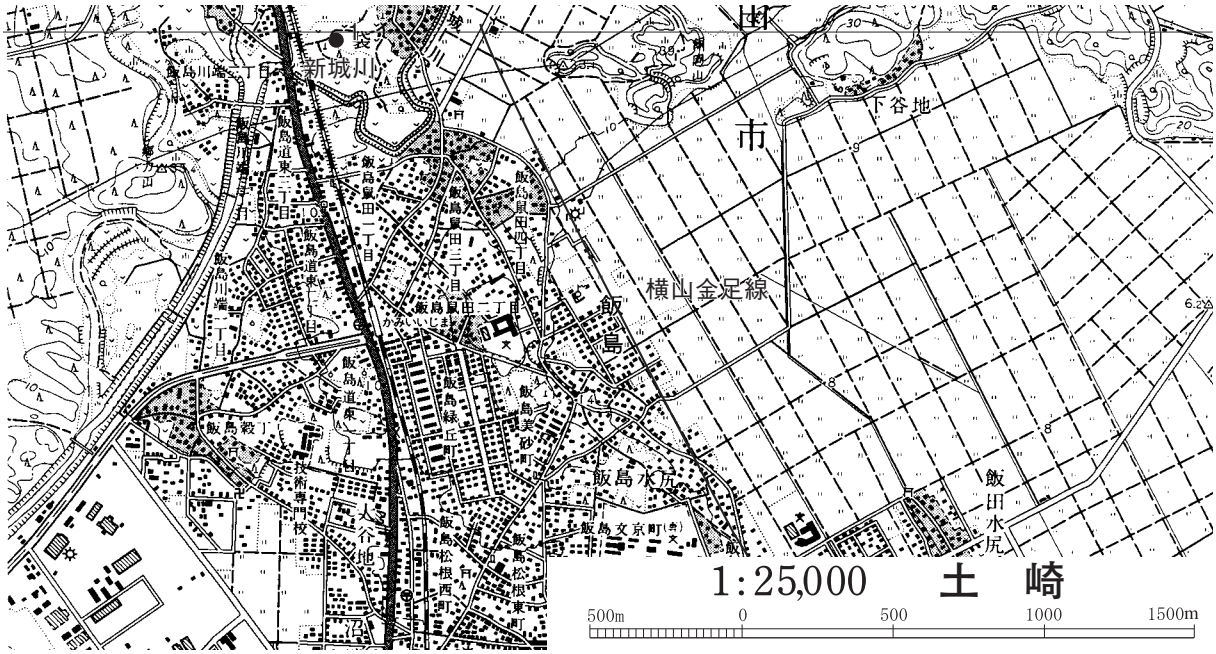
第22図　高速交通関連道路整備工事　県道能代五城目線　遺跡分布調査位置図

（13）都市計画街路工事　横山金足線

秋田市飯島地区で建設工事が進められている横山金足線について踏査し、地形と事業計画を照合した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	秋田市飯島	・・	宅地・畑地	なし	



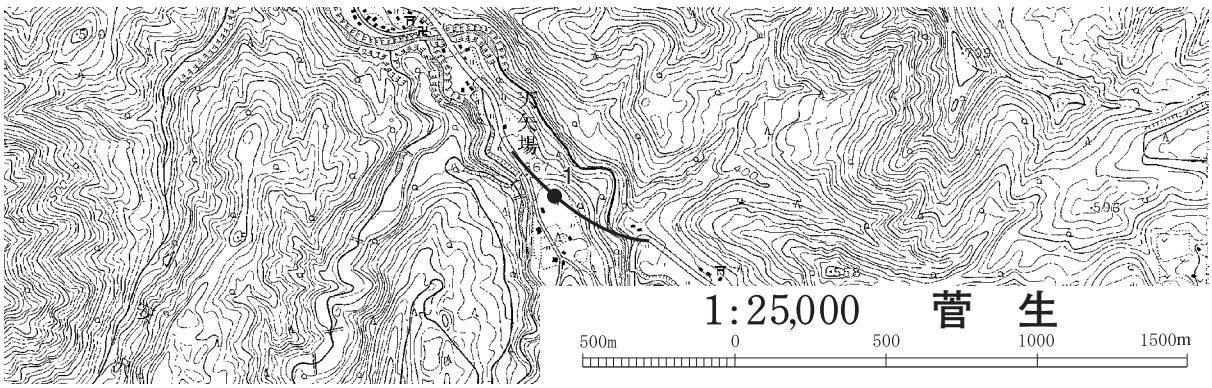
第23図　都市計画街路工事　横山金足線　遺跡分布調査位置図
広域基幹河川改修事業　新城川　遺跡分布調査位置図

（14）地方道路交付金事業　湯沢栗駒公園線

湯沢市高松地区で予定されている湯沢栗駒公園線の事業予定地で試掘を行った。

調査の結果、遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	湯沢市高松字天矢場	・・	水田	なし	



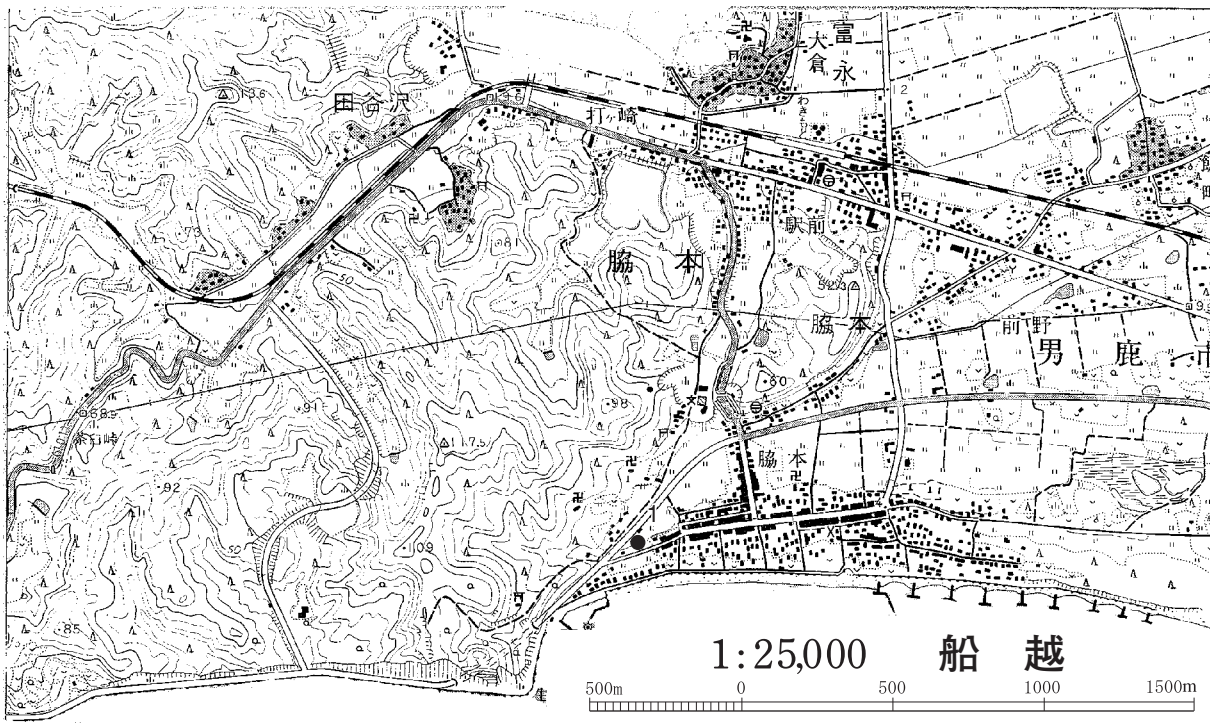
第24図　地方道路交付金事業　湯沢栗駒公園線　遺跡分布調査位置図

（15）重要港湾改修工事　臨港道路生鼻崎線

男鹿市脇本地区で道路改良事業が予定されている生鼻崎線について、路線中心杭№132付近を試掘した。

調査の結果、周知の遺跡１か所を確認した。今後、確認調査を行って対応を協議することとした。

№　遺跡名　所在地　時代　現況　遺構・遺物　備考
1　脇本遺跡　男鹿市脇本脇本字横町道上　中世　更地　整地面・木製品　周知の遺跡



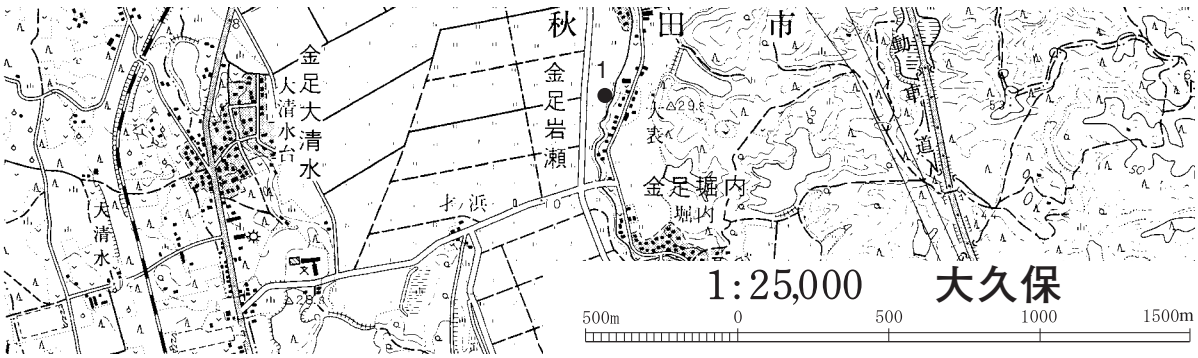
第25図　重要港湾改修工事　臨港道路生鼻崎線　遺跡分布調査位置図

（16）広域基幹河川改修事業　馬踏川

秋田市金足堀内地区で事業区域について踏査し、地形と事業計画を照合した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

№　遺跡名　所在地　時代　現況　遺構・遺物　備考
1　・・・・　秋田市金足堀内　・・　宅地　なし



第26図　広域基幹河川改修事業　馬踏川　遺跡分布調査位置図

（17）広域基幹河川改修事業　新城川（第23図）

秋田市飯島地区で予定されている河川改修事業である。用地買収済みの事業区域について踏査し、今後試掘を実施する箇所を選定した。

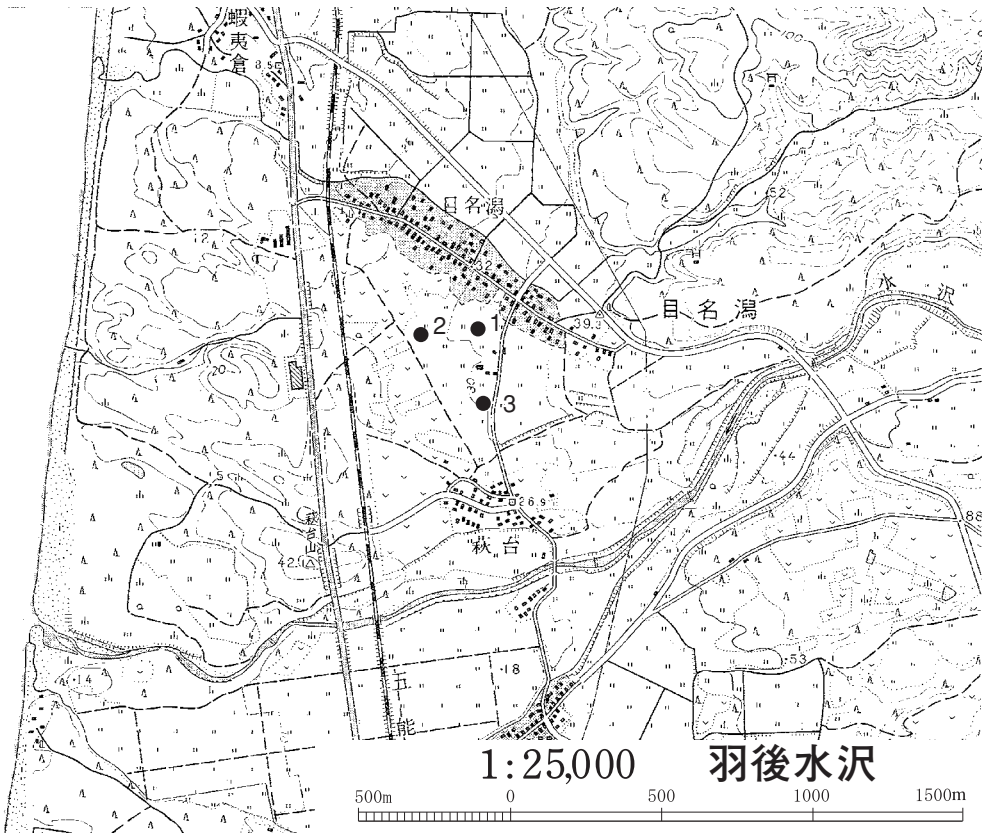
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	秋田市飯島	・・	水田・畑地	なし	

（18）担い手育成基盤整備事業　中渡地区

八峰町（旧峰浜村）中渡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積40.7ha、平成17年度の１か年計画の事業である。事業予定地について試掘した。

調査の結果、試掘地点２において直径25cm程度の柱穴様ピット２基を検出したほかは、事業予定地内に遺構・遺物は確認されなかった。検出した柱穴様ピットは平板測量により記録化したが、時期は不明であり、当該範囲は掘削深度が確認面に及ばないことから、埋蔵文化財の対応は不要と判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	八峰町目名潟字目名潟	・・	水田・畑地	なし	
2	・・・・	八峰町目名潟字目名潟	・・		柱穴様ピット	
3	・・・・	八峰町目名潟字目名潟	・・		なし	

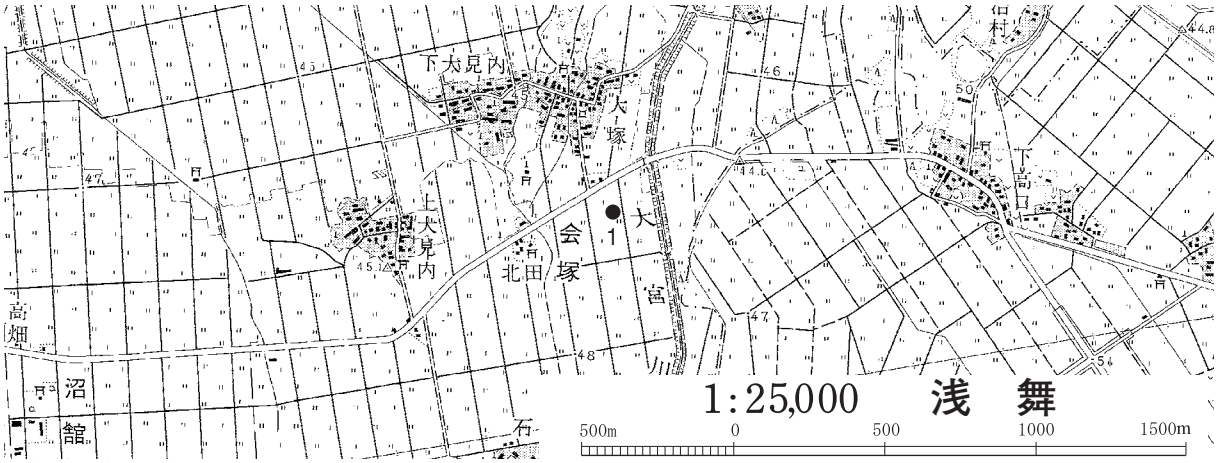


第27図　担い手育成基盤整備事業　中渡地区　遺跡分布調査位置図

(19) 担い手育成基盤整備事業　会塚地区

横手市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査によって新たに発見した会塚字田中遺跡の範囲を確定するための補足調査を行った。全体で11か所を試掘し、微高地部分で古代の掘立柱建物跡を構成すると推定できる柱穴群を確認した。当該遺跡については、幹排水路部分と一部の面工事部分については、発掘調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	会塚字田中遺跡	横手市雄物川町会塚字田中	古代	水田	柱穴	新発見の遺跡

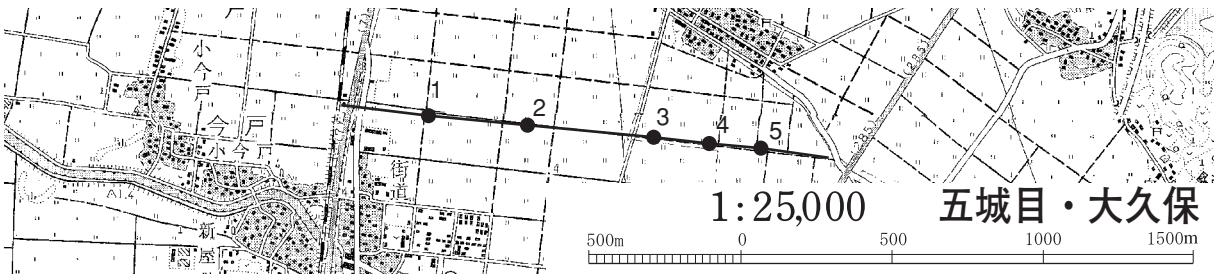


第28図　担い手育成基盤整備事業　会塚地区　遺跡分布調査位置図

(20) ふるさと農道緊急整備事業　北川尻地区

井川町を西流する井川右岸を東西方向に走る現農道の拡幅工事予定地内17か所を試掘した。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。試掘地点は基本的に井川氾濫源内の後背湿地にあたり、遺跡は分布しないものと判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	井川町今戸字新堤	・・	水田	なし	
2	・・・・	井川町北川尻字海老沢西	・・	水田	なし	
3	・・・・	井川町北川尻字海老沢南	・・	水田	なし	
4	・・・・	井川町北川尻字海老沢中谷地	・・	水田	なし	
5	・・・・	井川町北川尻字新坂	・・	水田	なし	



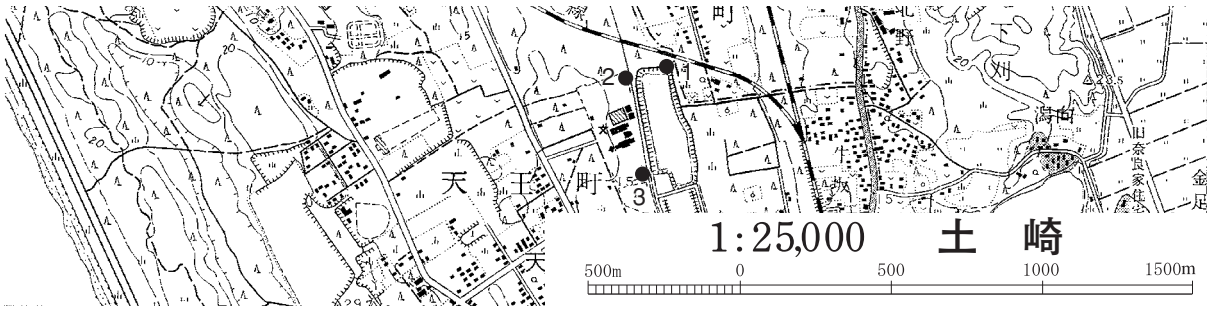
第29図　ふるさと農道緊急整備事業　北川尻地区　遺跡分布調査位置図

(21) 地域用水環境整備事業　天王長沼地区

潟上市（旧天王町）天王長沼地区で予定されている地域用水環境整備事業で、計画面積42ha、平成21年度まで６カ年計画の事業である。事業対象予定地内に周知の長沼遺跡がある。

調査の結果、事業予定地内に遺構・遺物は確認されなかった。工事施工の対応としては、慎重工事とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	潟上市天王字上北野	・・	ため池・公園	なし	
2	長沼遺跡	潟上市天王字上北野	縄文	ため池・公園	なし	周知の遺跡
3	・・・・	潟上市天王字上北野	・・	ため池・公園	なし	



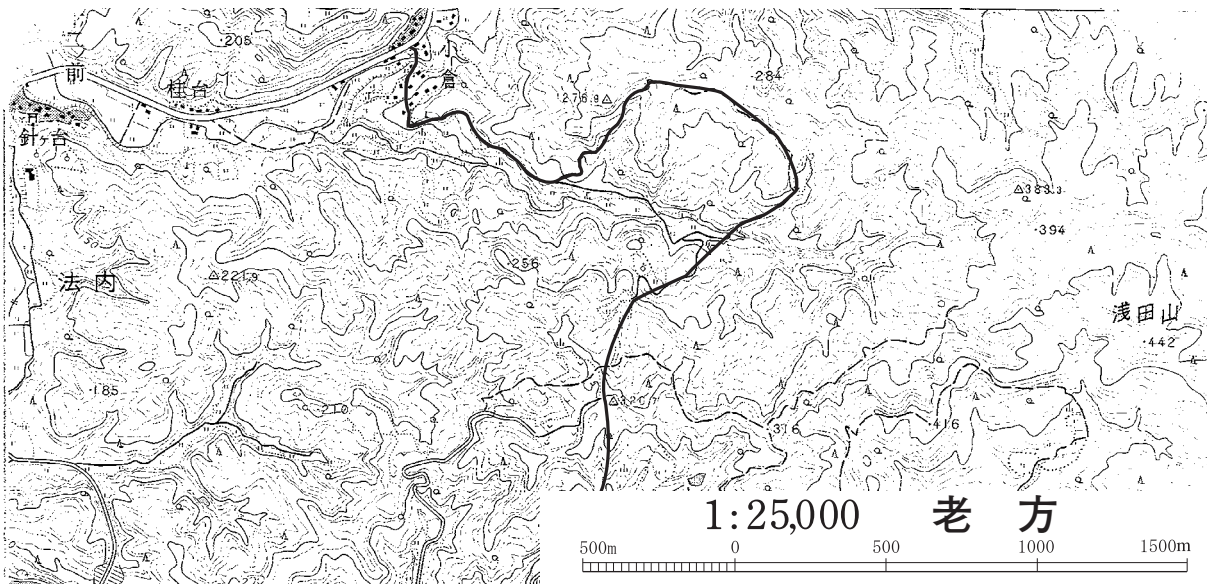
第30図　地域用水環境整備事業　天王長沼地区　遺跡分布調査位置図

(22) フォレストコミュニティ総合整備事業　石塚線

由利本荘市（旧東由利町）石塚地区で予定されている林道整備事業で、桂台地区を起点に工事延長29.1kmのうち、山頂付近の平成18年度工事着工予定地を踏査した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	由利本荘市東由利町法内	・・	水田・畑地	なし	



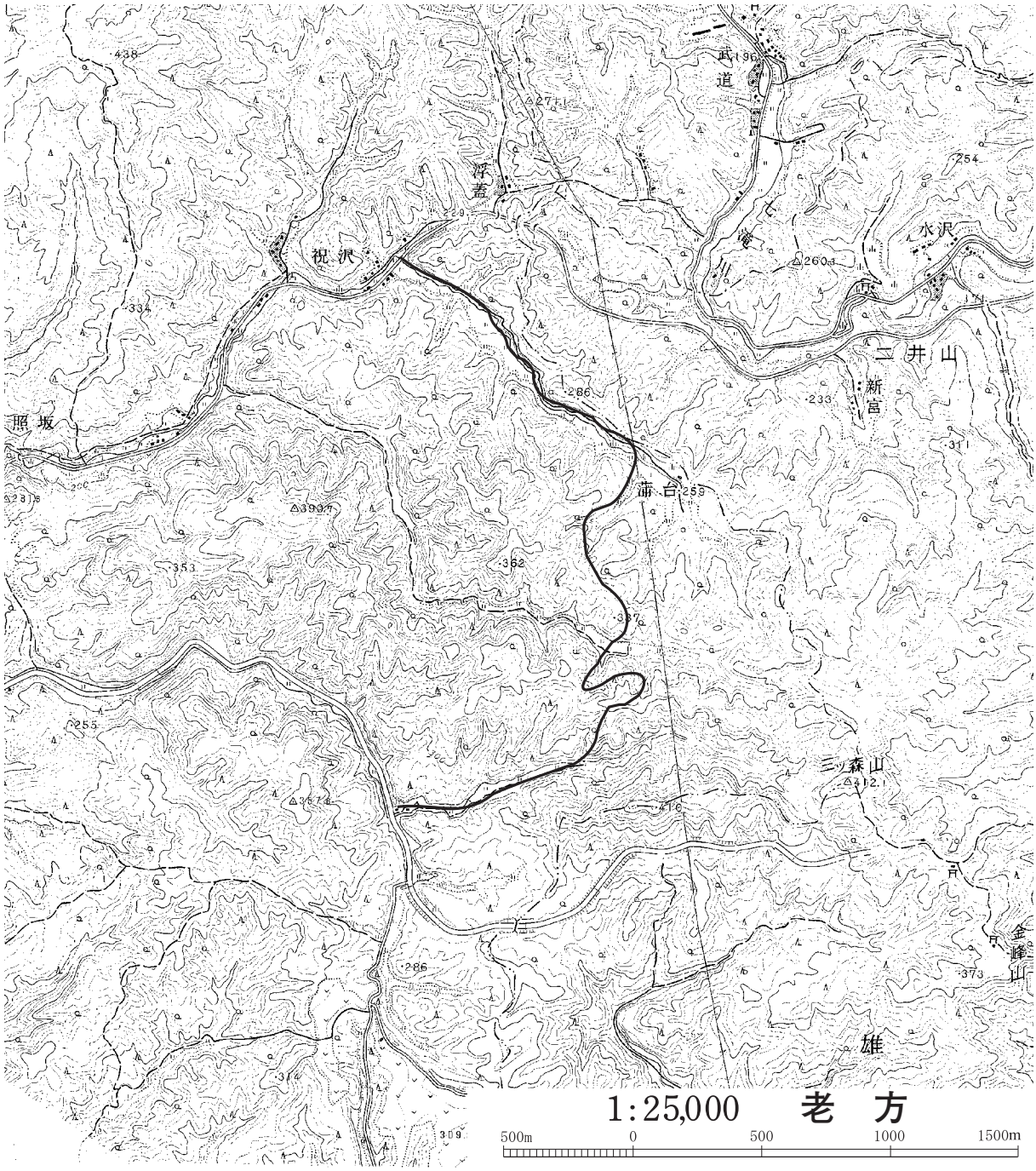
第31図　フォレストコミュニティ総合整備事業　石塚線　遺跡分布調査位置図

（23）流域循環資源林整備事業　蒲台線

由利本荘市（旧東由利町）蒲台地区で予定されている林道整備事業で、祝沢地区を起点に工事延長4.9kmのうち、平成18年度工事着工予定地を踏査した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　　考
1	・・・・	由利本荘市東由利町老方	・・	山林	なし	



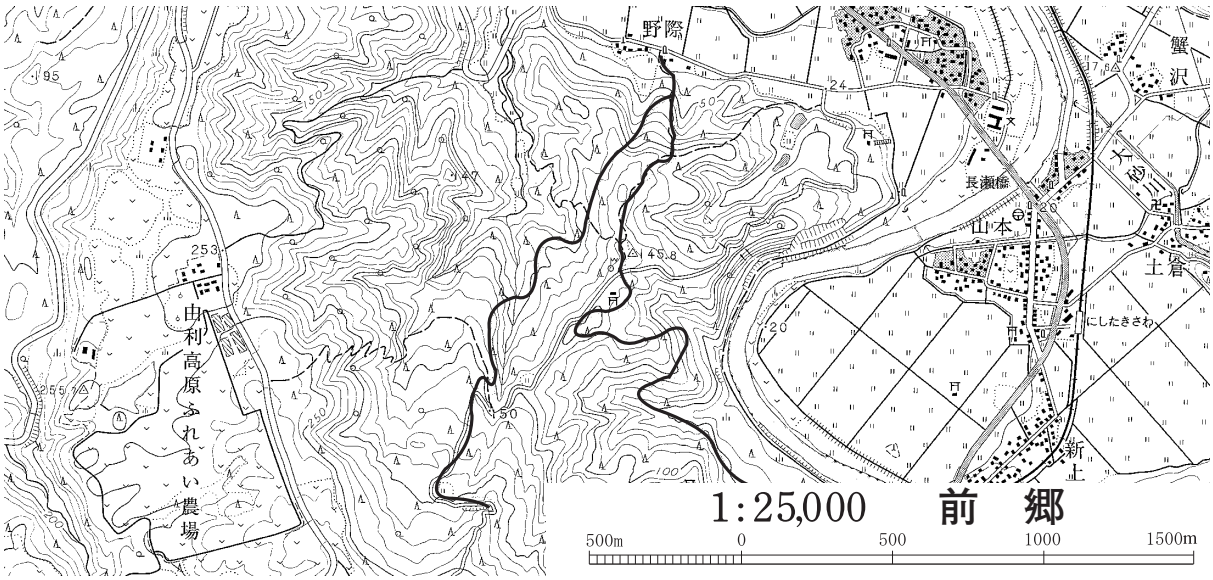
第32図　流域循環資源林整備事業　蒲台線　遺跡分布調査位置図

(24) 高能率生産団地路網整備事業　川西線

由利本荘市（旧由利町）川西地区で予定されている林道整備事業で、ルートは未定。事業対象予定地に周知の根城館跡が隣接しており、周囲を踏査した。

調査の結果、堀切や郭を確認でき、根城館跡の範囲が事業予定地内にまで広がる可能性がある。今後、試掘調査を行う必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根城館跡	由利本荘市由利町川西	・・・	水田・畑地	堀切・郭	周知の遺跡



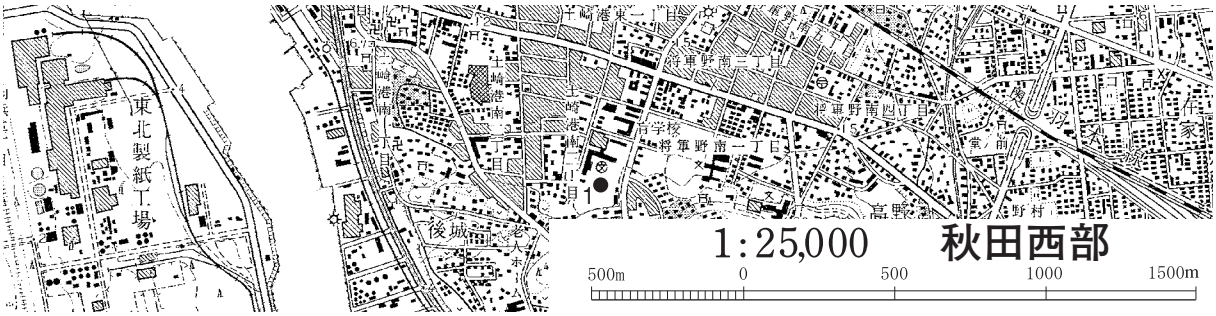
第33図　高能率生産団地路網整備事業　川西線　遺跡分布調査位置図

(25) 秋田中央高等学校長期整備計画

国指定史跡秋田城跡に隣接する秋田中央高等学校について、校舎改築計画に先立ち、基礎データを得るため、敷地内の７か所を試掘した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できなかった。今後、グランド・野球場・テニスコート等、一定の広さを有する場所についても試掘を実施する必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	秋田市土崎港南３丁目	・・・	学校敷地	なし	



第34図　秋田中央高等学校長期整備計画　遺跡分布調査位置図

第２節　遺跡確認調査

（１）日本海沿岸東北自動車道（大館～小坂）建設事業

坂下Ⅱ遺跡

１　遺跡所在地　　大館市商人留字坂下地内

２　確認調査期間　　平成17年11月７日～11月18日

３　確認調査対象面積　　4,250㎡

４　工事区域内遺跡面積　　3,050㎡

５　遺跡の立地と現況　　山林・荒蕪地

ａ　立地

坂下Ⅱ遺跡はＪＲ奥羽本線大館駅から北東約3.5㎞に位置し、乱川右岸の段丘先端部に立地している。遺跡の標高は71～74ｍである。

南西約２㎞には平安時代の製鉄炉や竪穴住居跡が多数検出された釈迦内中台Ⅰ遺跡がある。

ｂ　現況

宅地であったが、確認調査対象区域は中央部に家屋の土台を残す他は、草木が全域に繁茂する。

６　確認調査の方法

遺構の存在が予想された標高74ｍの調査区中央を南北に縦断するトレンチを設け、それに東西に直交するように７本のトレンチを設定した。その他８ヶ所に補足のトレンチを設定した。トレンチ幅は２ｍで総延長330ｍである。基本的には重機による掘削の後、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。かつて畑であった調査区南東側や家屋があった調査区南西側・後世の削平を受けた西側を除いたほぼ全域で、十和田ａ火山灰の堆積層が認められたため、遺構の検出が予想された部分では、堆積層上面で精査を実施し、その後再び地山面まで掘り下げ精査を行った。

実質調査面積は660㎡で調査対象面積の15.5％にあたる。

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び土層図の作成と写真によった。

７　確認調査の結果

ａ　層序

遺跡の層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　黒色　表土　層厚５～２５㎝　大部分が盛土でビニール等を含む

第Ⅱ層　黒色　大湯浮石混入　層厚０～１６㎝

第Ⅲ層　黒色　大湯浮石・地山ブロック・炭化物混入　層厚１４～６０ｃｍ

第Ⅳ層　黒色と暗褐色混合土　炭化物混入　地山漸移層　層厚３～１１ｃｍ

第Ⅴ層　にぶい黄褐色　地山

遺跡は南東部が斜面の他は、全体的に平坦地である。第Ⅱ層は住宅建築の際に削平されたためか部分的に散在し、第５トレンチ以南の一部でのみ確認できた。

また家屋の土台下は、地表より約40㎝以下では撹乱を受けずに遺構が存在していることを確認した。

遺構確認面及び遺物包含層は、第Ⅲ層（平安時代）と第Ⅳ層（縄文時代）である。

ｂ　検出遺構と出土遺物

平安時代の竪穴住居跡９軒、竪穴状遺構１基、柱穴列１条、溝跡２条、柱穴様ピット９基、縄文時代の竪穴住居跡２軒の計24遺構を検出した。出土した遺物は縄文時代早期・後期の土器、石器と平安時代の土師器である。その出土量はコンテナ（53㎝×34㎝×10㎝規格）で１箱ほどである。なお、縄文時代早期の土器は、尖底土器底部片と貝殻復縁文が施された土器片である。

８　所見

ａ　遺跡の種類

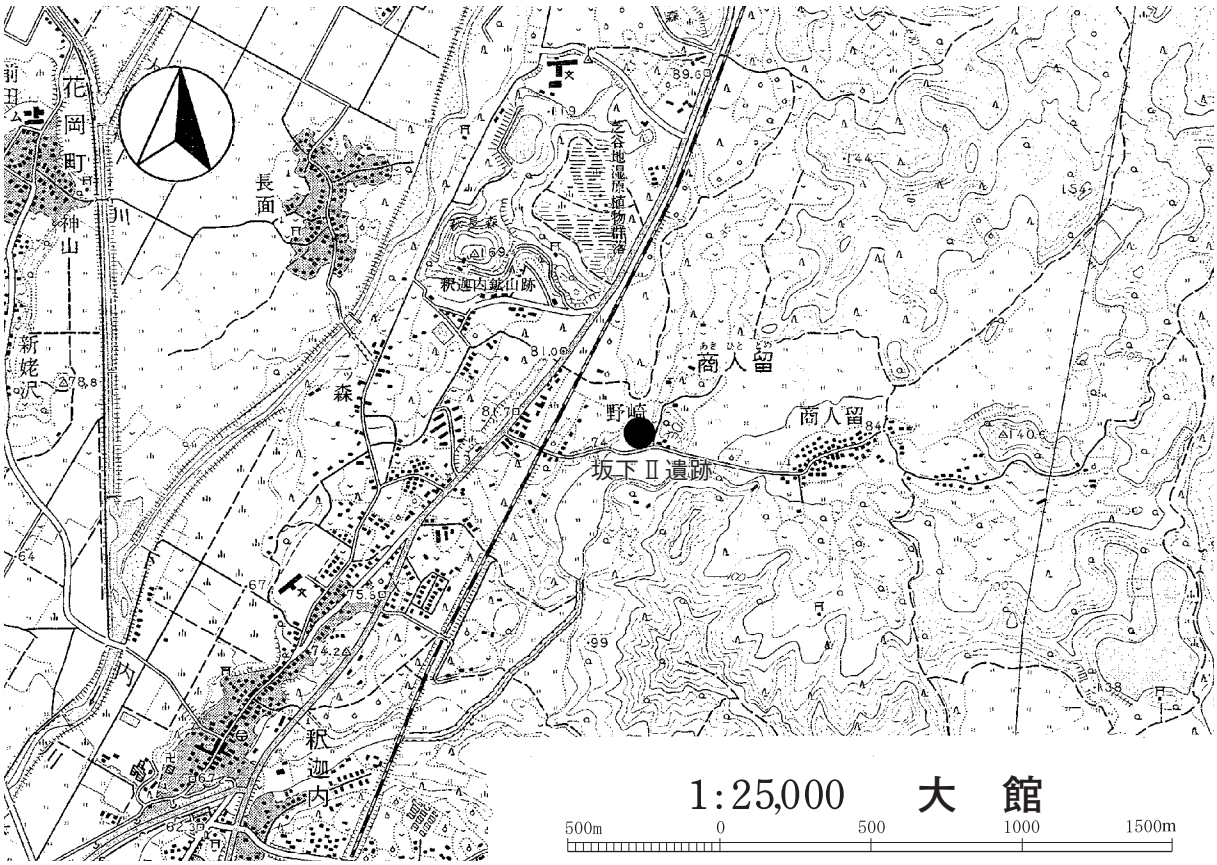
縄文時代早期・後期、平安時代の集落跡と推定される。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

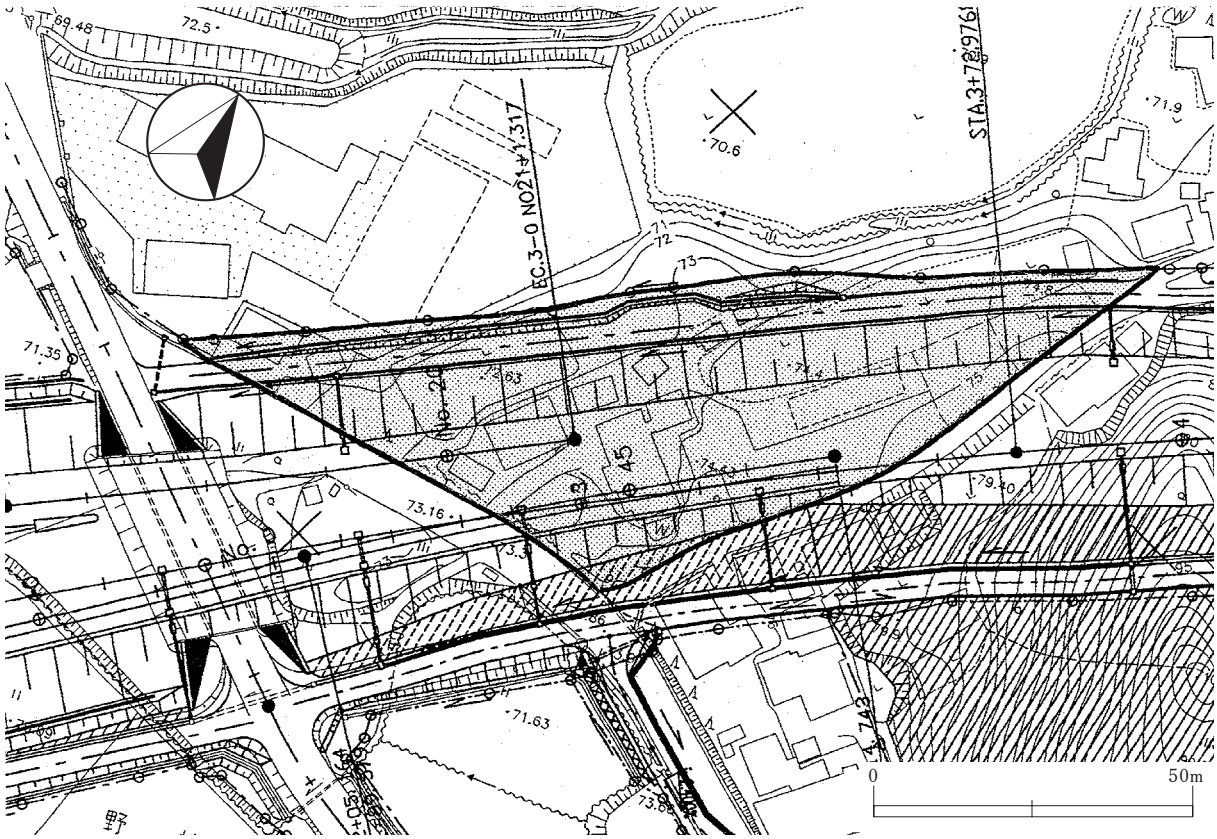
調査区西側・南側・南東側は撹乱を受け、それが地山面に達していたため調査区域から除外した。

ｃ　発掘調査時における遺構・遺物

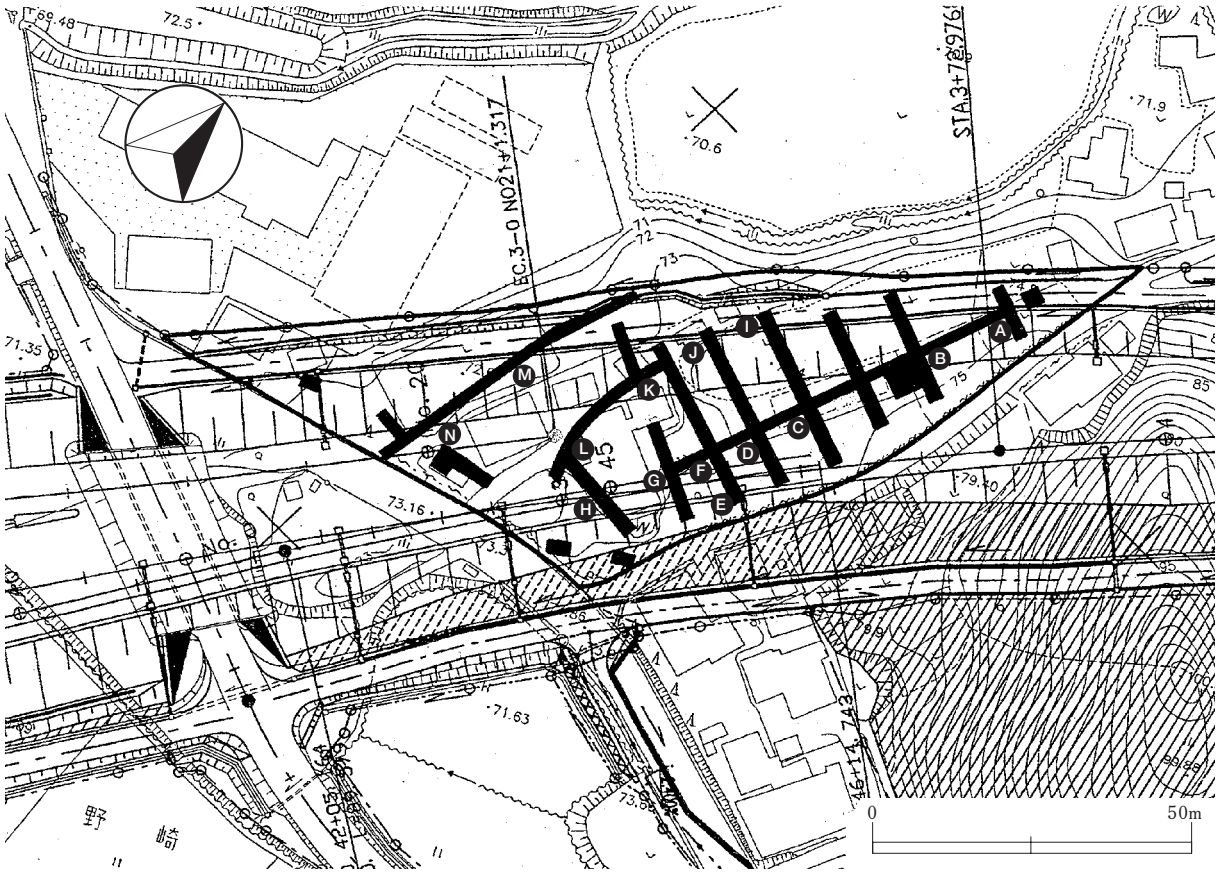
縄文時代早期・後期、平安時代の竪穴住居跡が15軒ほどと竪穴状遺構、柱列、溝跡などが検出されると推測される。遺物は、縄文時代では縄文土器及び石器、平安時代では土師器が出土すると考えられる。



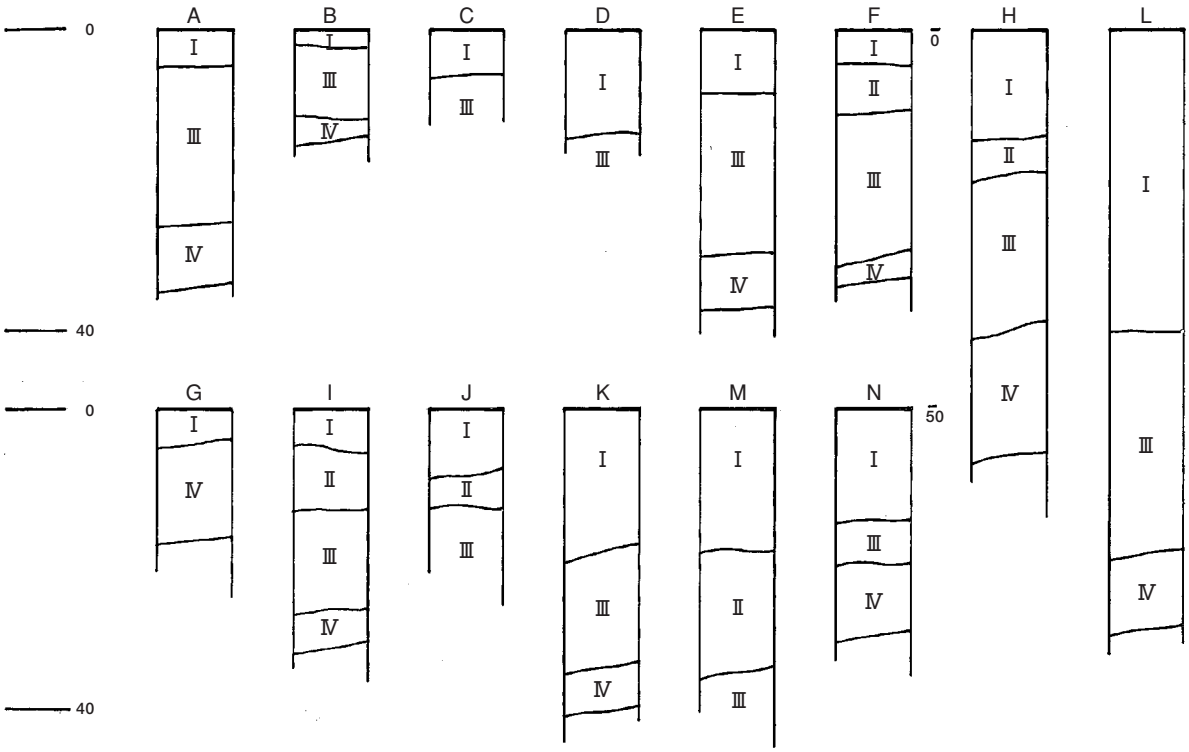
第35図　坂下Ⅱ遺跡位置図



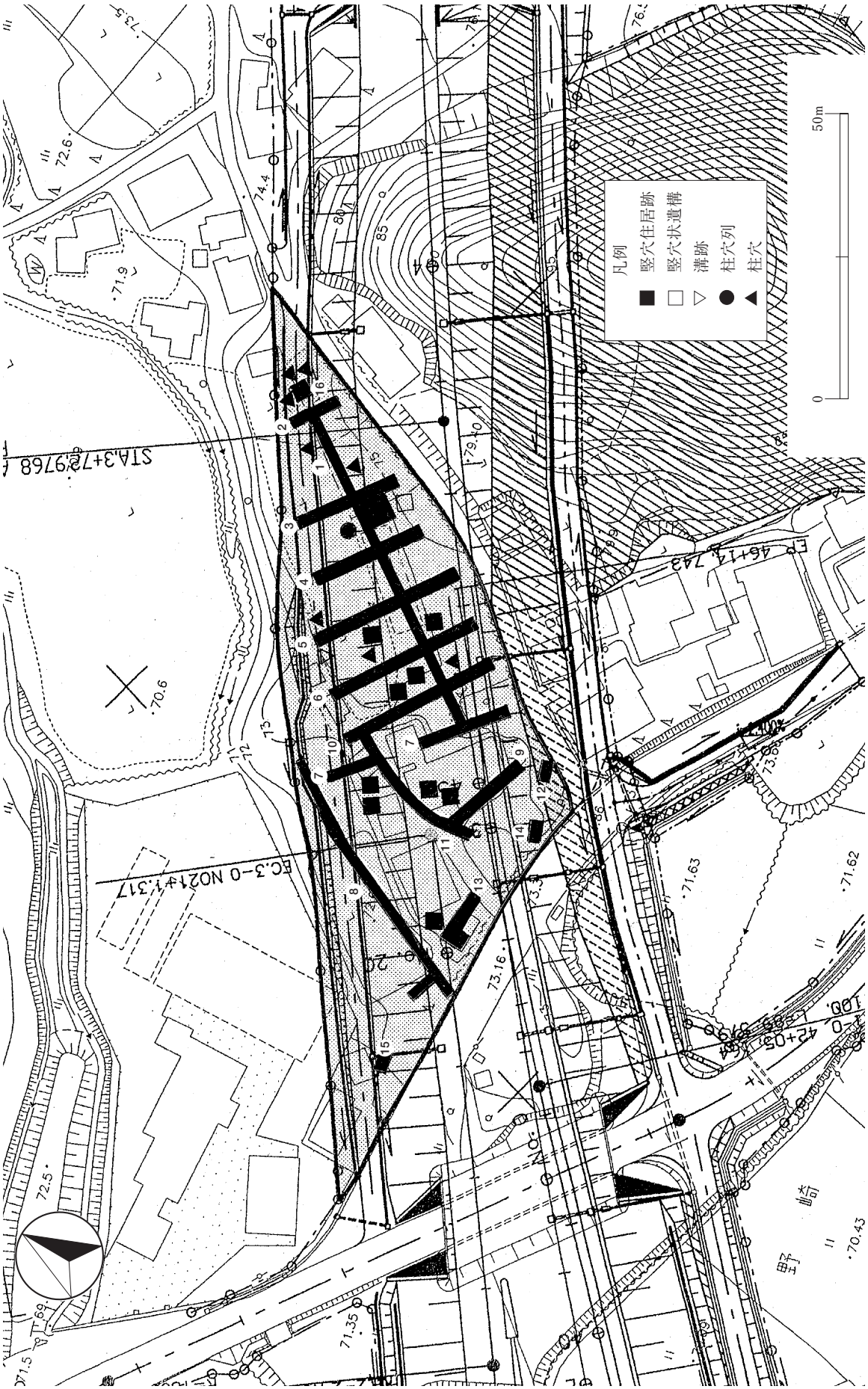
第36図　坂下Ⅱ遺跡推定範囲図



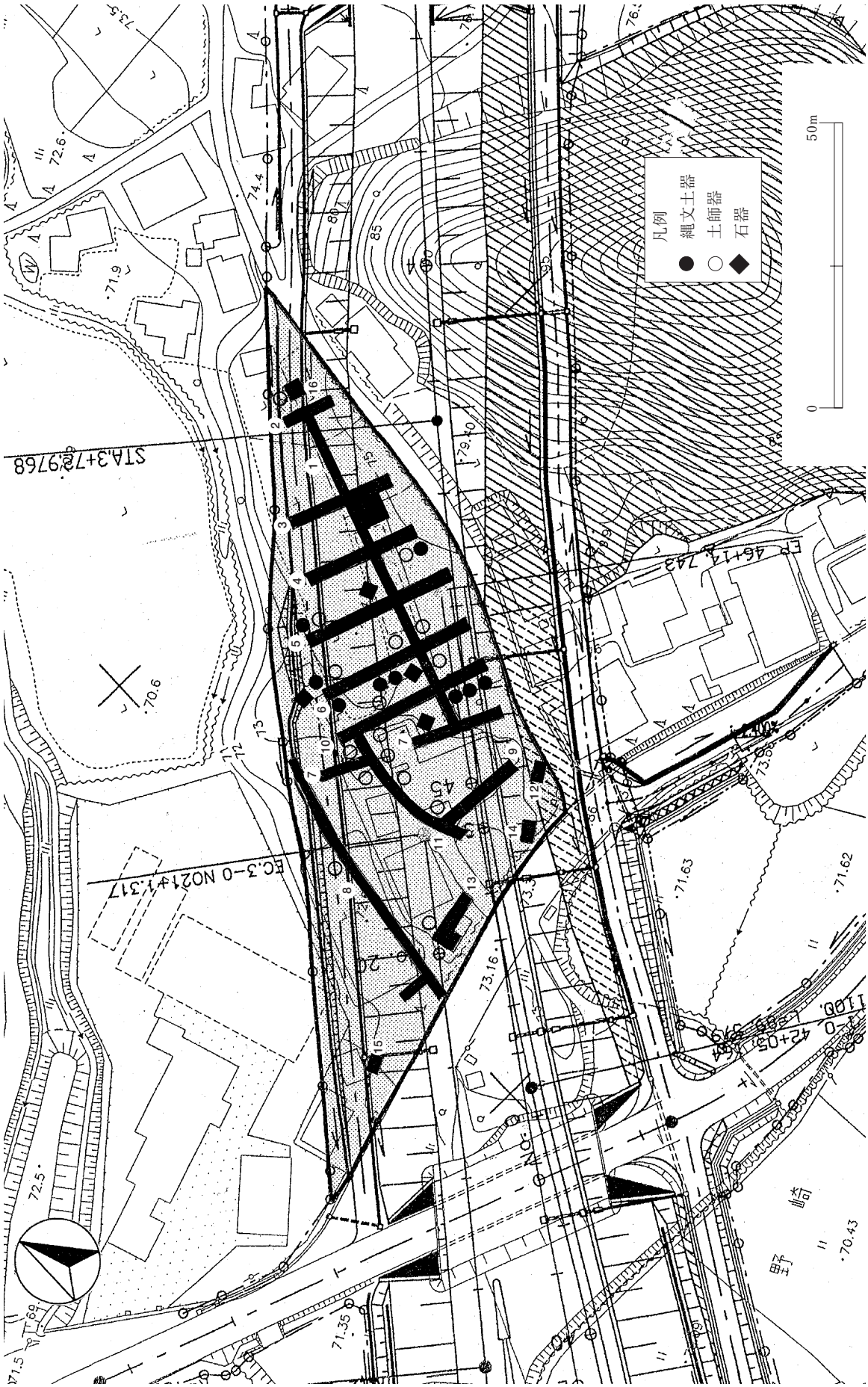
第37図　坂下Ⅱ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



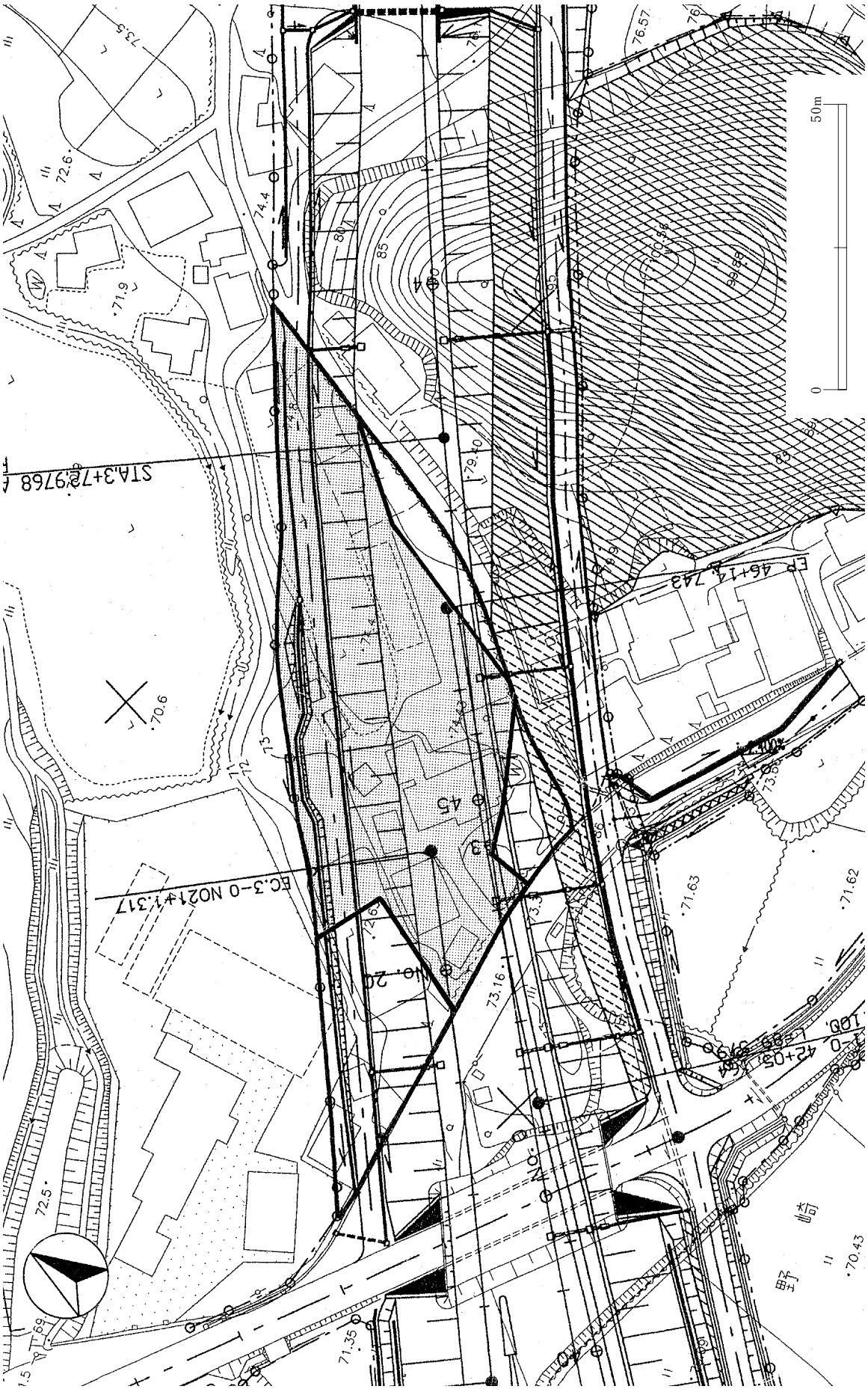
第38図　坂下Ⅱ遺跡基本層序図



第39図　坂下Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第40図　坂下Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺物検出地点）



第41図　坂下Ⅱ遺跡要発掘調査範囲図

坂下Ⅱ遺跡
第10トレンチ
平安時代の竪穴住居
跡検出
状況（北東から）

坂下Ⅱ遺跡
第５トレンチ
平安時代の竪穴住居
跡検出状況(南東から)

坂下Ⅱ遺跡
第10トレンチ
縄文時代早期尖底土
器出土
状況（東から）

（２）一般国道７号大館西道路建設事業

根下戸道下遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県大館市根下戸新町69－１外

２　確認調査期間　　平成17年11月16日～12月９日

３　確認調査対象面積　　30,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　12,650㎡

５　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、大館市の中心部からやや南西、ＪＲ花輪線東大館駅の西（約2.3km）にあり、秋田県立大館桂高等学校の北東側に位置し、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘上（第二段丘で片山野と呼ばれている）に立地する。沖積面と河岸段丘との比高差は15mである。遺跡の北側を幅50～80mの通称「芋掘沢」が東西に下刻していて、遺跡の直前で芋掘沢は南に折れ米代川沖積地へ下る。なお、本遺跡が立地する段丘の北辺部は1997（平成９）年度に発掘調査が行われ、縄文時代（早期・後期）の竪穴住居跡４軒、陥し穴10基等が検出されている。

ｂ　現況

確認調査対象区域の北側は杉林、西から南西側にかけてはアカシア主体の雑木林で、それらは既に伐採されている。東から南側にかけては畑地である。現況は、伐採された径10～20cmの杉や雑木及び枝葉が全域に残存する。また、確認調査対象区域の西側を中心に生活廃棄物等が散らばる荒れ地となっていた。

６　確認調査の方法

基本的に幅２ｍのトレンチを10m間隔で、切り株の少ないところを選んで南北と東西にトレンチ箇所を設定した。重機で表土を除去した後、平面及びトレンチ壁面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。十和田ａ火山灰の堆積層が確認できた区域では、その上面で一度精査を実施し、何もなければ地山面まで掘り下げ精査を行った。トレンチ内で出土した遺物については、位置・層位を記録して取り上げ、検出した遺構はプランを平面実測・写真撮影を行った。また、南北方向のすべてのトレンチで10m間隔で層序の記録を行った。確認調査における試掘面積は9,440㎡で、調査対象面積の約32％にあたる。

７　確認調査の結果

ａ　層序

トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰa層　黒 色 土（10ＹＲ1.7／1）　表土・耕作土
第Ⅰb層　黒 色 土（10ＹＲ 2 ／1）　表土
第Ⅱ層　明黄褐色（10ＹＲ 7／ 6）　十和田ａ火山灰（To－a）
第Ⅲ層　黒褐色土（10ＹＲ 2 ／2）
第Ⅳ層　暗褐色土（10ＹＲ 3 ／3）　漸移層
第Ⅴ層　黄褐色土（10ＹＲ 5 ／6）　地山

ｂ　検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、焼土遺構９基、陥し穴10基、土坑３基、柱穴様ピット２基、性格不明遺構３基である。遺物は縄文土器（前期10点、後期２点）、剥片石器（石箆１点、剥片11点）、礫石器（擦り石２点）が出土した。検出された遺構・遺物は調査対象区域の北東側と南西側に分布し、焼土遺構、遺物はⅢ層から、陥し穴、土坑はⅣ層で確認されている。

８　所見

ａ　遺跡の種類

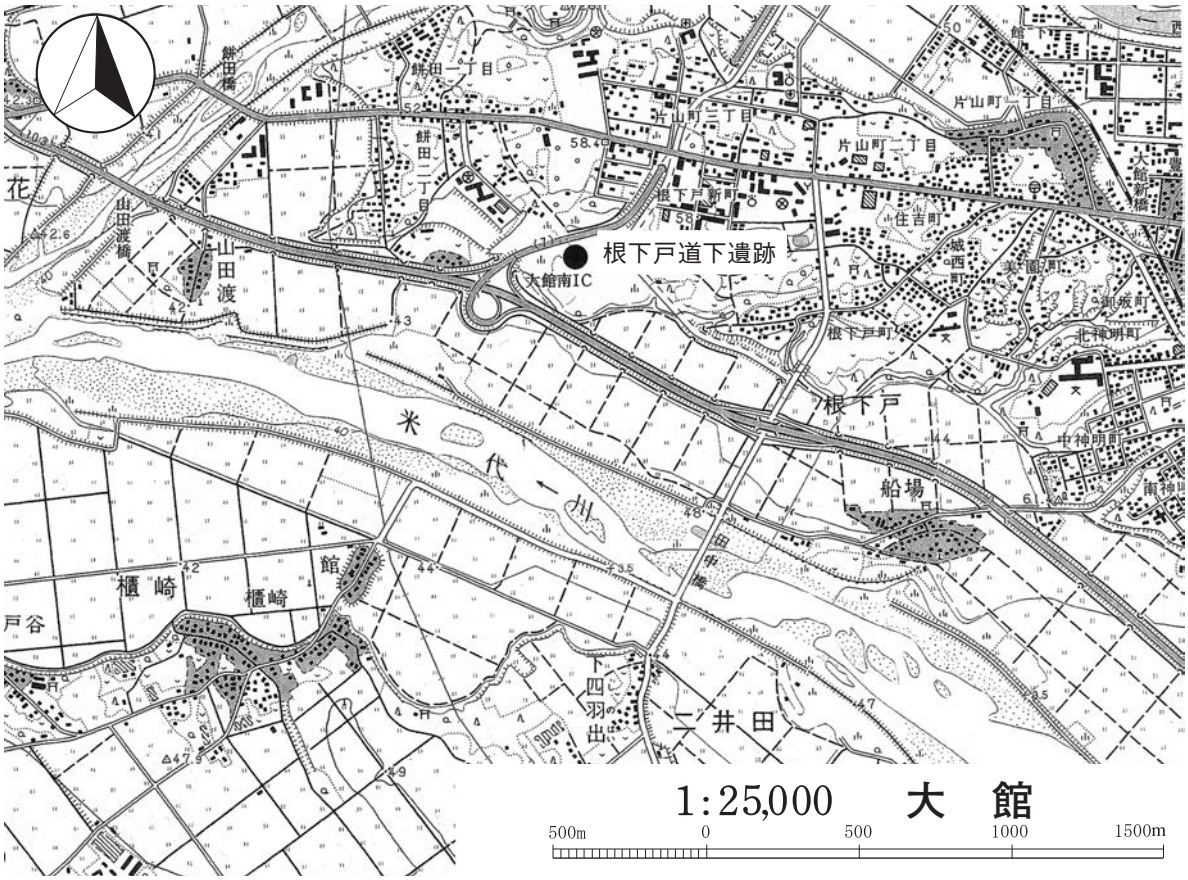
31トレンチで検出された焼土遺構は十和田ａ火山灰層の下にあり、15トレンチでは焼土遺構と縄文時代後期の土器が同レベルで隣接して確認されているので、焼土は縄文時代の可能性がある。検出された10基の陥し穴と遺物が極めて少ないことから、遺跡は主として狩猟場と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

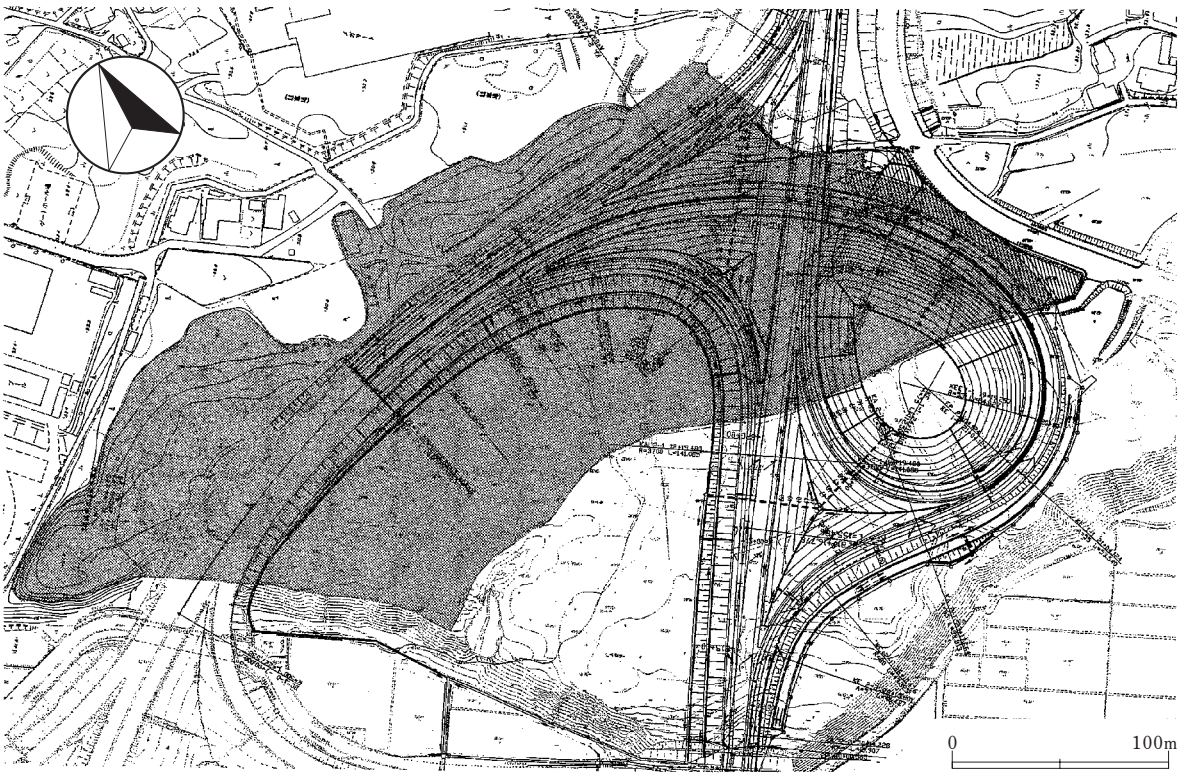
工事区域内の遺跡範囲は、遺構・遺物が確認された北東側7,820㎡と南西側4,830㎡の２か所で合計12,650㎡である。調査対象区域の中央部と南側は、遺構の検出がなく、遺物の出土も極めて希薄なので、遺跡範囲から除外した。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

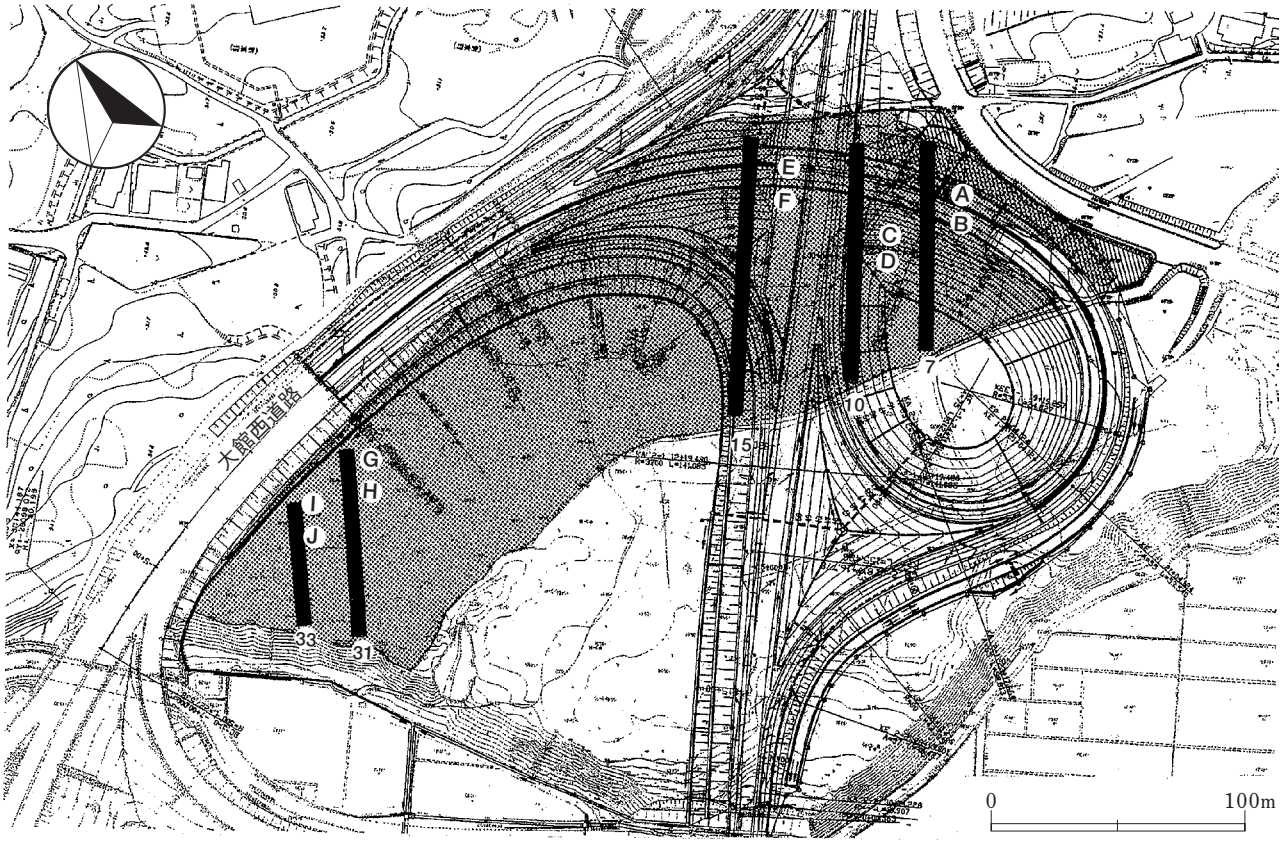
本調査では焼土遺構20基、陥し穴15～20基、土坑10基などの遺構が検出されると考えられる。また、調査区の北東側で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡や陥し穴等が確認された1997年度の発掘調査区の隣接地に分布することから、本調査でも竪穴住居跡の検出の可能性はある。遺物は縄文時代前期・後期の土器及び石器の出土が予想されるが、出土量は極めて少なく中コンテナで５箱くらいと思われる。



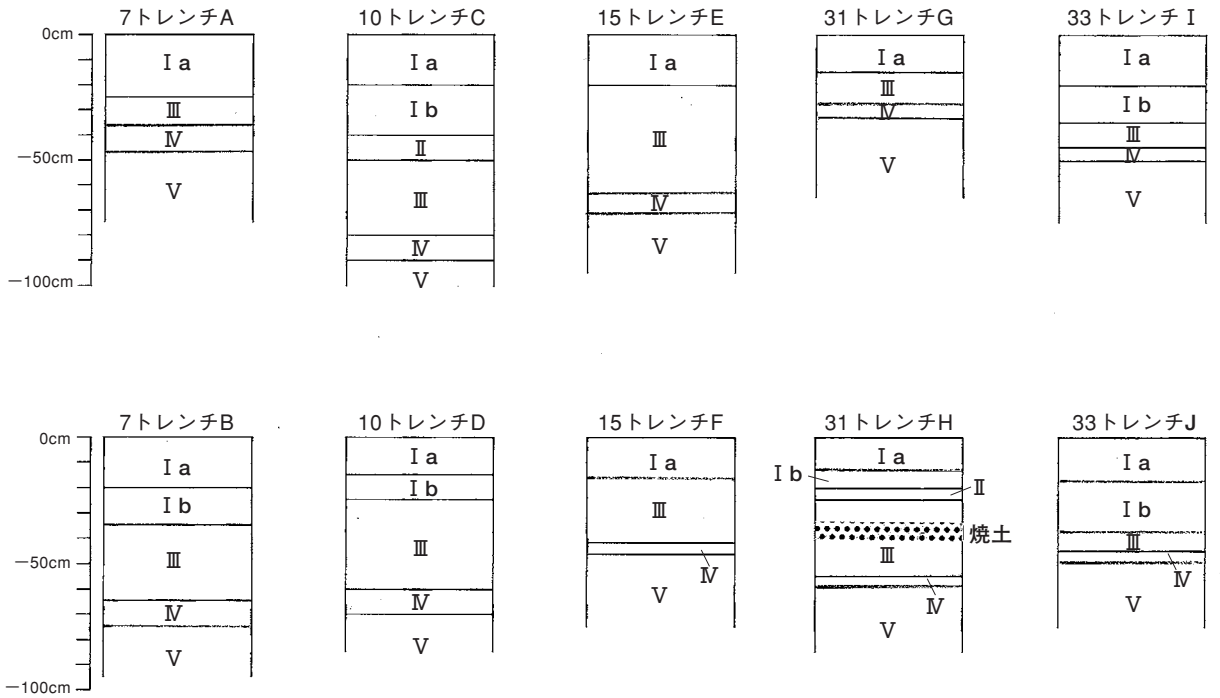
第42図　根下戸道下遺跡位置図



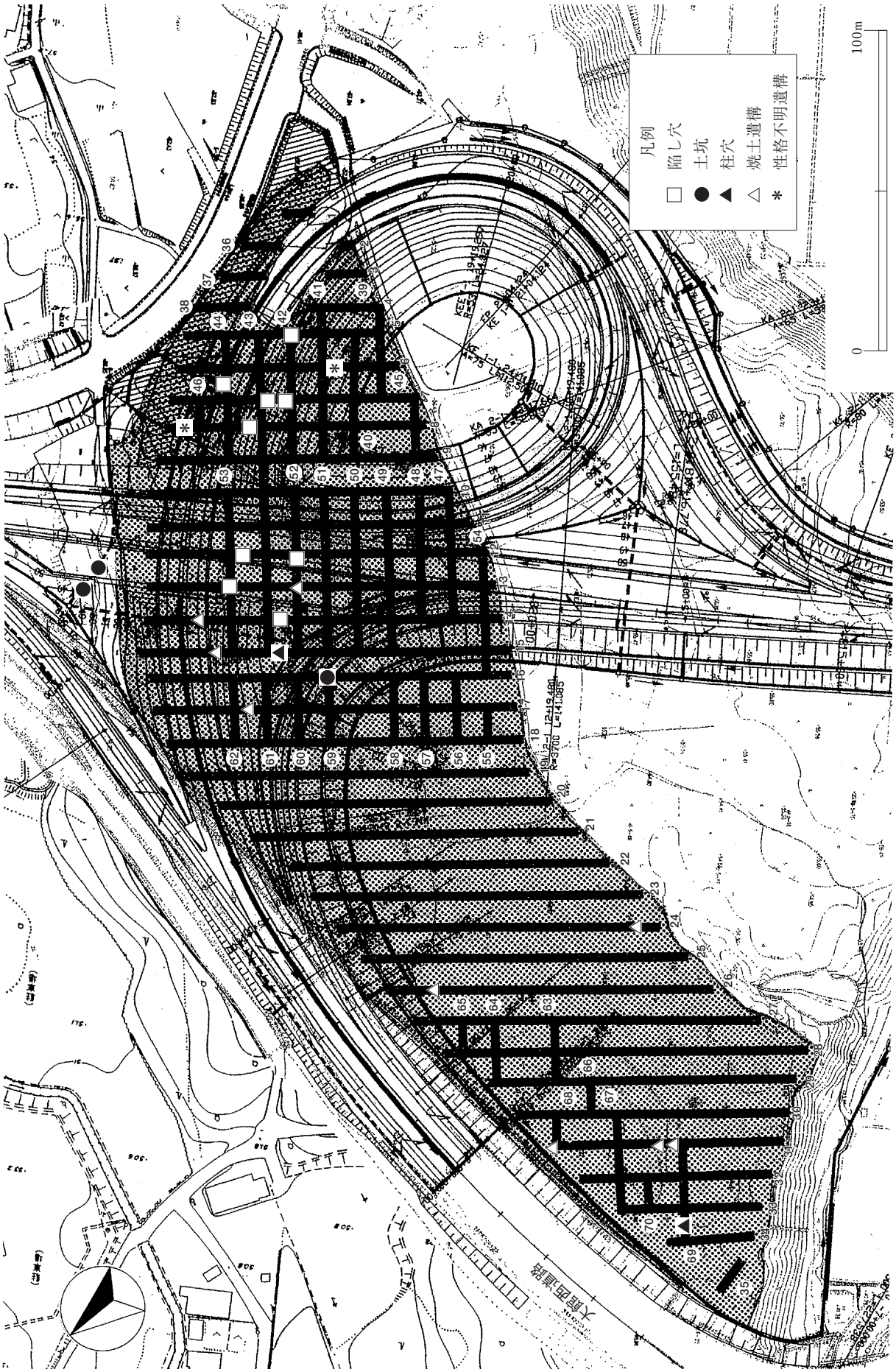
第43図　根下戸道下遺跡推定範囲図



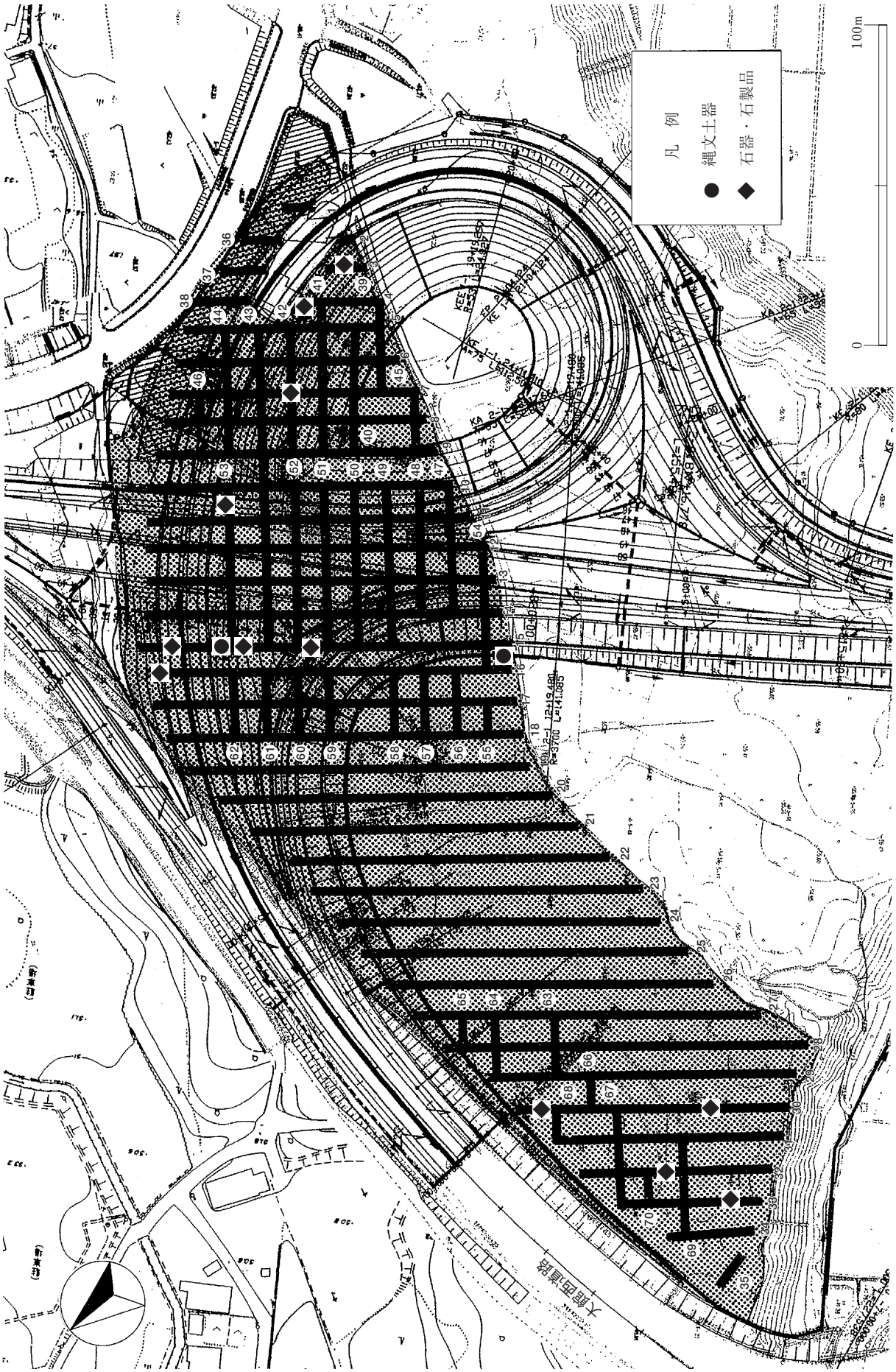
第44図　根下戸道下遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



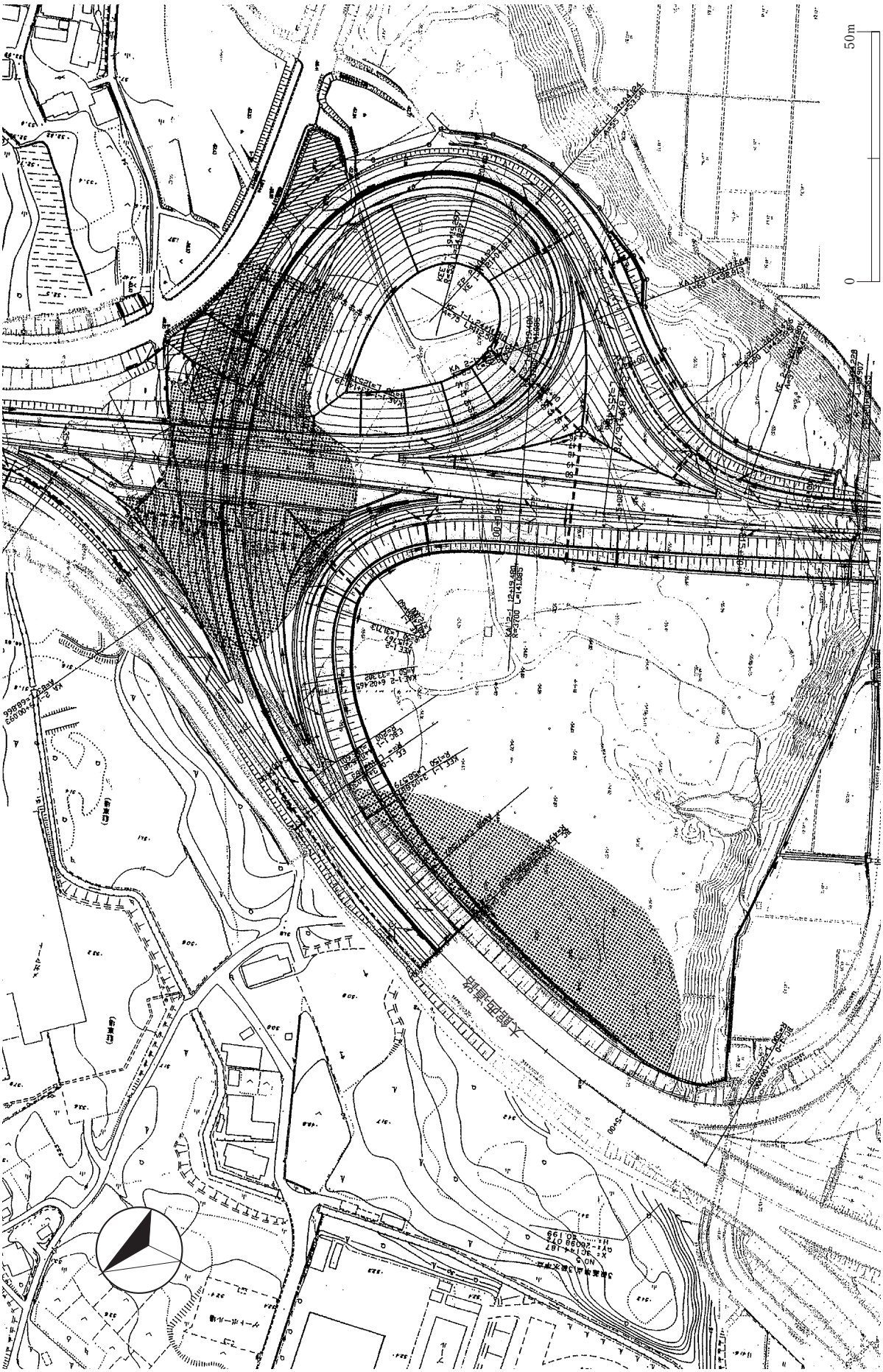
第45図　根下戸道下遺跡層序図



第46図　根下戸道下遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第47図　根下戸道下遺跡確認調査結果図（遺物検出地点）



第48図　根下戸道下遺跡要本発掘調査範囲図

根下戸道下遺跡
遠景（東から）

根下戸道下遺跡
第７トレンチ
陥し穴検出状況
（西から）

根下戸道下遺跡
第13トレンチより北側
土坑検出状況（東から）

（３）高速交通関連道路整備事業県道能代五城目線

①鹿渡（かどわたり）渉Ⅰ遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字鹿渡渉130-26外

２　確認調査期間　　平成17年10月17日～10月25日

３　確認調査対象面積　　1,620㎡

４　工事区域内遺跡面積　　0㎡

５　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約5.6㎞、琴丘町を北流し東部承水路を経て馬場目川（八郎潟調整池）に流入する二級河川三種川の左岸丘陵から舌状に延びる台地縁辺部に位置する。調査区西側は丘陵本体が南北に延び、東側は水田を挟み小又口集落に面している。遺跡の南北両端部は沢状の地形をなし、湧水が見られる。

ｂ　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが、買収地は既に伐採されており、枝が数か所に積み上げられていた。南側調査区は未買収地となっていたため、広葉樹の林が残されている。

６　確認調査の方法

工事用中心杭№25～29に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた中心杭を基準に路線と並行に南北に２本、さらに調査区中央の台地中央部に、それと直行する東西方向に２本、北側調査区低地の調査区境界に沿って１本、計５本の幅１ｍのトレンチを設定した。さらに、北側調査区に２か所、南側調査区の林の中に６か所の、計８か所に１ｍ×１ｍの坪掘りを行った。これらトレンチ及び坪掘りは全て人力で掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は110㎡で、調査対象面積の6.8％にあたる。

７　確認調査の結果

ａ　層序

第１トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　黒褐色土　　（10ＹＲ2／3）　表土　層厚５㎝

第Ⅱ層　にぶい黄褐色土　（10ＹＲ4／3）　シルト　層厚５～30㎝

第Ⅲ層　明黄褐色土　　（10ＹＲ6／6）　地山

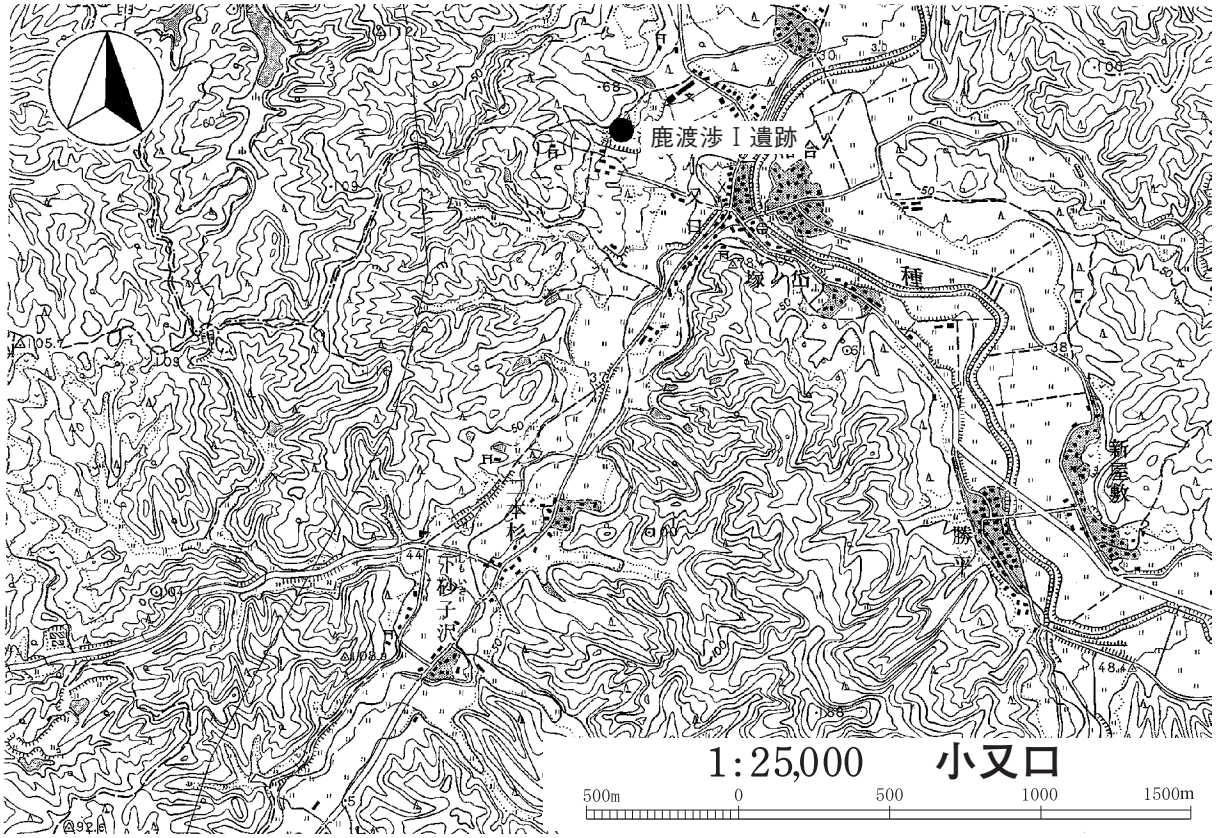
全体に削平されており、漸移層は見られない。

ｂ　検出遺構と出土遺物

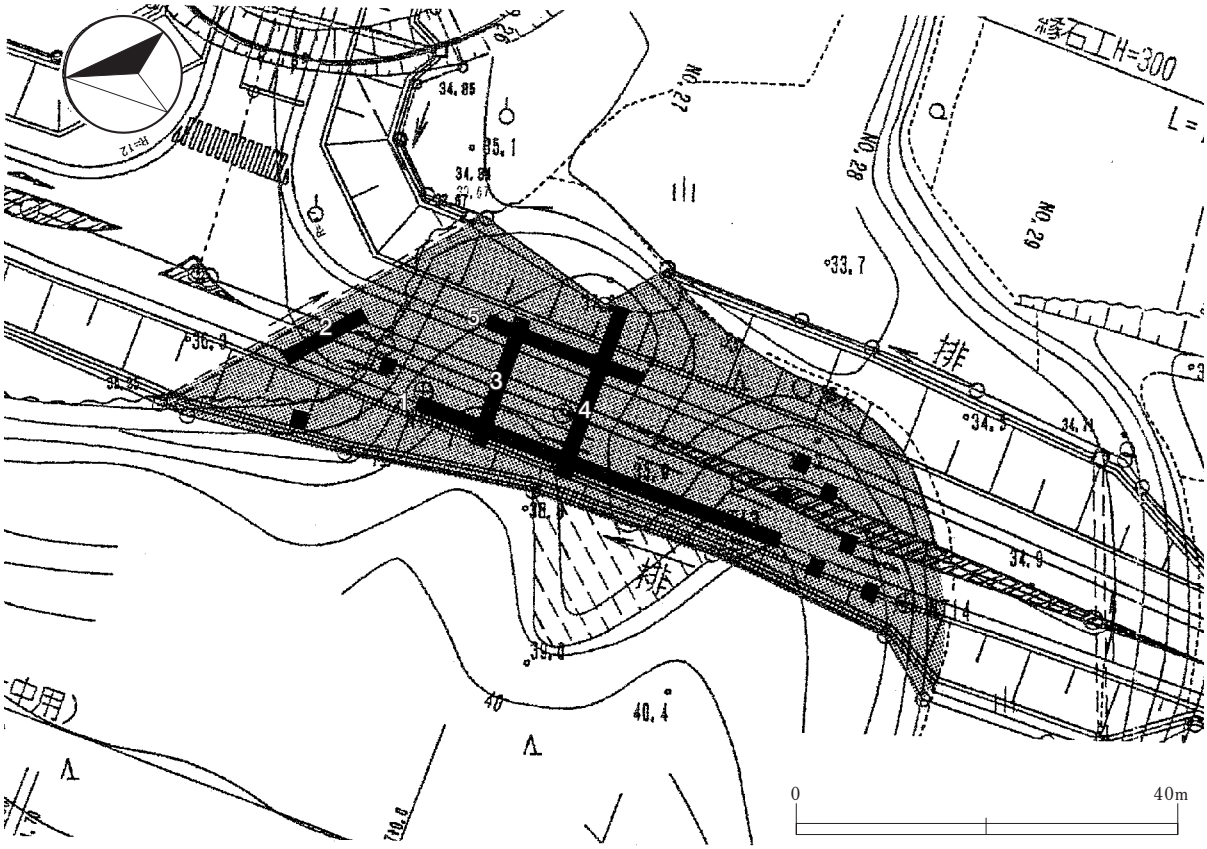
遺構は全く検出されず、出土した遺物は大型の剥片が数点のみであった。調査区北側の低地には沢由来と思われる礫と砂混じり粘土が堆積し、そこから梱包用の紐が確認されたため新しい時代の堆積と判断した。中央台地では全体に撹乱を受けており、遺構はこれら後世の耕作によって失われたものと考えられる。なお、出土した石に明確な加工痕を見つけることはできなかった。

８　所見

遺構の検出はなく、遺物の出土もないため、工事区域内での発掘調査の必要性はないものと判断した。



第49図　鹿渡渉Ⅰ遺跡位置図



第50図　鹿渡渉Ⅰ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図

②鹿渡（かどわたり）渉Ⅱ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字鹿渡渉1-23外

2　確認調査期間　　平成17年10月３日～10月14日

3　確認調査対象面積　　3,140㎡

4　工事区域内遺跡面積　　1,560㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約5.4㎞、琴丘町を北流し東部承水路を経て馬場目川（八郎潟調整池）に流入する二級河川三種川左岸丘陵から、舌状に延びる台地縁辺部に位置する。調査区西側は丘陵本体が南北に延び、東側は水田を挟み小又口集落に面している。

b　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが既に伐採されており、枝が数か所に積み上げられていた。調査区北側は水路を挟んで、現在は休耕田である低地と接し、南側は丘陵地へと延びる町道が走っており、町道脇に女川層の露頭が見られる。調査区中央部には、その町道から西側山林奥へと延びる簡易道路が設置されている。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№49～55に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた中心杭を基準に路線と並行に南北方向に５本、さらにそれと直行する東西方向に10本、北側調査区の斜面の傾斜に沿って１本、北端の低地部に２ｍ四方の坪掘り４か所を設定した。トレンチはすべて１ｍ幅でバックホーを使い、坪掘りは人力で掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は320㎡で、調査対象面積の10.2％にあたる。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ、リバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第１トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	黒色土	（10ＹＲ2／1）	表土	層厚２～15㎝
第Ⅱ層	黒褐色土	（10ＹＲ2／3）	シルト	層厚０～20㎝
第Ⅲ層	黒色土	（10ＹＲ1.7／1）	シルト	層厚０～20㎝
第Ⅳ層	黒褐色土	（10ＹＲ3／2）	漸移層	層厚０～25㎝
第Ⅴ層	明黄褐色土	（10ＹＲ6／6）	地山	

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、土坑が８基、溝状遺構が１基確認された。確認された土坑は小型のものが多い。ほとんどの土坑の覆土には遺物は確認されなかったが、中央部で確認された土坑の底部からは炭化材が出土している。調査区北端低地と中央部、さらに南東端は地山層まで後世の撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。遺物は調査区のほぼ全域から剥片及び石核が確認されている。石質は頁岩または硬質頁岩を主体としており、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられる。

調査区中央から南東端にかけては前述の撹乱の影響か、遺物はほとんど確認できなかった。また、北端の坪掘りでは剥片、石核とともに新しい時代の磁器が出土し、後世に撹乱を受けていることがわかった。

８　所見

ａ　遺跡の種類

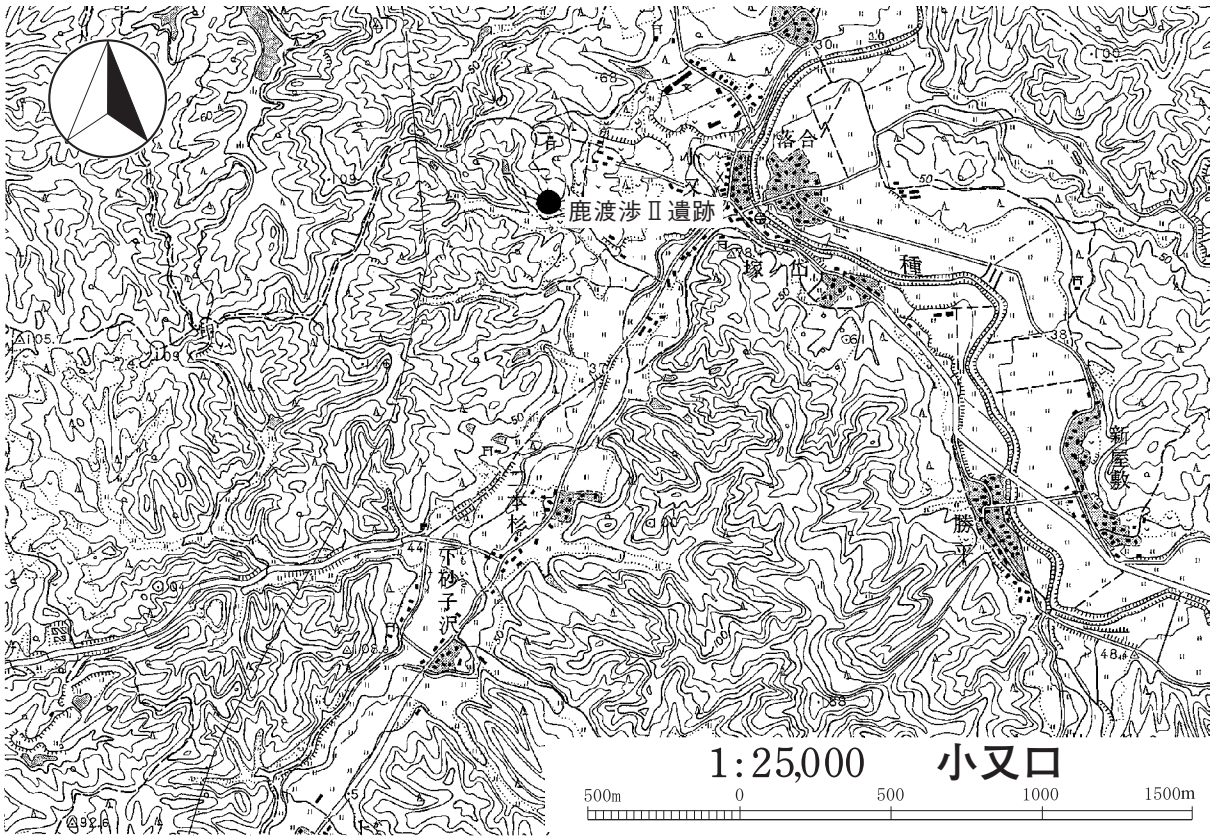
縄文時代の原石採取場所及び石器製作地と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

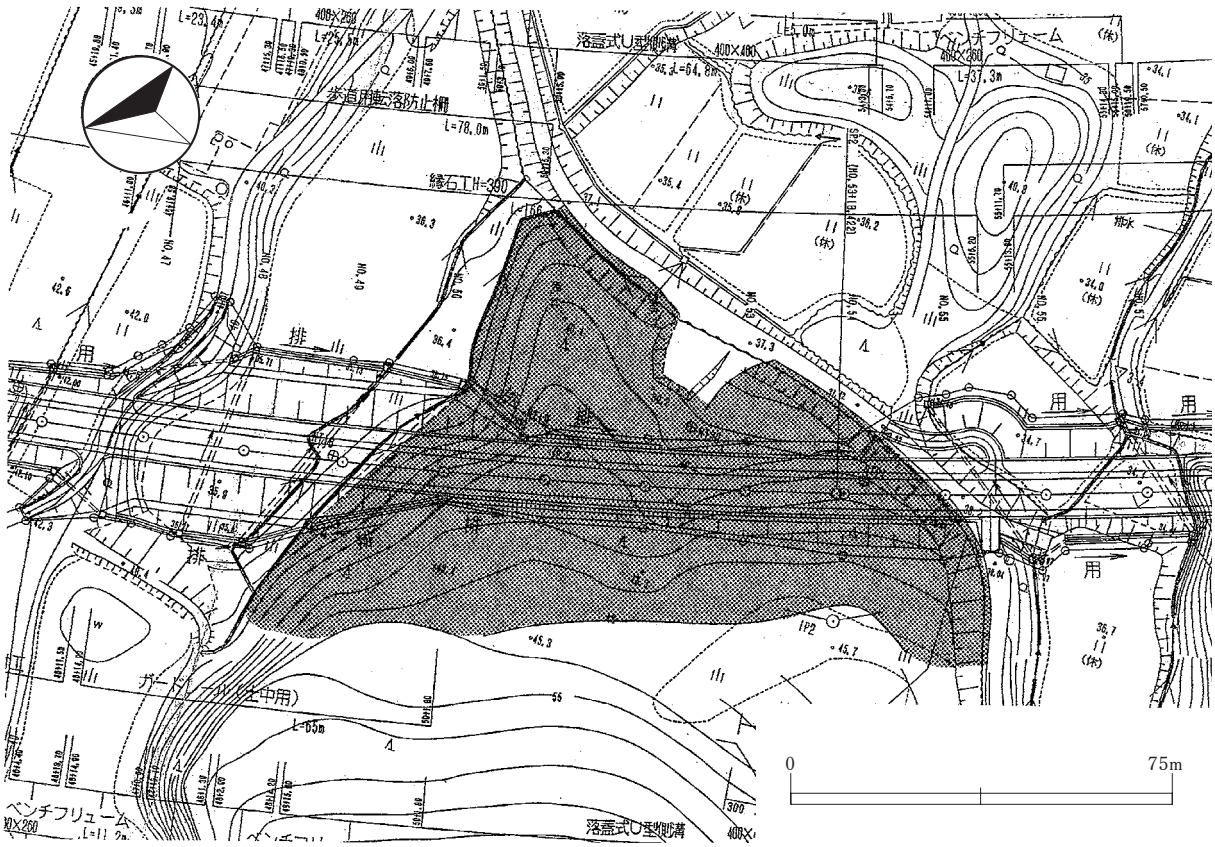
工事区域内遺跡範囲は、調査区北側の中央台地頂部810㎡と南西側微高地750㎡の計1,560㎡である。後世の撹乱が激しい北端低地と中央簡易道路、及び南東端の低地は調査の必要がないと判断した。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

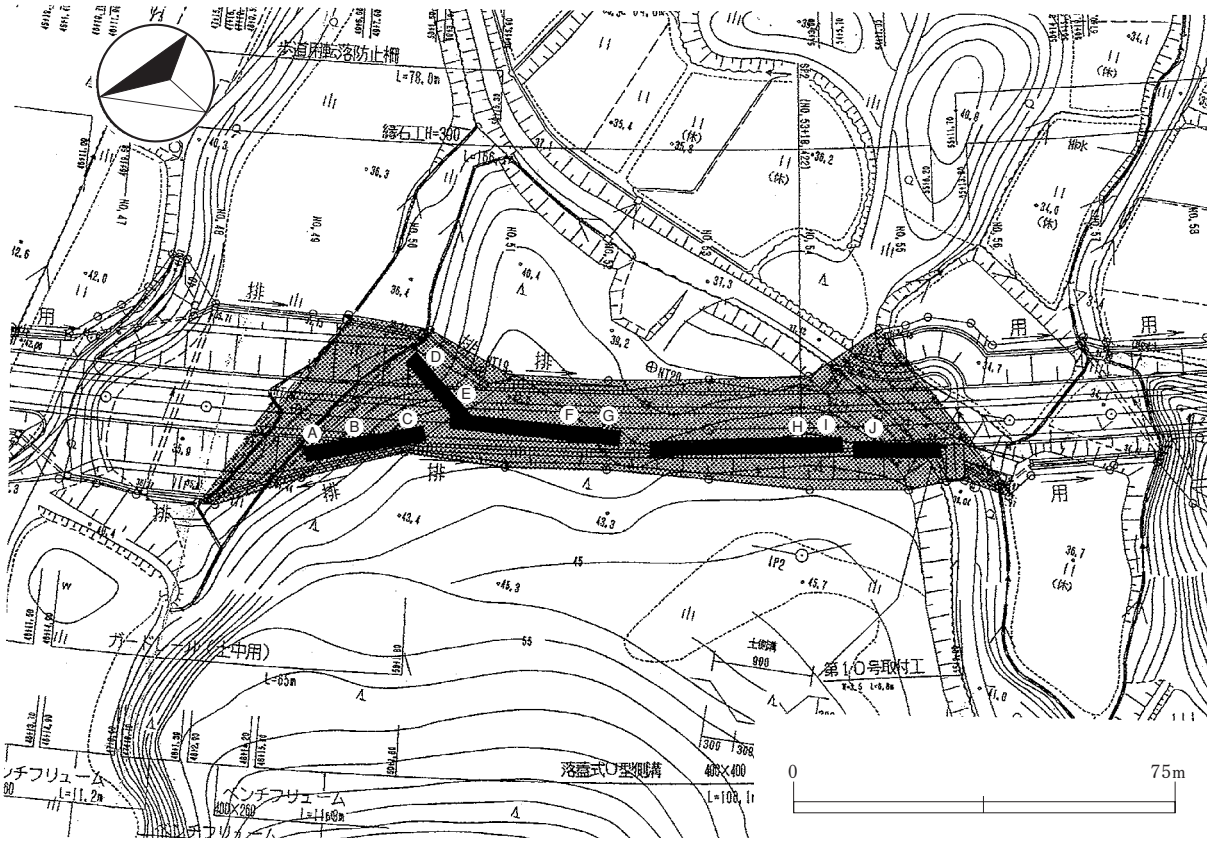
全域で縄文時代の土坑、溝跡などが予想される。確認調査時に地山から頁岩などの礫は確認されなかったが、調査区南端、町道に面する切り通しで硬質頁岩の層が見られることから、隣接する樋向Ⅰ遺跡と同様、原石採掘用の大型の土坑の存在も考えられる。遺物は、縄文時代の剥片を中心とした石器、土器、石製品など中コンテナ換算で50箱前後が出土するものと考えられる。



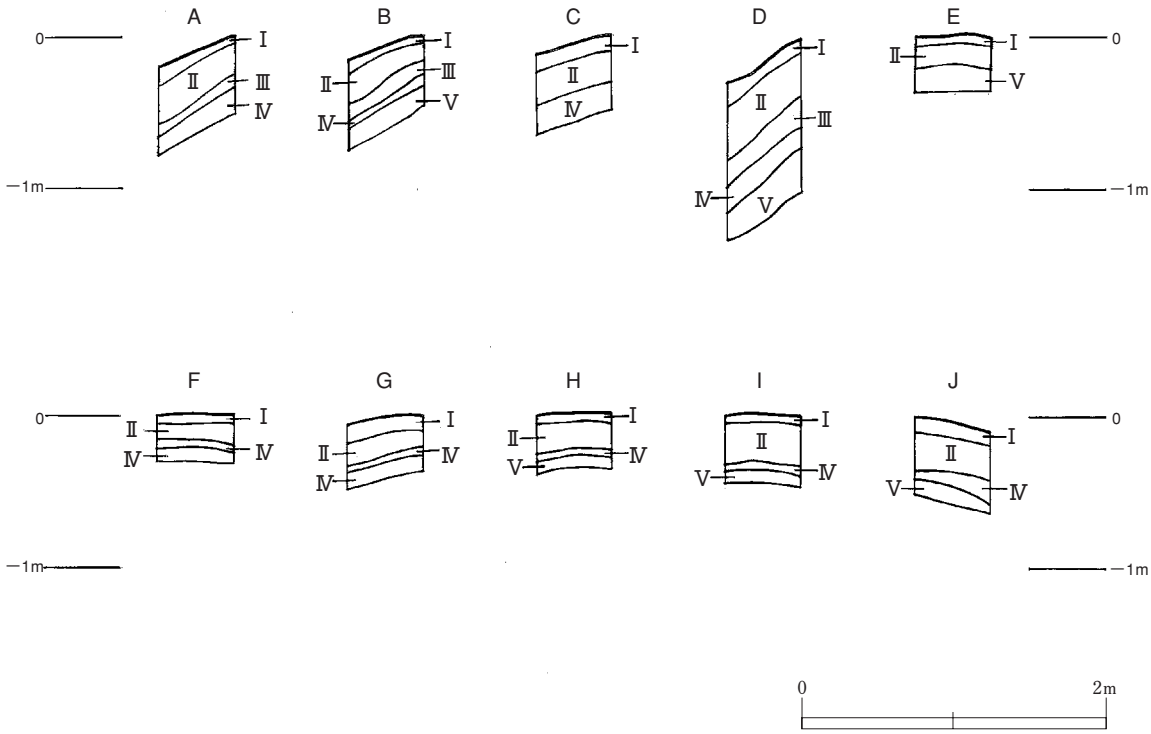
第51図　鹿渡渉Ⅱ遺跡位置図



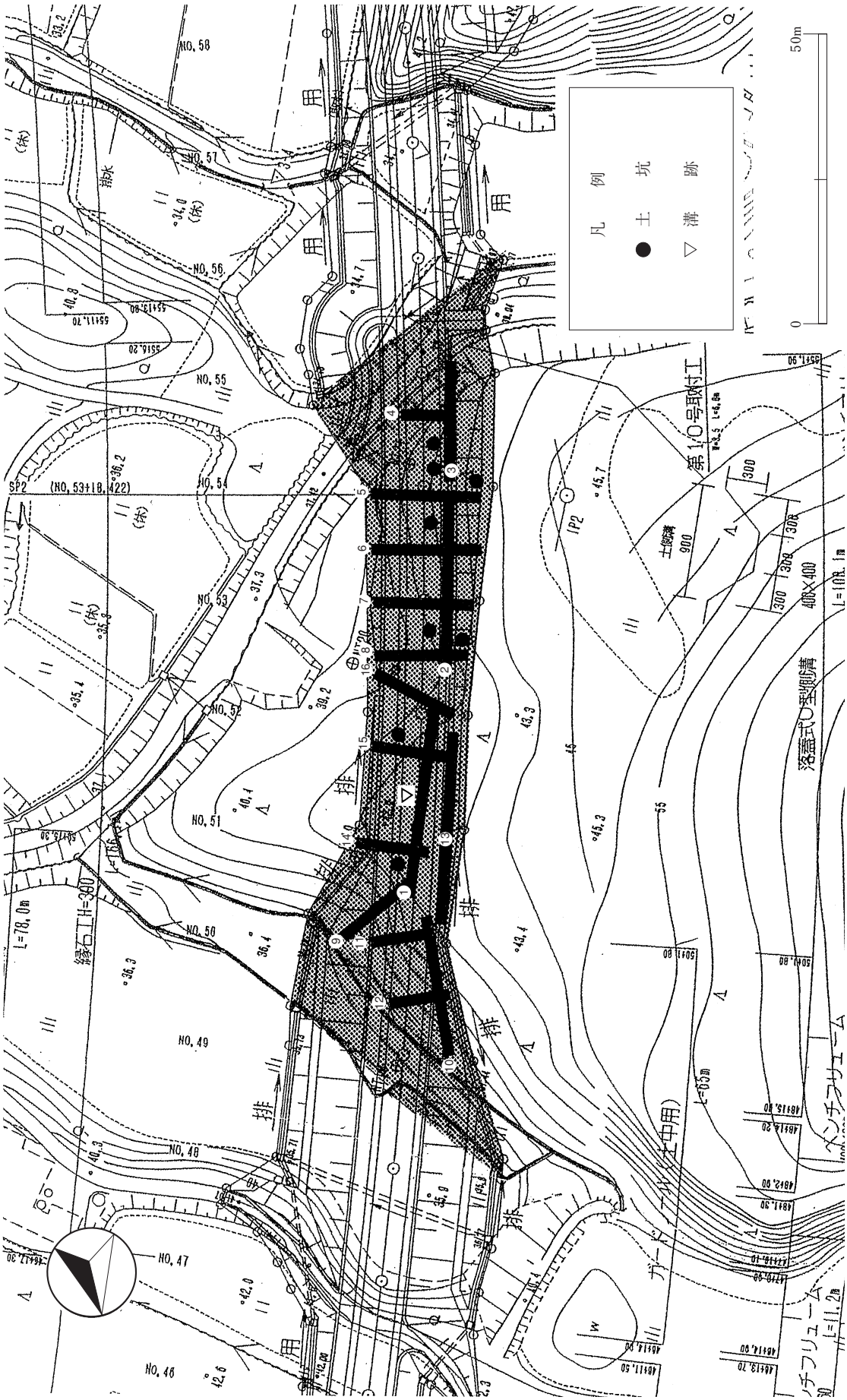
第52図　鹿渡渉Ⅱ遺跡推定範囲図



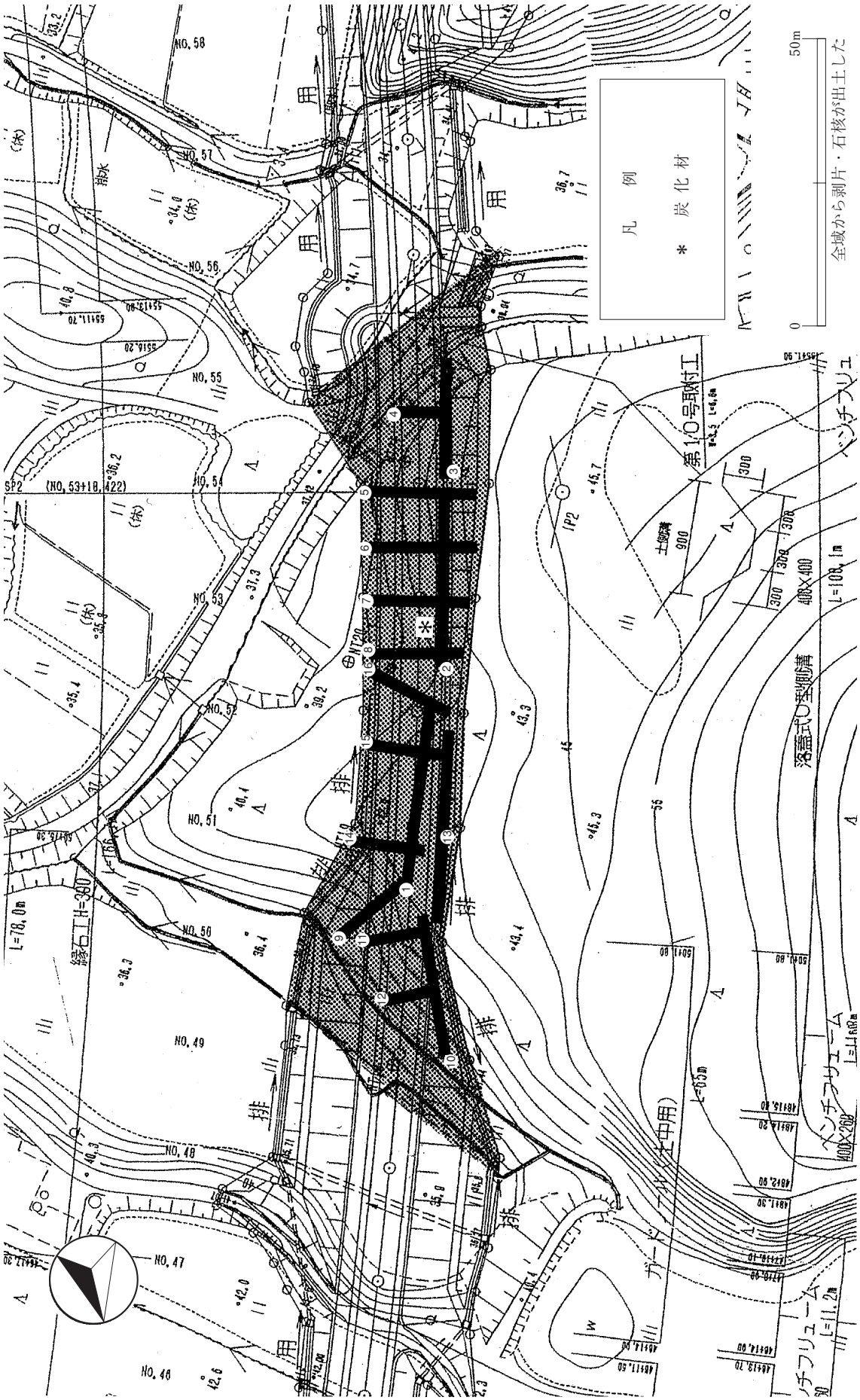
第53図　鹿渡渉Ⅱ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



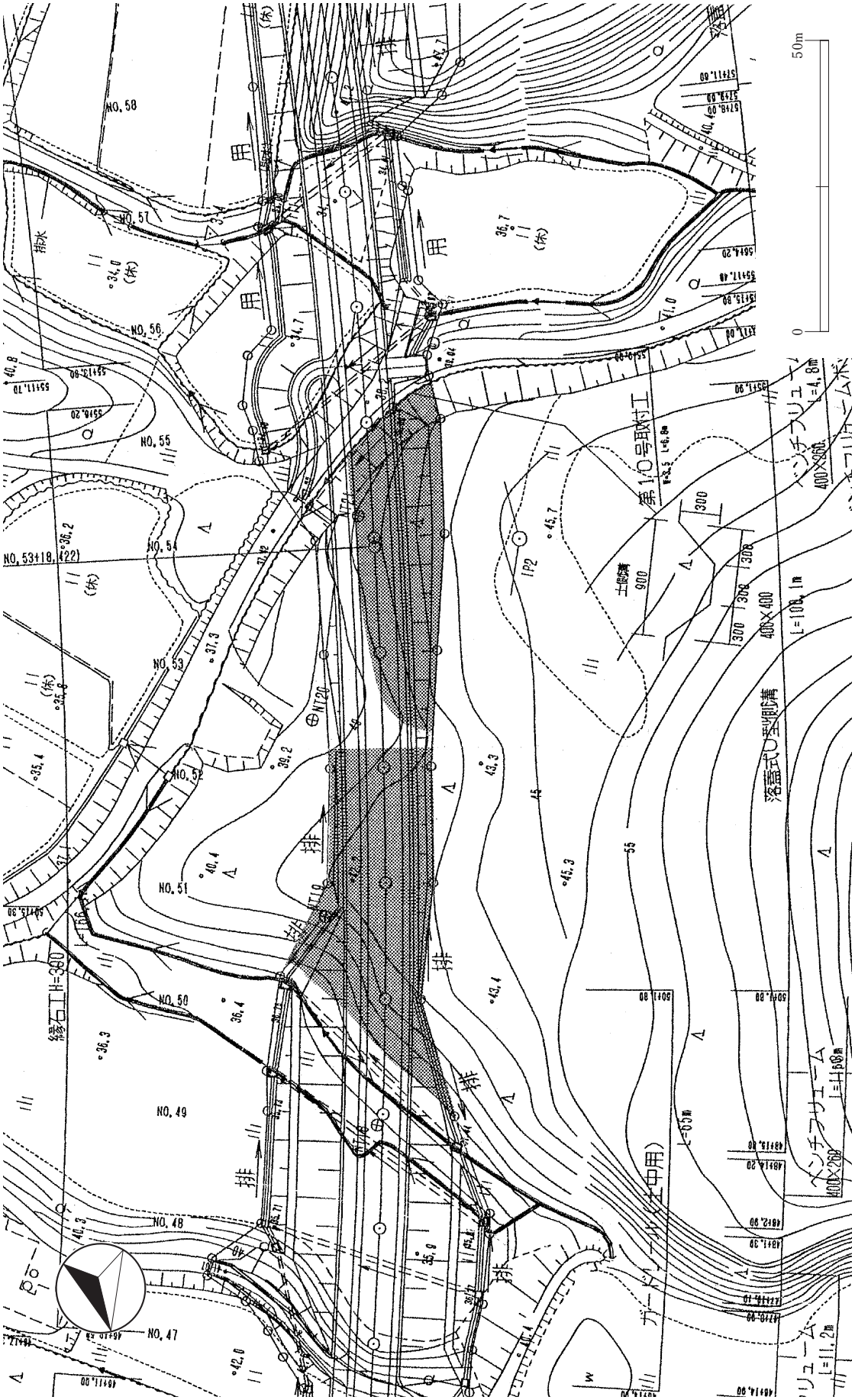
第54図　鹿渡渉Ⅱ遺跡基本層序図



第55図　鹿渡渉Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺構出土地点）



第56図　鹿渡渉口遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第57図　鹿渡渉Ⅱ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡全景（南から）

第1トレンチ検出土坑
確認状況
（北東から）

第2トレンチ検出土坑
炭化物確認状況
（西から）

③樋向（とよむかい）Ⅰ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字樋向107外

2　確認調査期間　　平成17年９月15日～９月30日

3　確認調査対象面積　　3,550㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,300㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約5.1㎞、琴丘町を北流する三種川の支流である小又川の左岸、丘陵地から舌状に延びる台地に位置する。調査区西側は丘陵本体が南北に延び、東側は水田を挟み小又川に面している。対岸には二本杉集落がある。

b　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが既に伐採されており、枝が数か所に積み上げられていた。調査区北側及び東側は、水田や果樹園であった低地へと延びている。調査区東側を町道二本杉軌道線が北東へと延び、県道能代五城目線と接続している。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№70～78に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた西側幅杭を基準に路線と並行に南北方向に５本、それと直行する東西方向に15本、さらに斜面に併せて南西－北東方向に３本、旧軌道上に２本の計25本のトレンチを設定した。それぞれのトレンチはバックホーを使って掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は400㎡で、調査対象面積の約11.3％にあたる。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ、リバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第６トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	黒褐色土	（10ＹＲ2／3）	表土	層厚３～20㎝
第Ⅱ層	暗褐色土	（10ＹＲ3／3）	シルト	層厚５～30㎝
第Ⅲ層	褐色土	（10ＹＲ4／4）	シルト	層厚０～15㎝
第Ⅳ層	黄褐色土	（10ＹＲ5／6）	粘土	地山

遺構は第Ⅳ層で確認された。第Ⅲ層はいずれの箇所でも極めて薄く、調査区中央部では確認されない箇所もあるが周辺部で層厚が若干増す傾向にある。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区全域で土坑を10基確認した。調査区北端低地で確認されたもの以外は大型のプランで、最大長径４ｍ、深さは80㎝に達する。これら大型の土坑の覆土は黒褐色土が主体で、ほとんどの土坑の底部からは頁岩の角礫が見つかることから、原石採掘坑もしくは原石貯蔵坑としての機能を持った土坑と考えられる。北端の２基は長径35～50㎝で、重複関係にある。小型土坑からの出土遺物はない。調査区全域で剥片が、Ⅲ層を中心に確認された。石質は頁岩または硬質頁岩を主体とし

ており、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられる。

８　所見

ａ　遺跡の種類

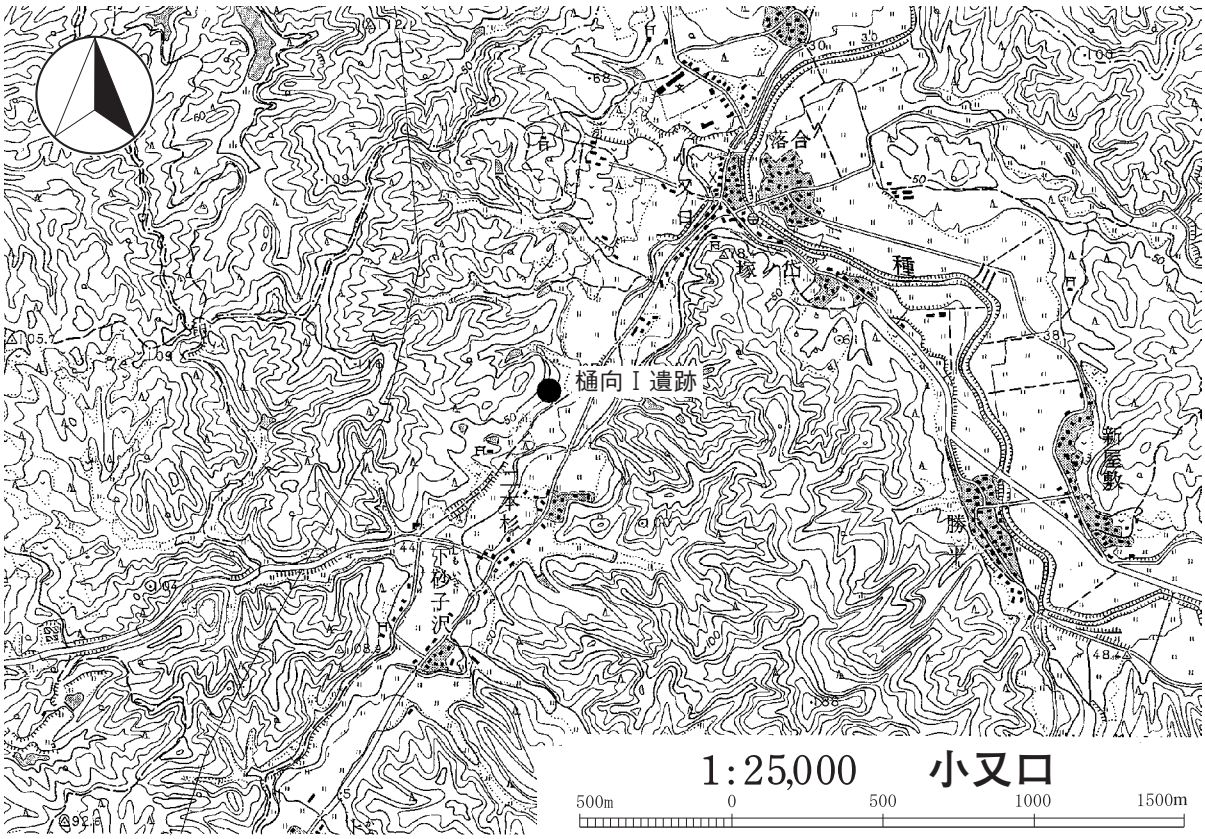
縄文時代（時期不明）の原石採取場所及び石器製作地と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

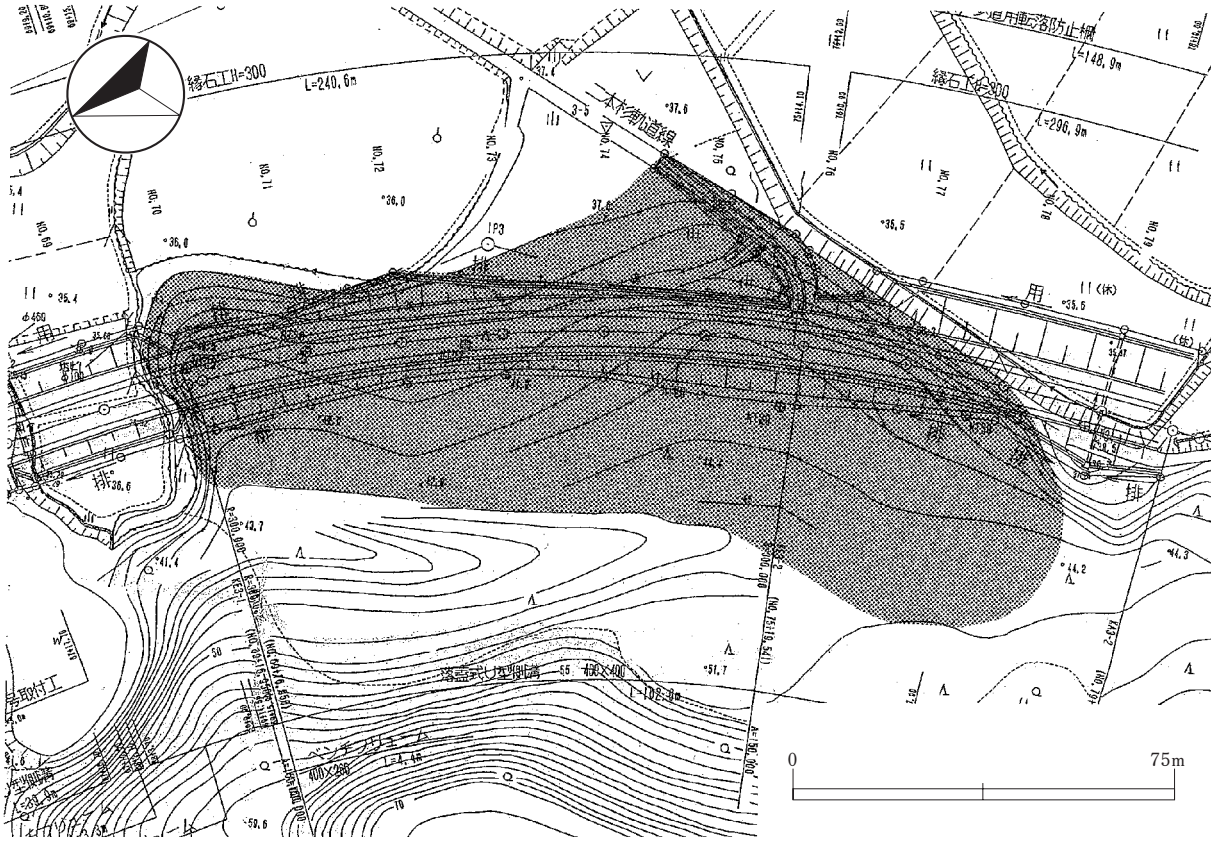
工事区域内遺跡範囲は、確認調査範囲より町道部分を除いた3,300㎡である。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

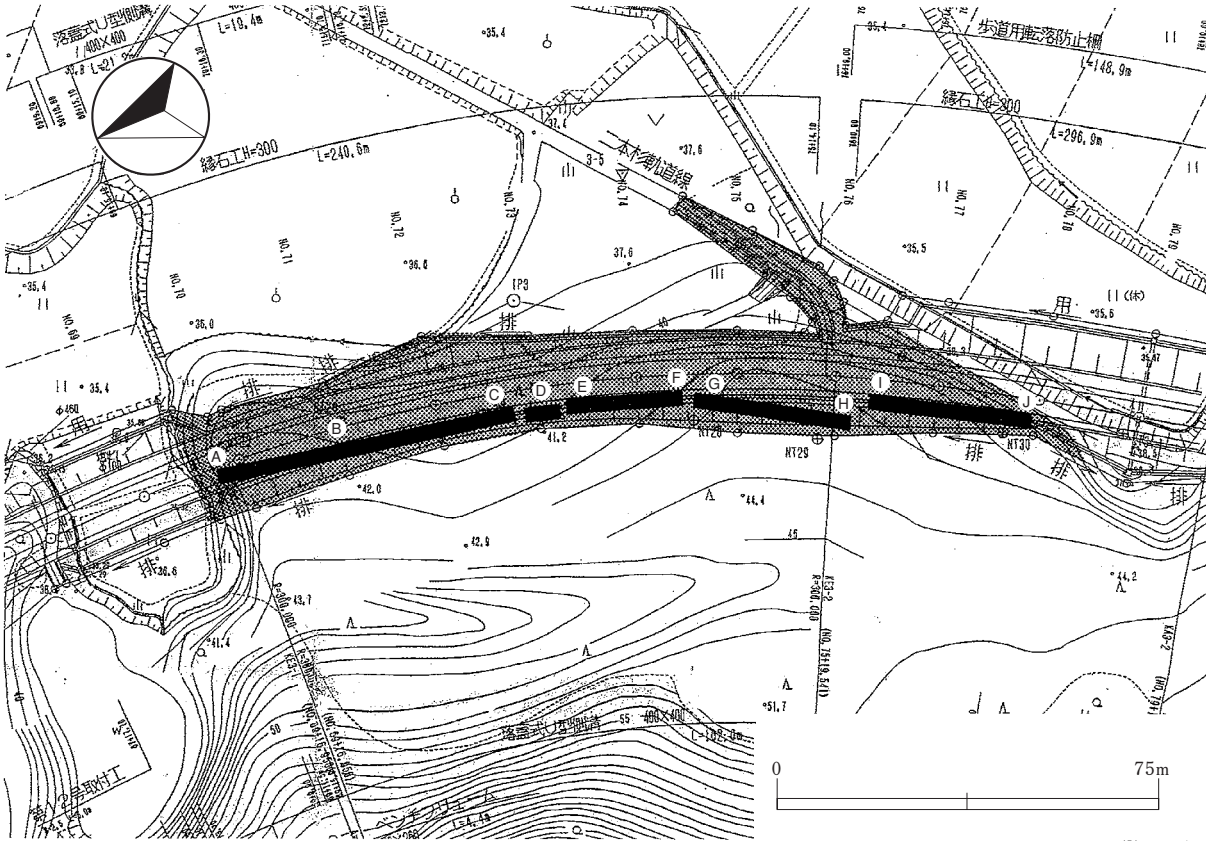
調査範囲の全域より、縄文時代の石材採掘のための土坑の検出が予想されるが、滞留して石器を作っていた可能性もあることから、竪穴住居跡や柱穴様ピット、焼土等の遺構の検出も考えられる。遺物は縄文時代の剥片石器を中心に、土器、石製品などが、中コンテナ換算で100箱前後出土するものと思われる。



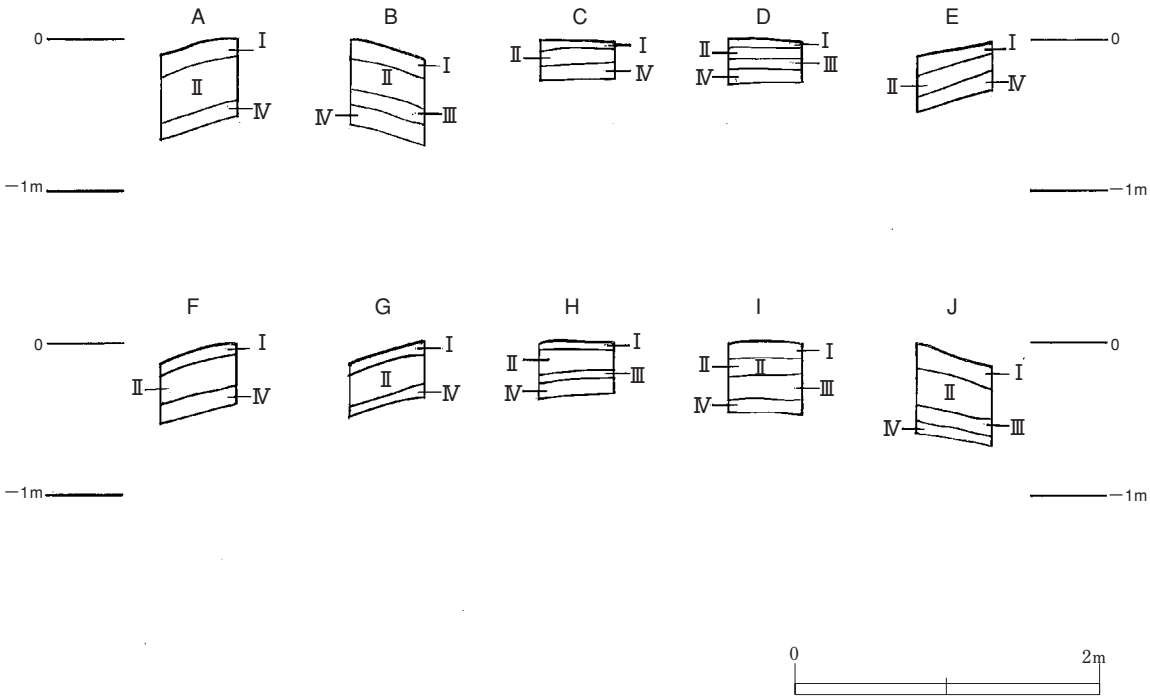
第58図　樋向Ⅰ遺跡位置図



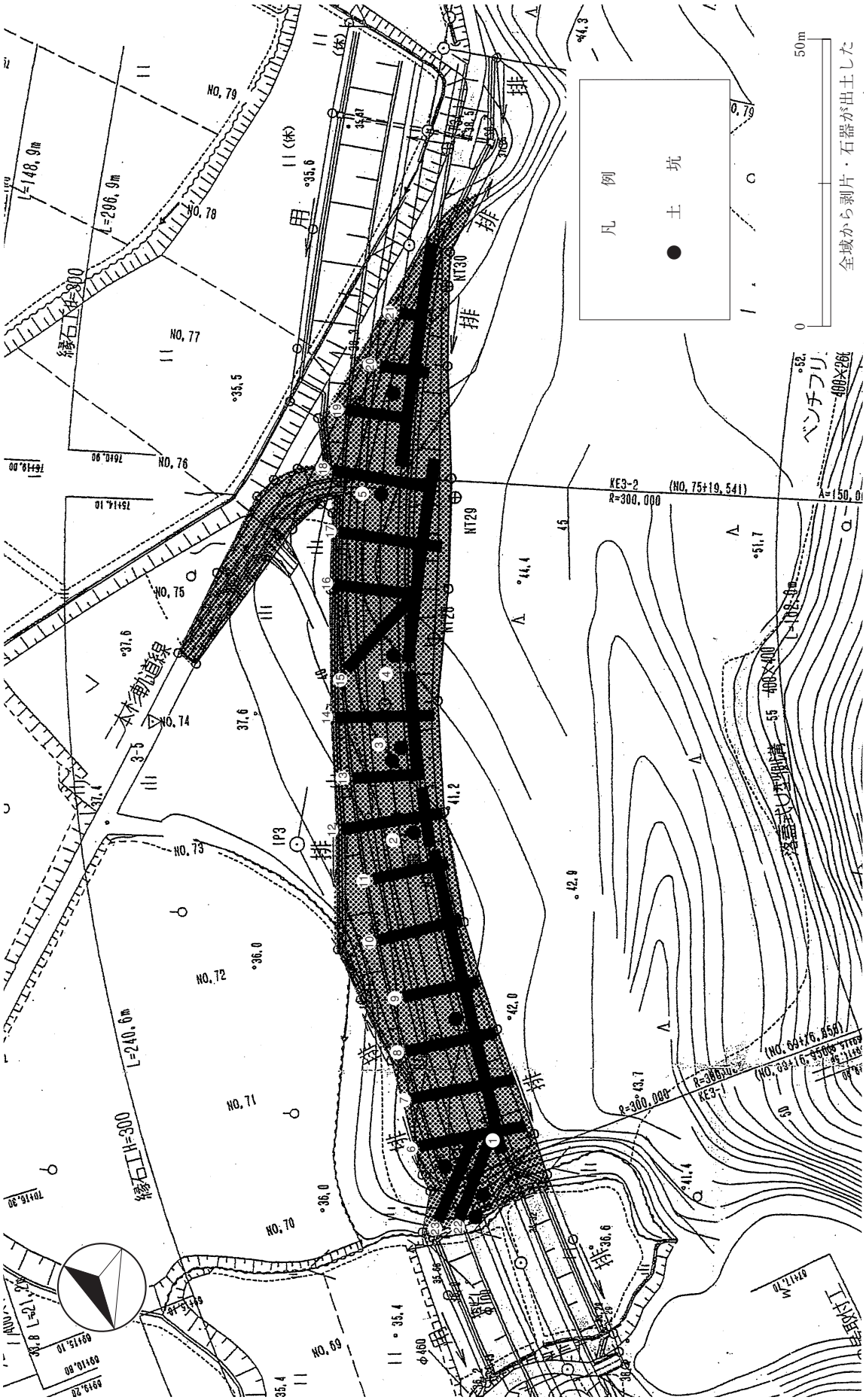
第59図　樋向Ⅰ遺跡推定範囲図



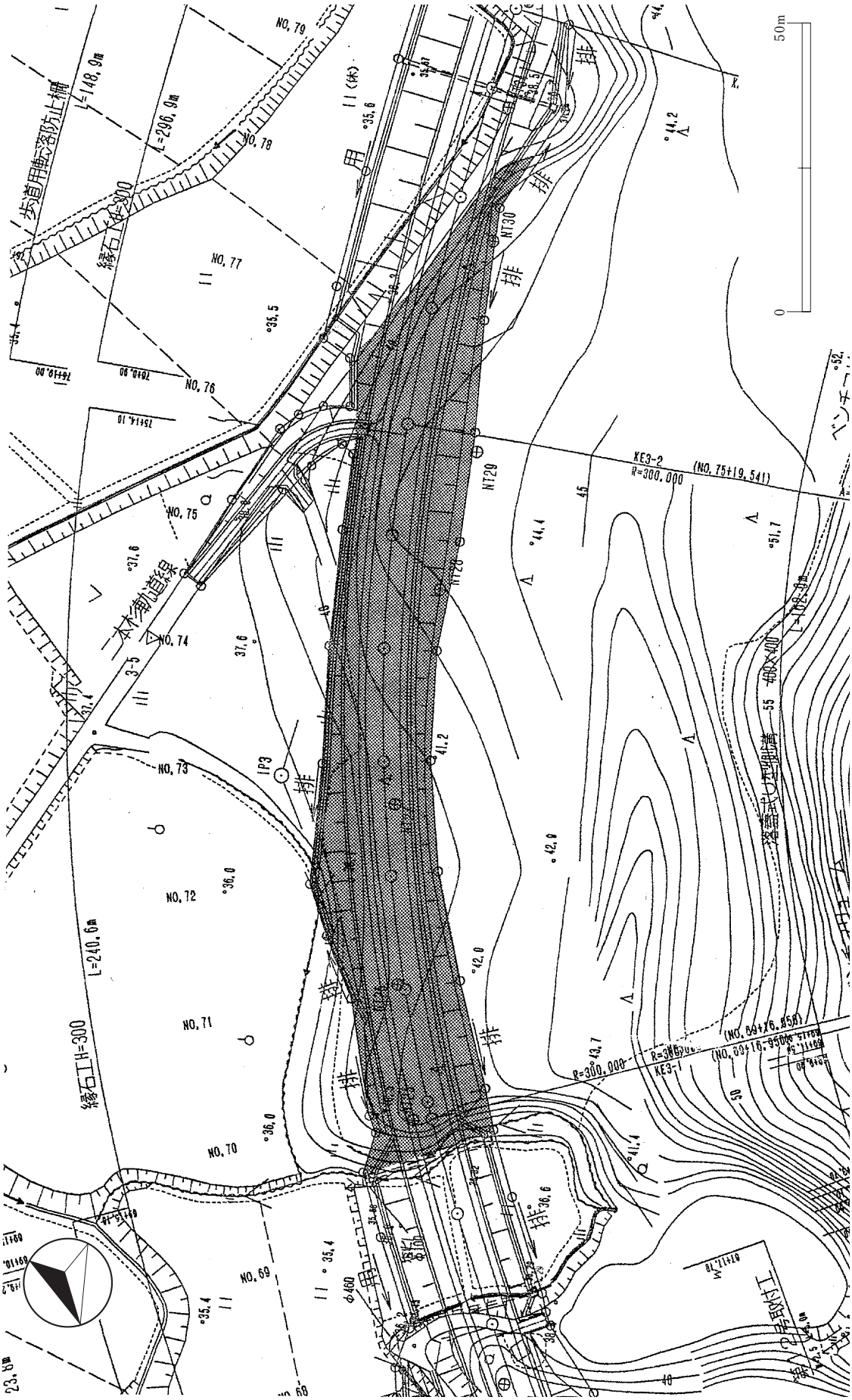
第60図　樋向Ⅰ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第61図　樋向Ⅰ遺跡基本層序図



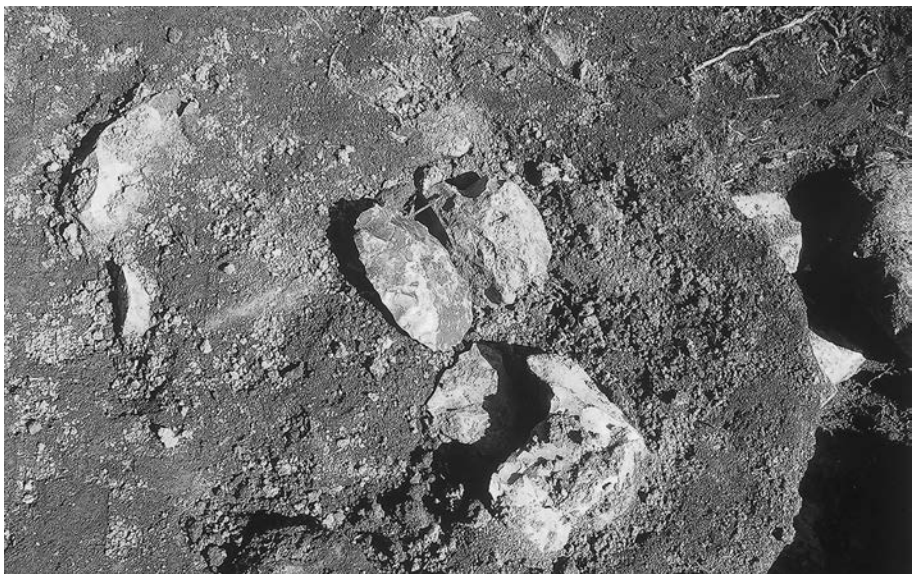
第62図　樋向Ⅰ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第63図　樋向Ⅰ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡全景（南から）

第４トレンチ内土坑
確認状況
（南から）



第13トレンチ
遺物出土状況
（南西から）

④樋向（とよむかい）Ⅱ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字樋向32-1外

2　確認調査期間　　平成17年９月14日～９月26日

3　確認調査対象面積　　530㎡

4　工事区域内遺跡面積　　290㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約5.1km、琴丘町を北流し東部承水路を経て馬場目川（八郎潟調整池）に流入する二級河川三種川の支流である小又川の左岸丘陵地縁辺部に位置する。調査区西側は女川層を基盤とする丘陵本体が南北に延び、東側は町道を挟み水田及び小又川に面している。小又川右岸域は、船川層を基盤とする丘陵が広がっている。

b　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが既に伐採されている。調査区東側にはかつての軌道が町道二本杉軌道線として北へ延び、北に接する樋向Ⅰ遺跡から北東へ延びて県道能代五城目線と接続している。他の３方向は山林である。調査区中央は沢状地形をなし、常に若干量の水が流れている。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№80～82に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた西側幅杭を基準に路線と並行に南北方向に１本、それと直行する東西方向に１本、さらに調査区北側の斜面にあわせて南西－北東方向に１本と、計３本のトレンチを設定した。それぞれのトレンチはバックホーを使って掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。南北方向の１トレンチは、中央沢状地形を横断させ、その堆積状況についても確認をしている。確認調査における試掘面積は約40㎡で、調査対象面積の約7.5％にあたる。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ、リバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第１トレンチ北側の土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	黒褐色土	（10ＹＲ2／3）	表土	層厚２～20cm
第Ⅱ層	暗褐色土	（10ＹＲ3／3）	シルト	層厚３～40cm
第Ⅲ層	褐色土	（10ＹＲ4／4）	漸移層	層厚０～25cm
第Ⅳ層	黄褐色土	（10ＹＲ5／6）	粘土　地山	

調査区中央台地面及び北側斜面ではⅠ～Ⅲいずれの層も極めて薄く、中央台地周辺部で若干層厚が増している。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、第１トレンチ上に土坑が４基確認された。調査区南側の２基は長径40～50㎝と小型で、深さも20㎝程度と浅い。北側の２基はやや大型のもので、長径約130～170㎝、深さ40～50㎝である。大型の２基とも上位に黒色土の堆積が見られ、その黒色土中から石器、石核が大量に出土した。

第２トレンチ、第３トレンチでは遺構は確認されなかった。遺物は、小型の剥片がトレンチ各所から出土しており、表土にも多くの剥片が含まれている。石質は頁岩または硬質頁岩を主体としており、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられる。

８　所見

ａ　遺跡の種類

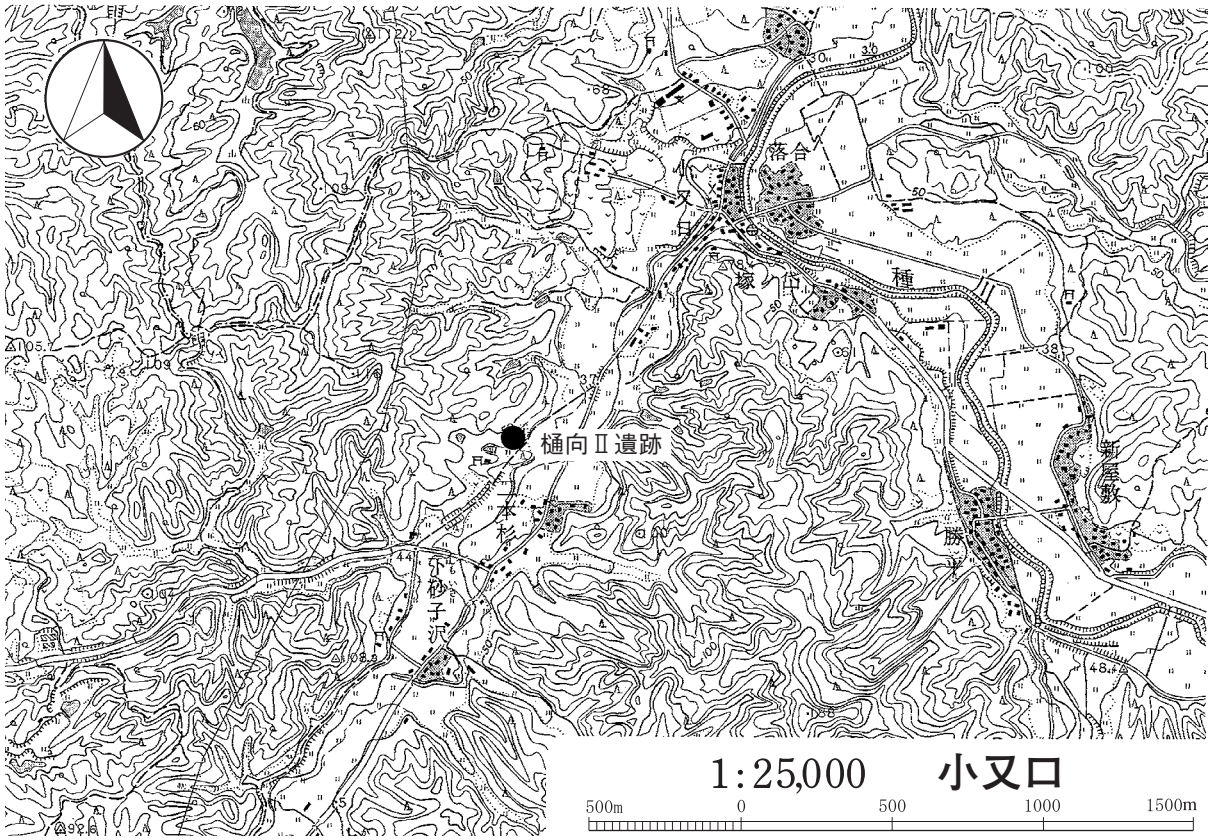
縄文時代の原石採取場所及び石器製作地と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

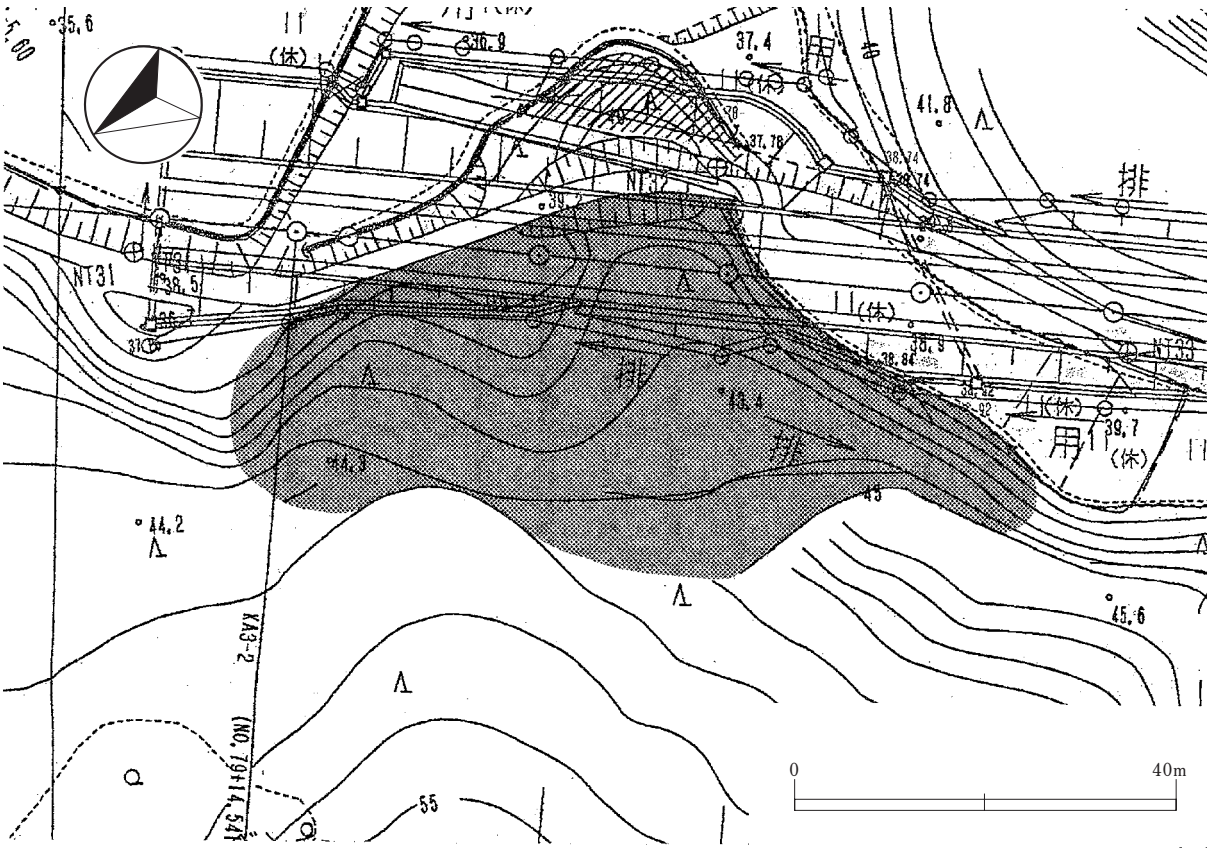
工事区域内遺跡範囲は、台地上面を中心とした290㎡である。沢部は調査の結果撹乱が激しく、北側は遺構は検出されず、遺物も剥片が数点確認されたのみだったことから調査範囲外とした。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

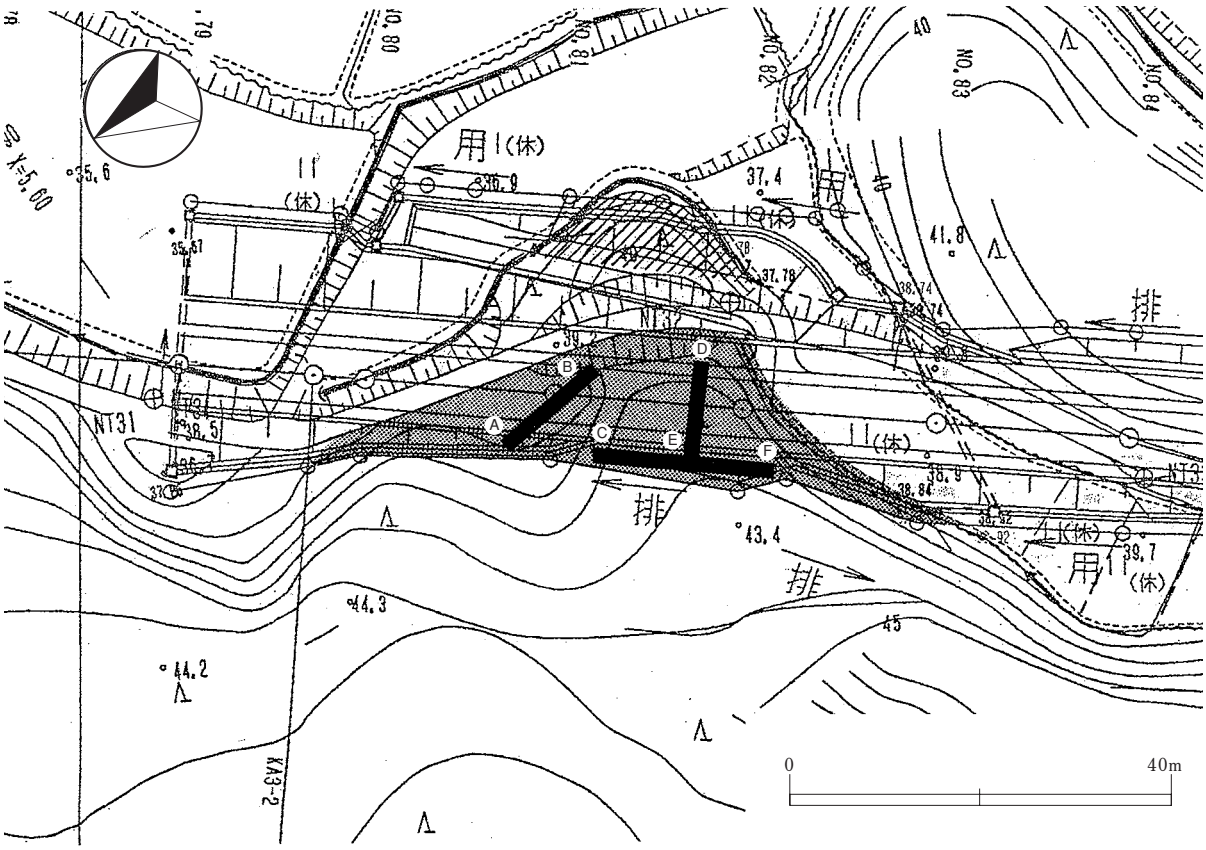
縄文時代の土坑が検出されると考えられる。遺物は縄文時代の剥片石器を中心に、土器等が中コンテナ換算で30箱前後出土するものと思われる。



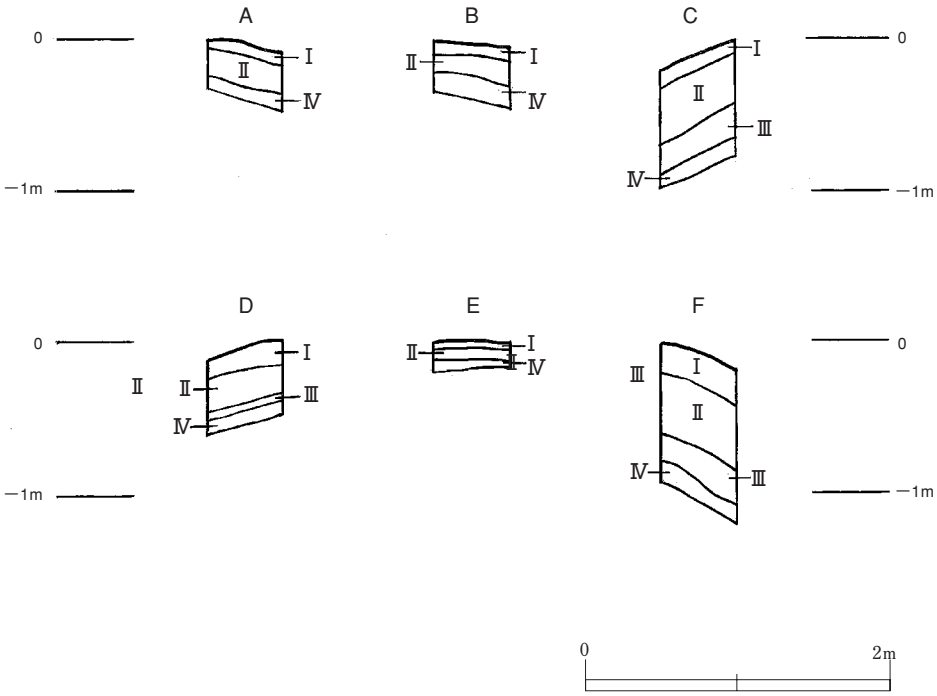
第64図　樋向Ⅱ遺跡位置図



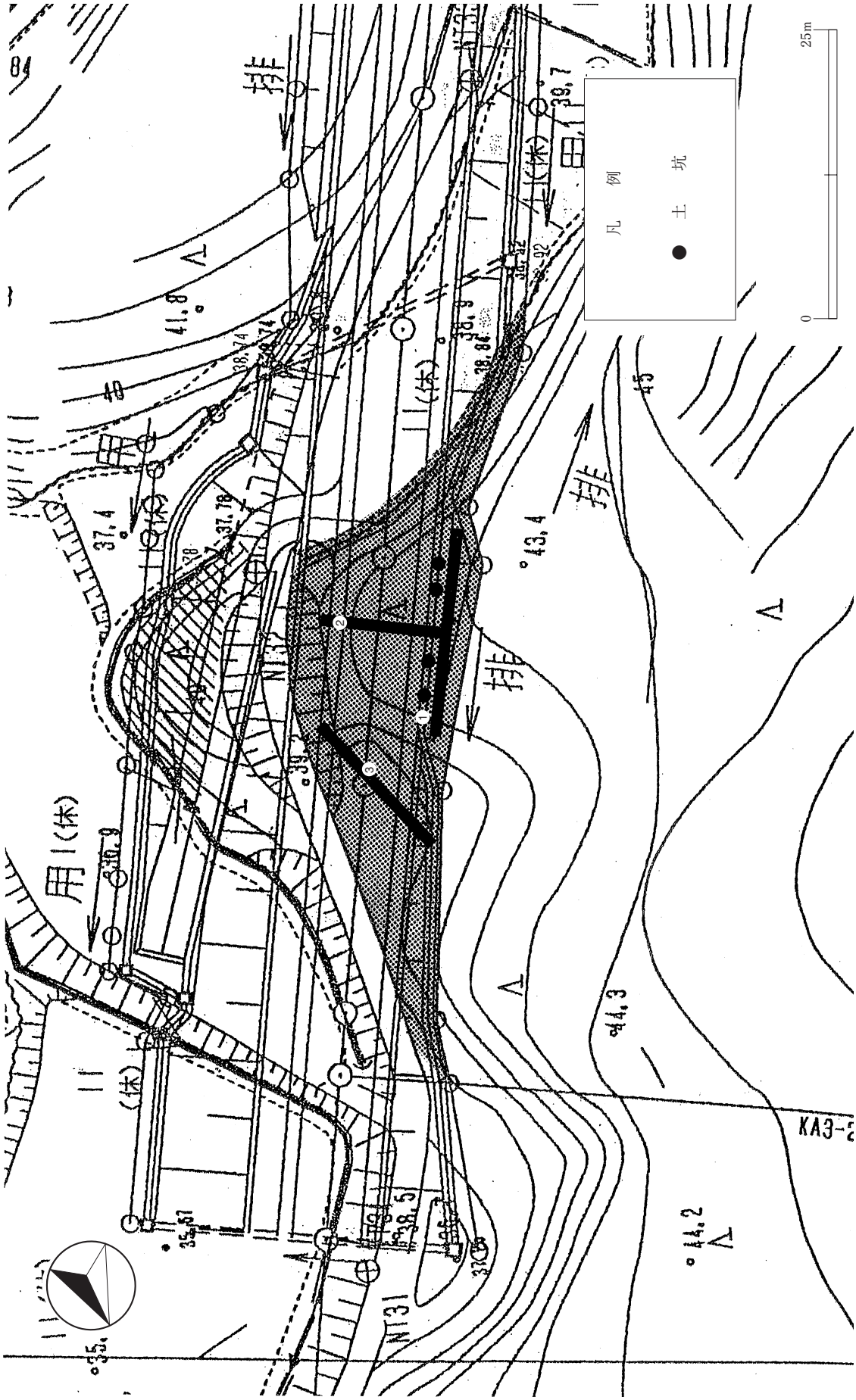
第65図　樋向Ⅱ遺跡推定範囲図



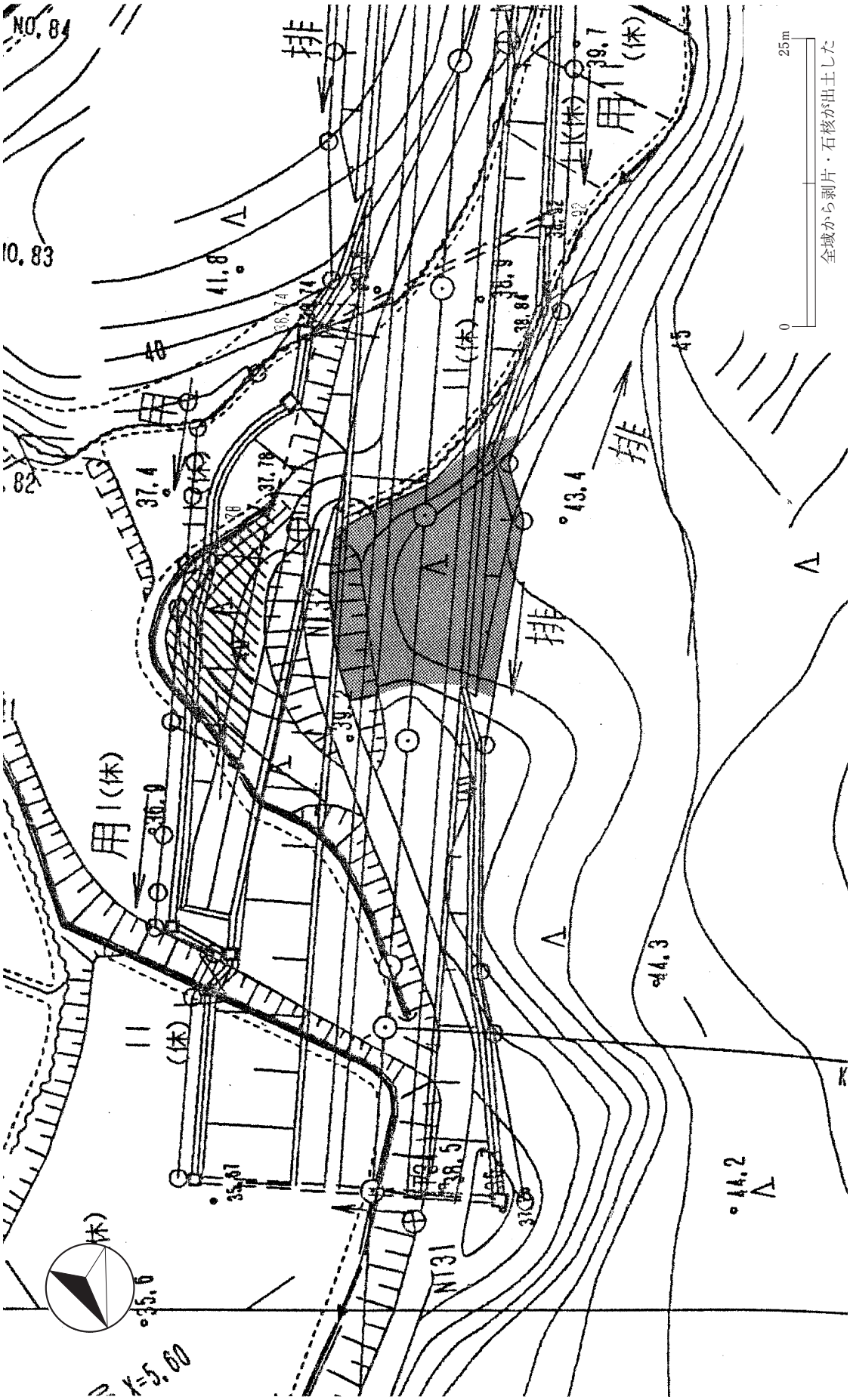
第66図　樋向Ⅱ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第67図　樋向Ⅱ遺跡基本層序図



第68図　樋向Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第69図　樋向Ⅱ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡全景
（南西から）

第１トレンチ南側
土坑確認状況
（南東から）

第１トレンチ北側
土坑確認状況
（北西から）

⑤樋向（とよむかい）Ⅲ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字樋向14-1外

2　確認調査期間　　平成17年９月７日～９月20日

3　確認調査対象面積　　1,060㎡

4　工事区域内遺跡面積　　950㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約5.3㎞、琴丘町を北流する三種川の支流である小又川左岸丘陵地から、旧軌道によって独立した台地上に位置する。調査区西側は丘陵本体が南北に延び、東側は水田を挟み小又川及び二本杉集落に面している。この水田と二本杉集落は、小又川によって形成された河岸段丘状に位置している。

b　現況

松や杉等の針葉樹が生える山林であったが既に伐採されている。調査区東側は台地の延長が張り出しており、調査区南隣とともに急傾斜をもって水田をなす低地と接続している。調査区の西は、旧軌道が町道二本杉軌道線として南北へ延び、この町道向かい側の南西方向で大沢Ⅰ遺跡、北西方向で樋向Ⅱ遺跡と面している。この町道はさらに樋向Ⅰ遺跡付近から北東に延び、県道能代五城目線と接続している。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№83～87に相当する、台地縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた東側幅杭を基準に路線と並行に南北方向に１本、それと直行する東西方向に２本、計３本のトレンチを設定した。それぞれのトレンチは調査区全面に剥片が散布することから人力で掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は80㎡で、調査対象面積の約7.5％にあたる。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ、リバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第１トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	黒色土	（10ＹＲ2／1）	表土	層厚３～25㎝
第Ⅱ層	暗褐色土	（10ＹＲ3／3）	シルト	層厚３～30㎝
第Ⅲ層	褐色土	（10ＹＲ4／4）	シルト	層厚０～20㎝
第Ⅳ層	黒褐色土	（10ＹＲ3／2）	漸移層	層厚０～60㎝
第Ⅴ層	明黄褐色土	（10ＹＲ6／6）	粘土　地山	下部に角礫を多く含む。

調査区の南半分は広く撹乱を受けており、Ⅱ層のほとんどが削平され地形も北側より若干下がっている。Ⅲ層は北側斜面でのみ確認された。Ⅰ層からⅢ層まで剥片を大量に含んでおり、Ⅳ層上面でも確認されている。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、炉跡と思われる薄い焼土を伴った土器埋設遺構１基、土坑５基が検出された。土器埋設遺構は、撹乱を受けない北側調査区で南側との境界付近、つまり第１トレンチ中央付近で検出された。土器は縄文時代後期のものである。トレンチ内には、埋設土器に付随する遺構は確認されなかった。土坑は調査区北側及び西側の斜面近くで確認され、いずれも長径が1m以上、深さが50～80㎝と大型のものである。その底部からは硬質頁岩の礫が出土している。遺物は、第Ⅰ・第Ⅱ層で微細な剥片が大量に確認されたが、第１トレンチ北側で確認されたⅢ層黒色土からは大型の剥片、石核も大量に出土した。石質は頁岩または硬質頁岩を主体としており、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられる。

８　所見

ａ　遺跡の種類

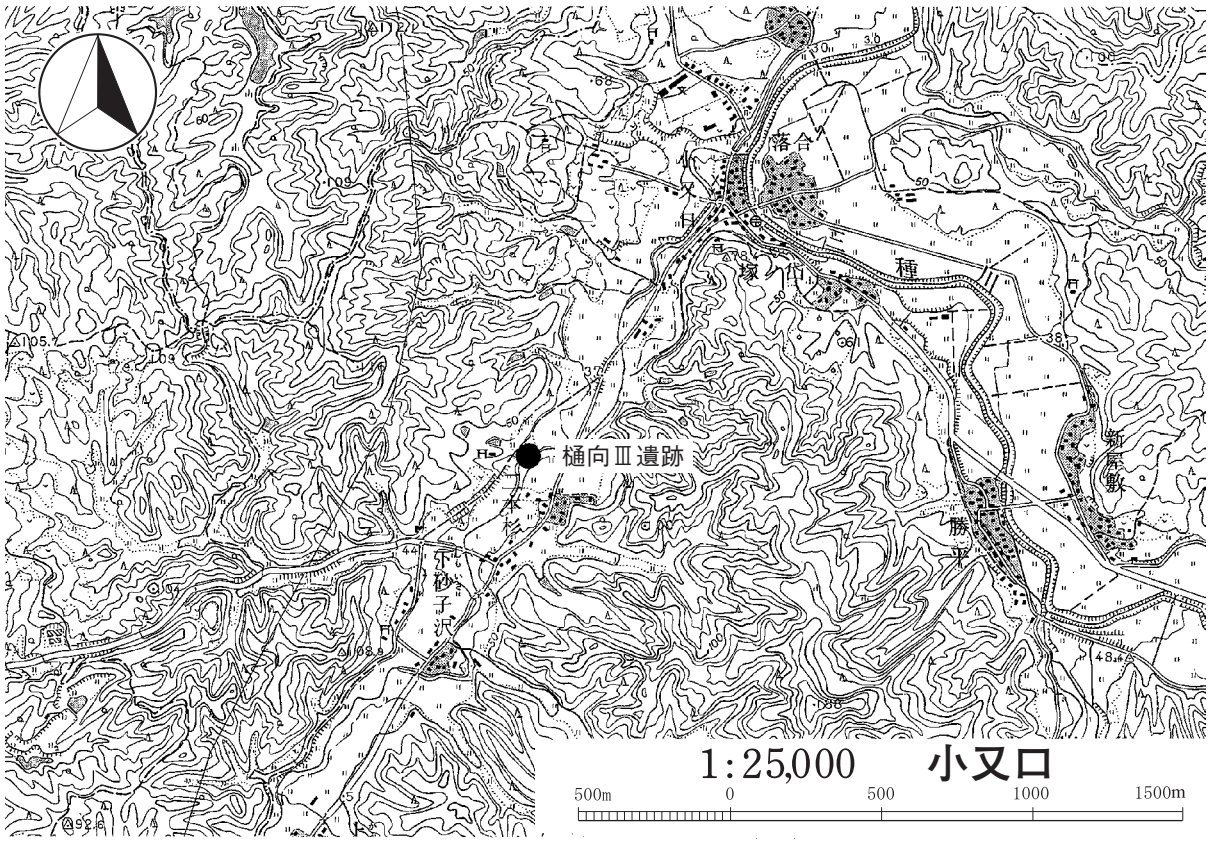
縄文時代の原石採取場所及び石器製作地と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

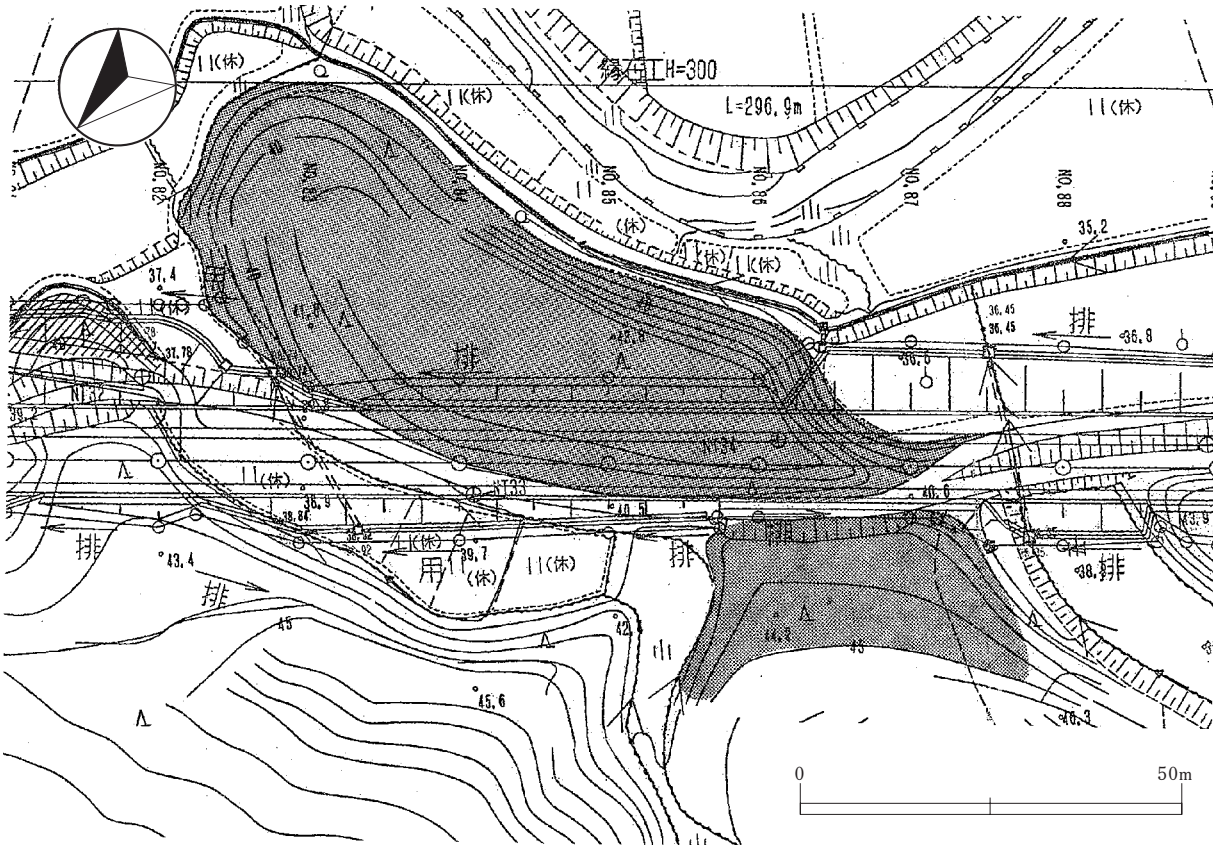
工事区域内遺跡範囲は、確認調査対象から南側斜面を除いた950㎡である。台地上面及び北・西側斜面では遺構が確認されている。南側斜面はその斜度や高低差が大きく、崖表面全体に女川層の硬質頁岩が露出し、遺構が確認されなかったことより調査範囲外とした。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

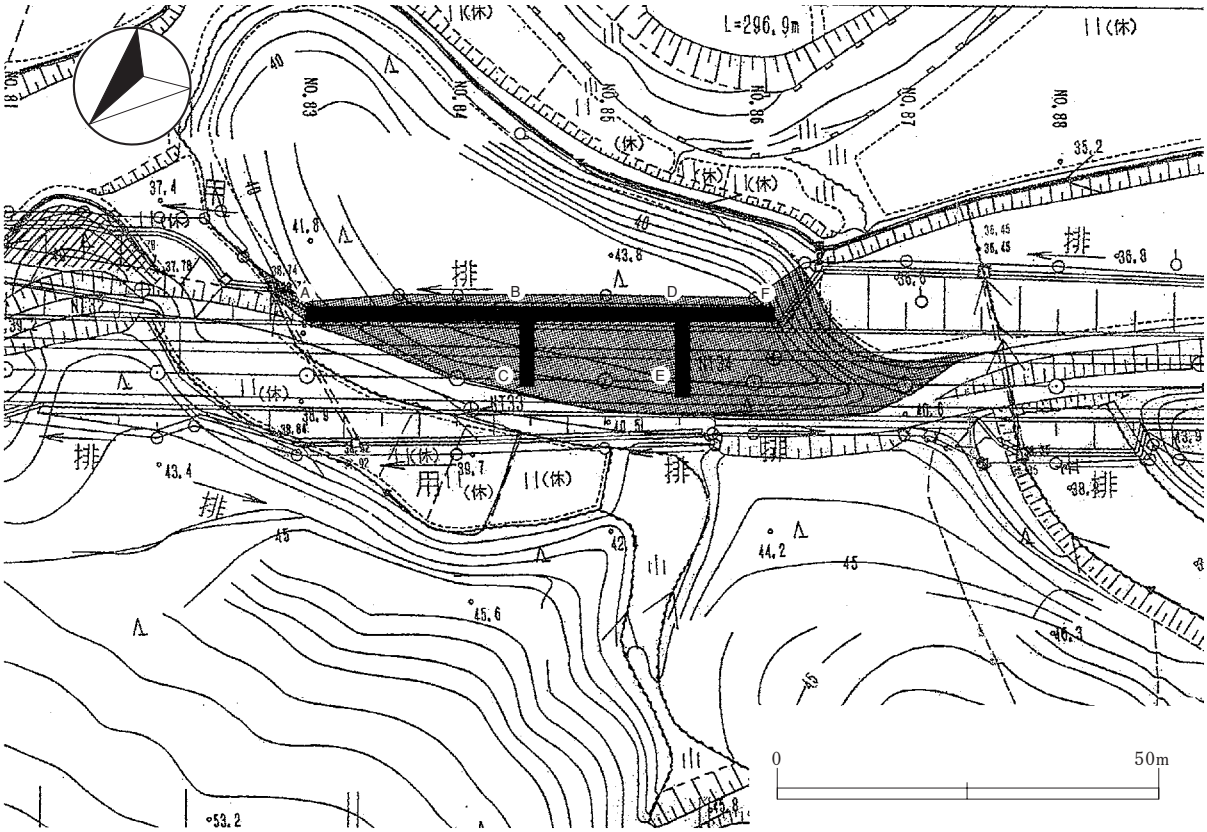
調査区全域で原石採掘坑やその他の土坑、土器埋設遺構に伴う焼土、ピット、住居跡などが検出されると考えられる。なお、遺跡の本体は調査区東の山林に延びているものと思われる。遺物は縄文時代後期を中心とする石器、土器であり、その総量は中コンテナ換算で 100 箱以上と見込まれる。多くは剥片石器と考えられるが、遺跡周辺の落ち込みで、大型の剥片や石核の出土が確認されており、製品の出土も予想される。



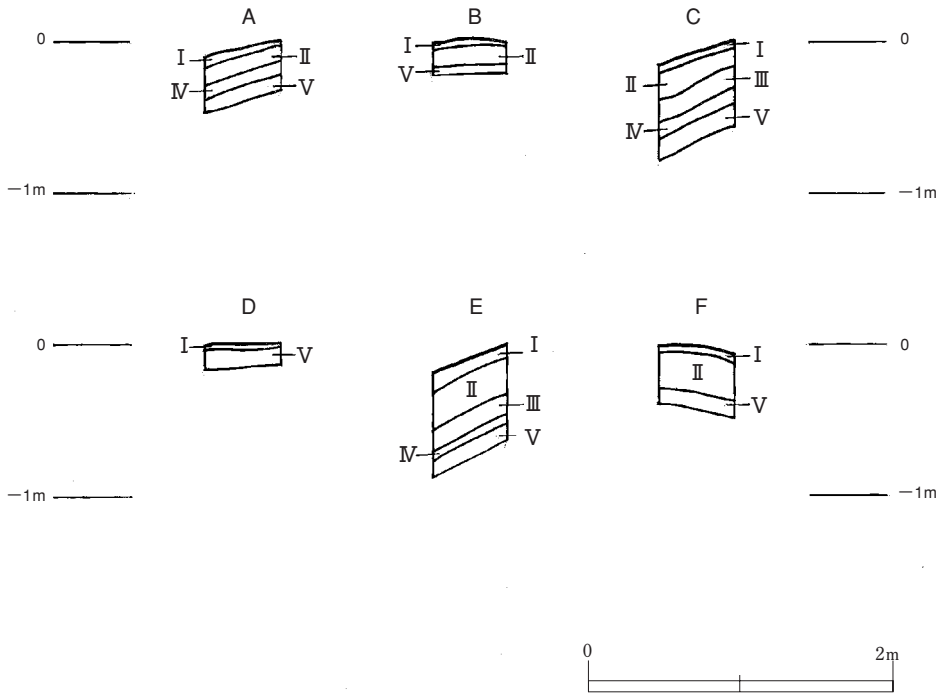
第70図　樋向Ⅲ遺跡位置図



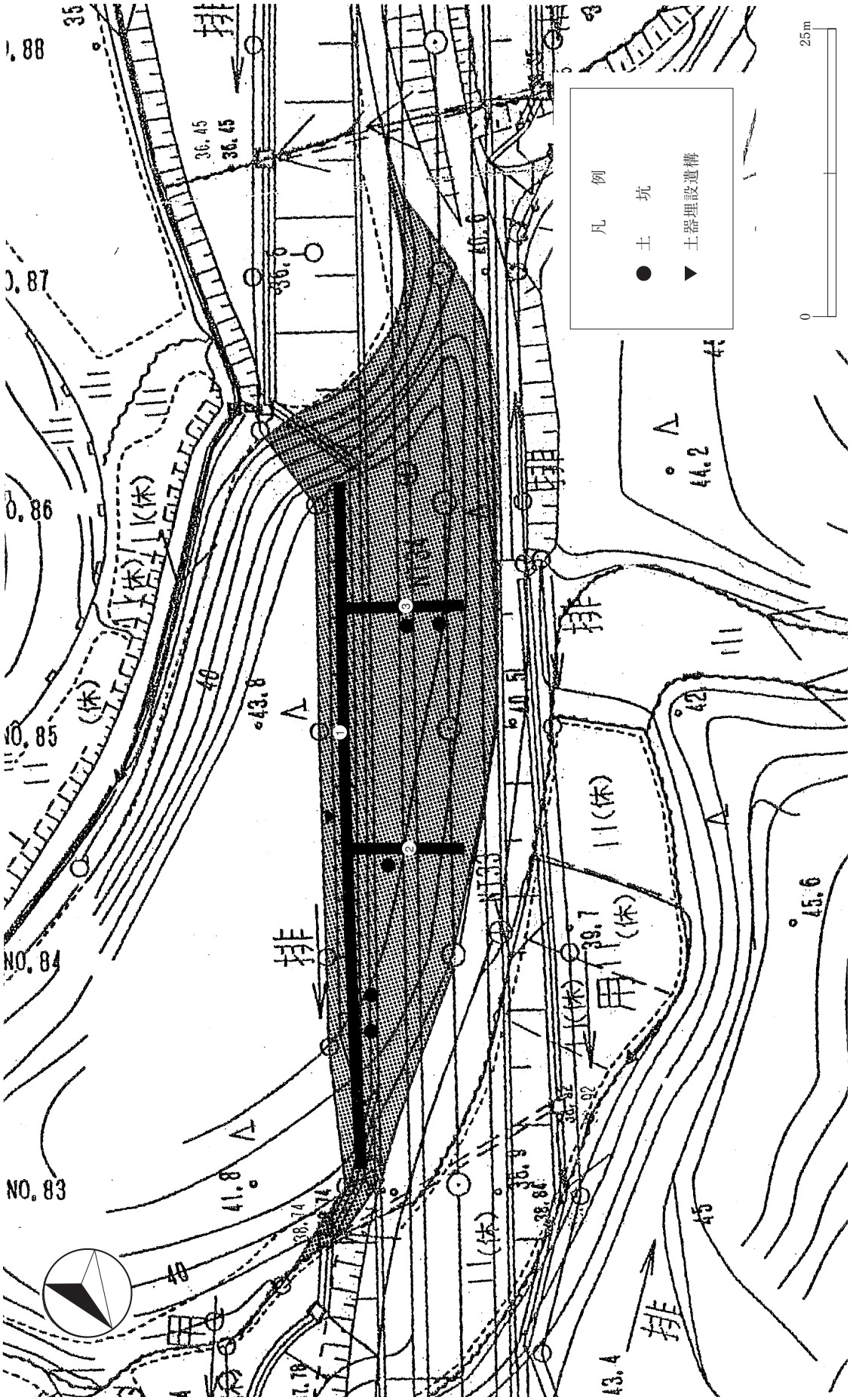
第71図　樋向Ⅲ遺跡推定範囲図



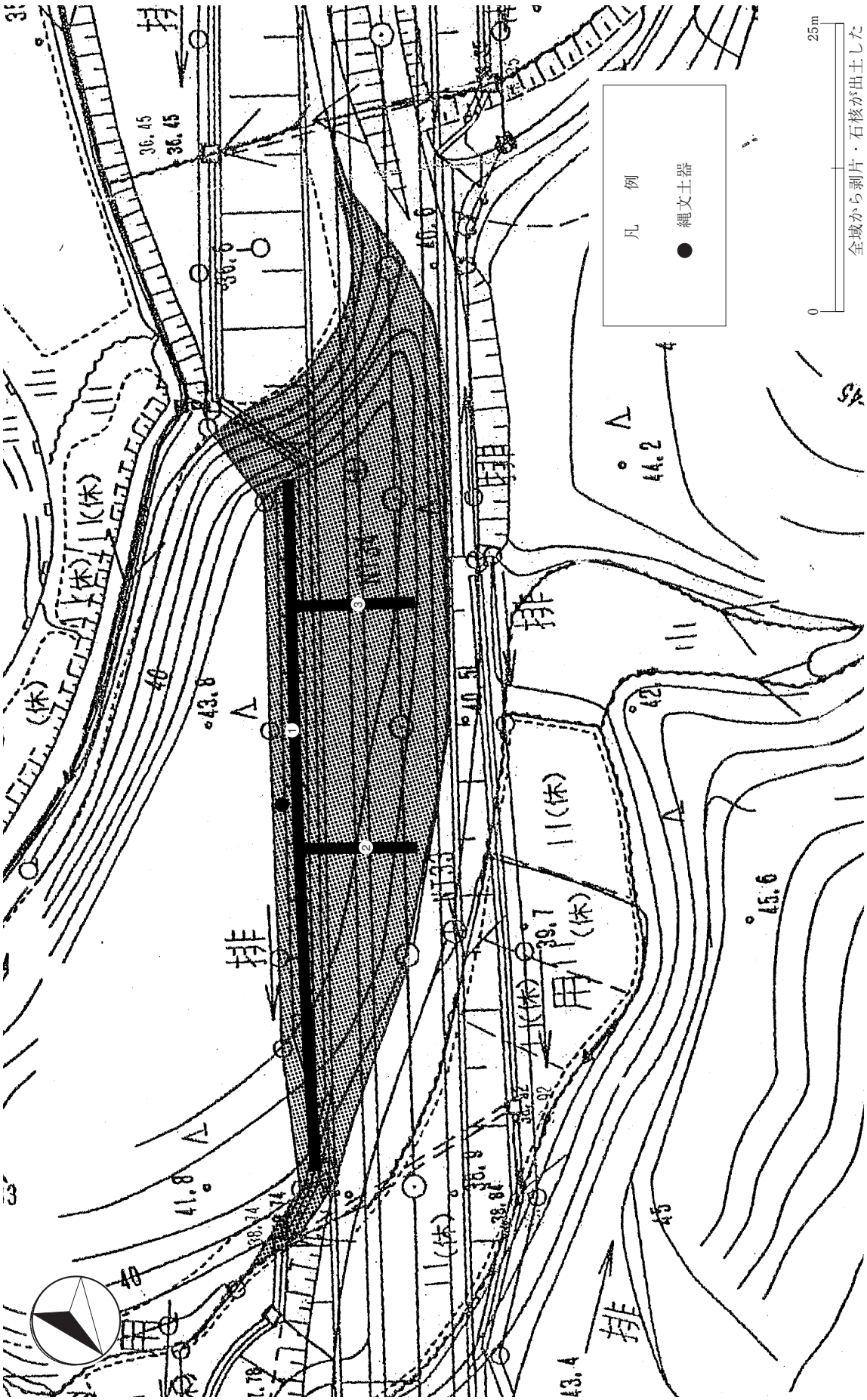
第72図　樋向Ⅲ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



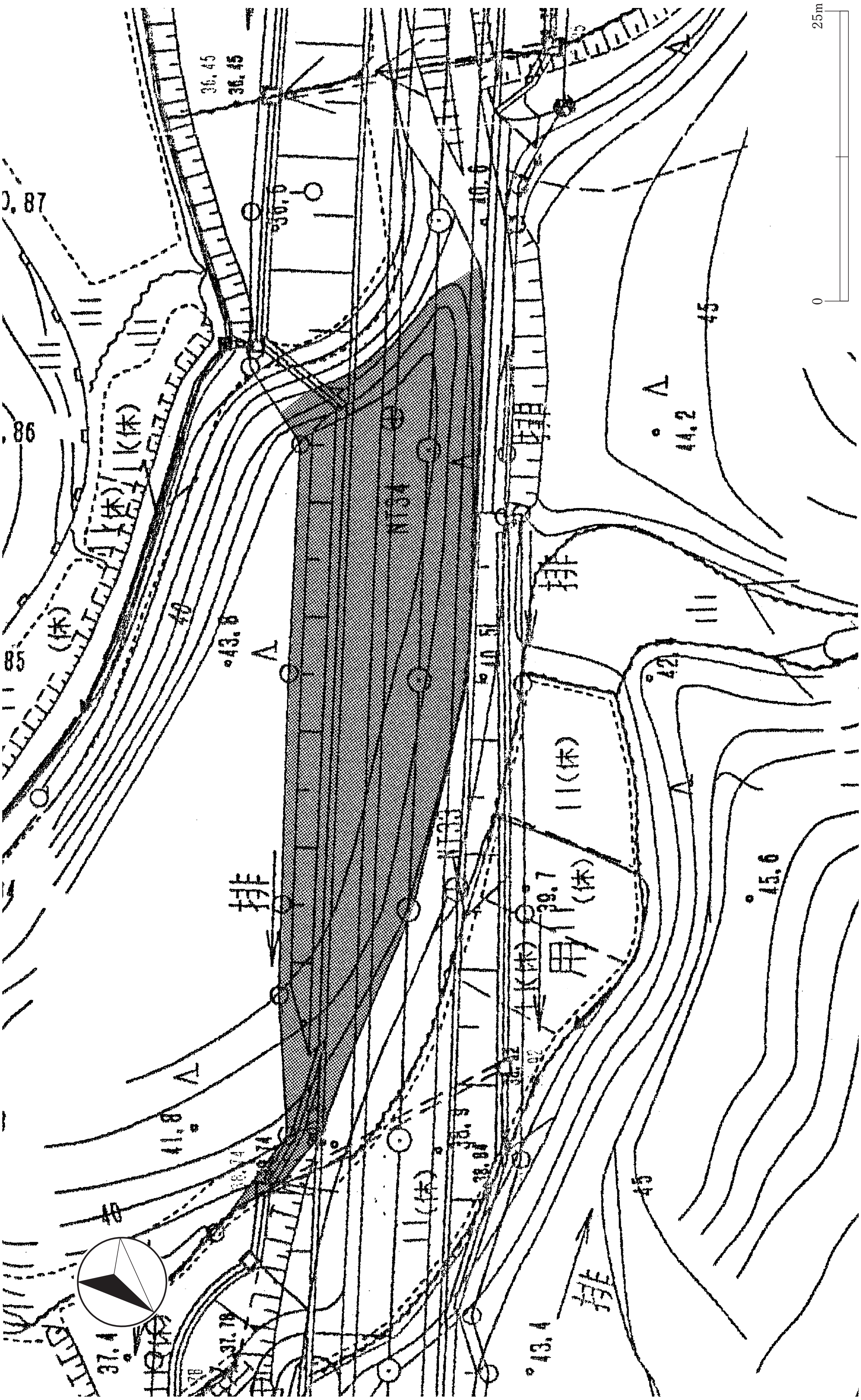
第73図　樋向Ⅲ遺跡基本層序図



第74図　樋向Ⅲ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第75図　樋向Ⅲ遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第76図　樋向Ⅲ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡全景
（南から）

第３トレンチ内土坑
確認状況
（南東から）

第１トレンチ内
土器埋設遺構確認状況
（南東から）

⑥大沢（おおさわ）Ⅰ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字大沢 156 外

2　確認調査期間　　平成17年８月30日～９月１日

3　確認調査対象面積　　2,030㎡

4　工事区域内遺跡面積　　1,170㎡（Ａ区800㎡・Ｂ区370㎡）

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約4.9㎞、琴丘町を北流し東部承水路を経て馬場目川（八郎潟調整池）に流入する二級河川三種川の支流、小又川の左岸丘陵縁辺部に位置する台地上に立地する。調査区西側は丘陵本体が連なり、山林が続いている。東側は若干の崖を挟み、水田及び小又川に面している。女川層を基盤としており、調査区東側の崖や近隣で硬質頁岩の露頭が見られる。

b　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが、既に伐採されており、枝が数か所に積み上げられていた。調査区東側崖下にはかつての軌道が町道二本杉軌道線として残っており、県道能代五城目線と接続している。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№89～95に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた中心杭を基準に、路線に添って調査区南側と北側に各１本、さらにそれと直行する東西方向に13本、計15本の幅１ｍのトレンチを設定した。トレンチは0.25バケットのバックホーを使って掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。また、トレンチの数か所でさらに深く掘り下げ、地山面下位の土層の様子と旧石器時代の遺構・遺物の確認を行った。確認調査における試掘面積は約320㎡で、調査対象面積の15.8％にあたる。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ及びリバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第１トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　黒褐色土　（10ＹＲ3／2）　表土　層厚５～50㎝

第Ⅱ層　褐色土　（10ＹＲ4／4）　漸移層　層厚５～20㎝

第Ⅲ層　黄褐色土　（10ＹＲ5／6）　粘土　地山

Ⅲ層下部からは、風化を受けた頁岩の角礫が現れる。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区北側第７トレンチで土坑１基、南側12トレンチで焼土遺構３基を検出した。いずれの遺構内からも遺物は出土せず、時期は不明である。土坑は長径約 60 ㎝で、土坑周辺で剥片が多数出土している。焼土は３基とも切り合い関係にあり、最も大きいもので長径３ｍ以上の広がりを持つ。遺物は調査区北側で剥片石器が多量に出土しており、南側での出土量は少ない。石質は頁岩または硬質頁岩を主体としており、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられ

る。

８　所見

ａ　遺跡の種類

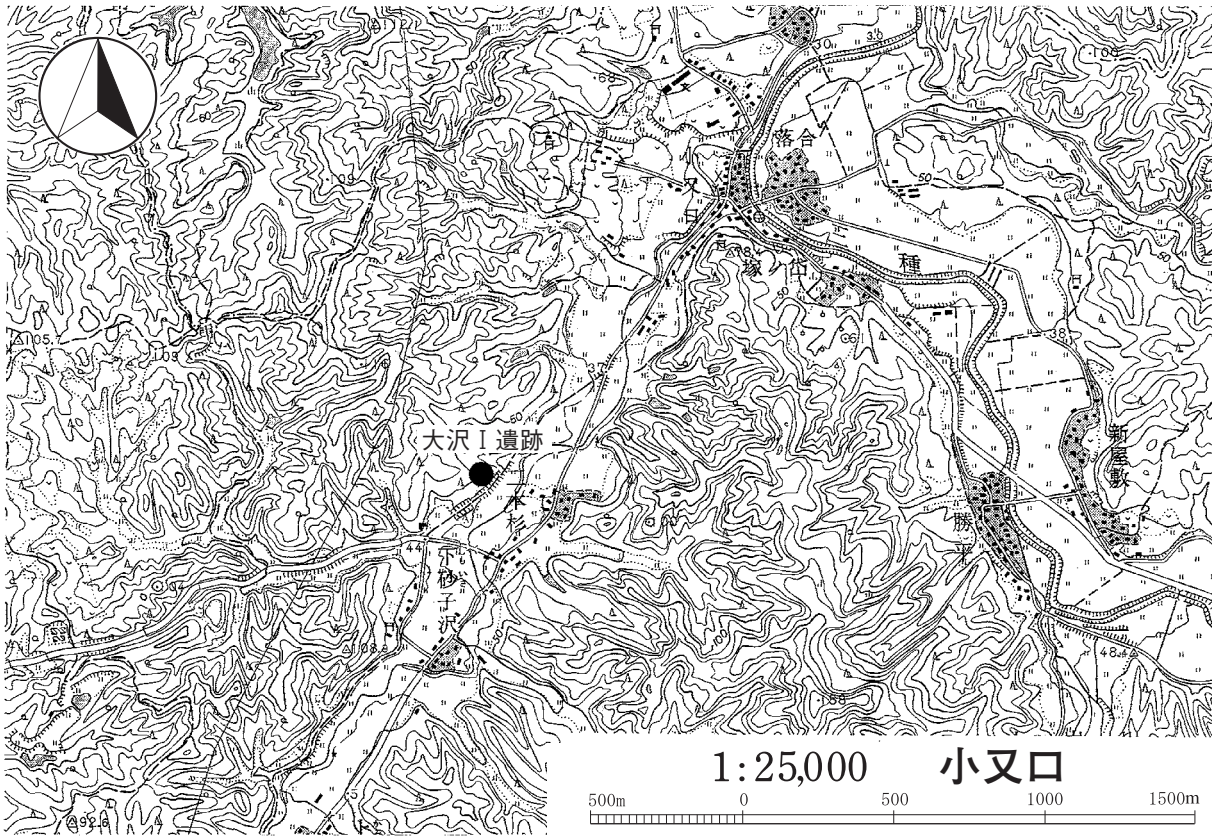
縄文時代の石器製作跡と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

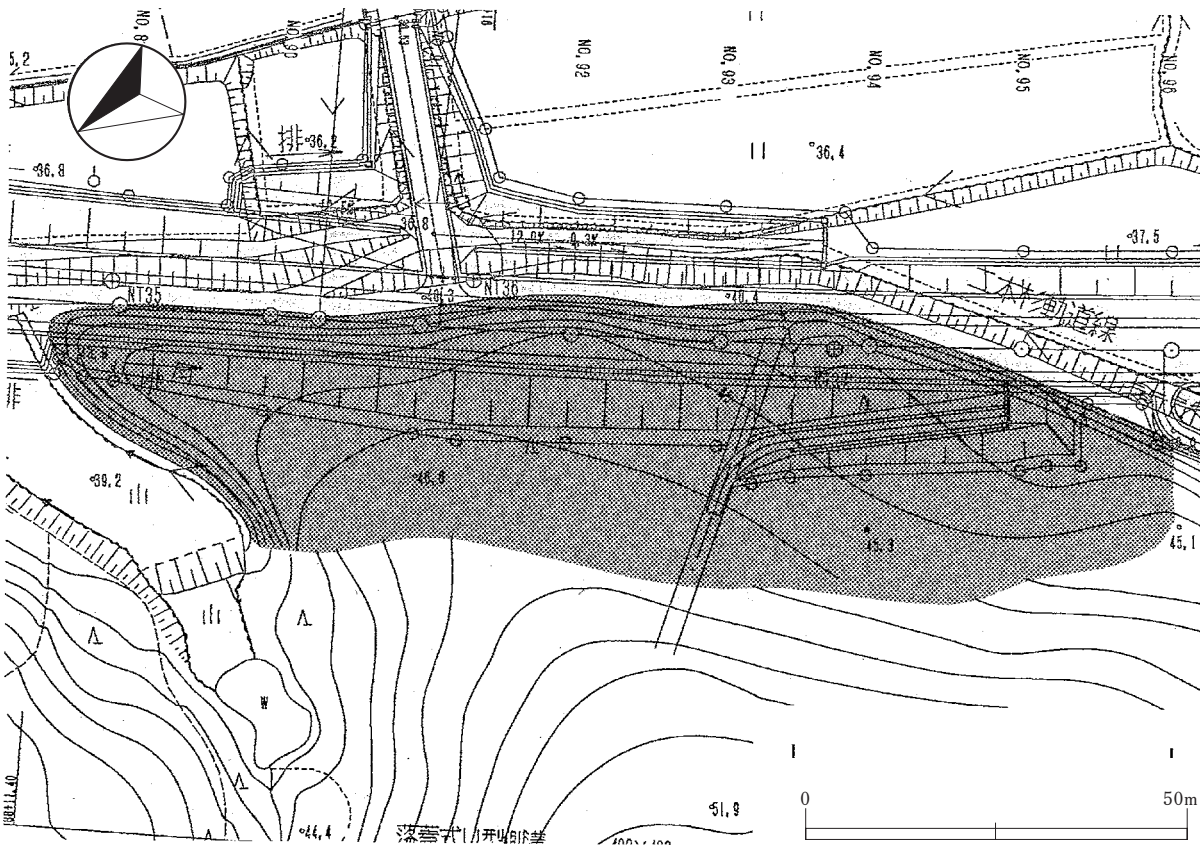
遺跡範囲は、トレンチから石器が多く確認された北側Ａ区（800 ㎡）と、３基の焼土遺構を中心とした南側Ｂ区（370 ㎡）の２か所とした。調査区中央部と南端部は撹乱が著しく遺構は検出されず、出土遺物もトレンチ内では確認されなかったため、調査対象範囲から外した。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

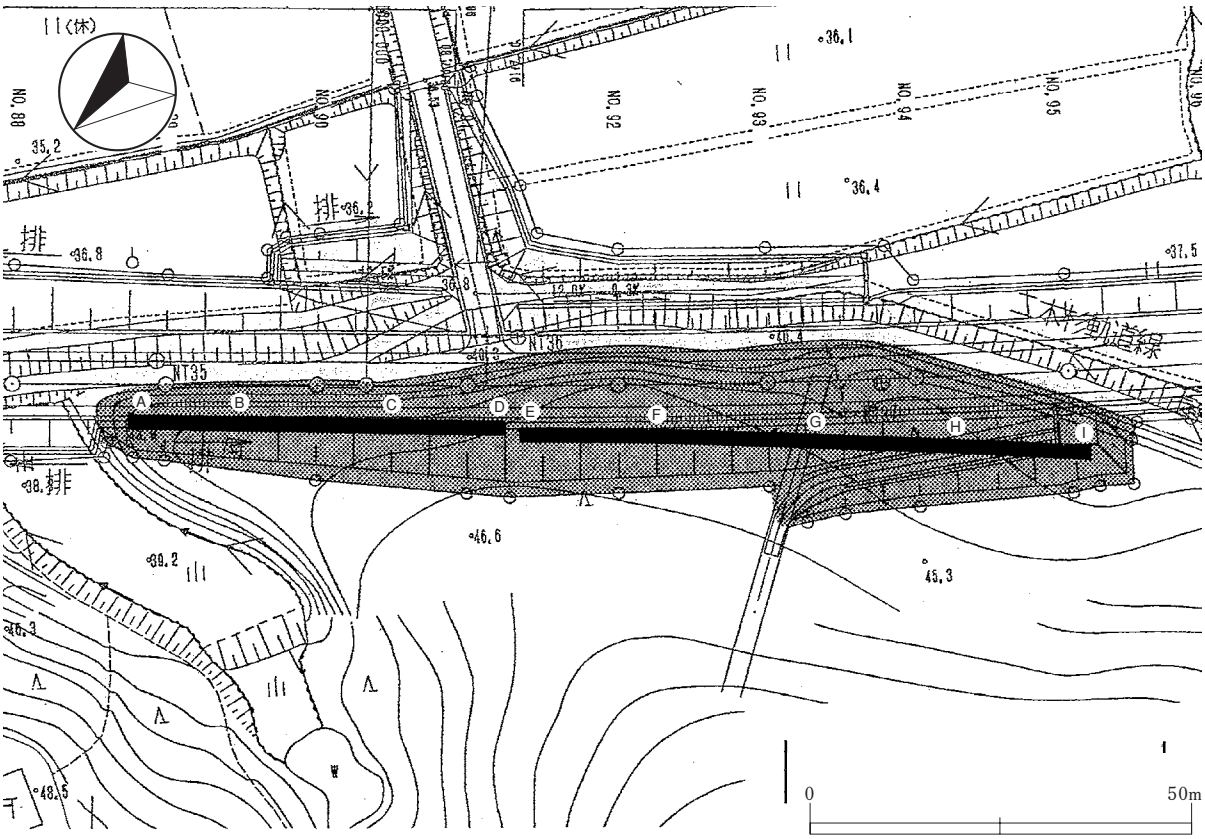
遺構は縄文時代の土坑が検出されると予想される。また、滞留して石器製作を行っていた可能性を考えると、竪穴住居跡や焼土遺構の検出も考えられる。遺物はＡ区を中心に、縄文時代の石器や土器が中コンテナ換算 30 箱前後出土するものと予想される。



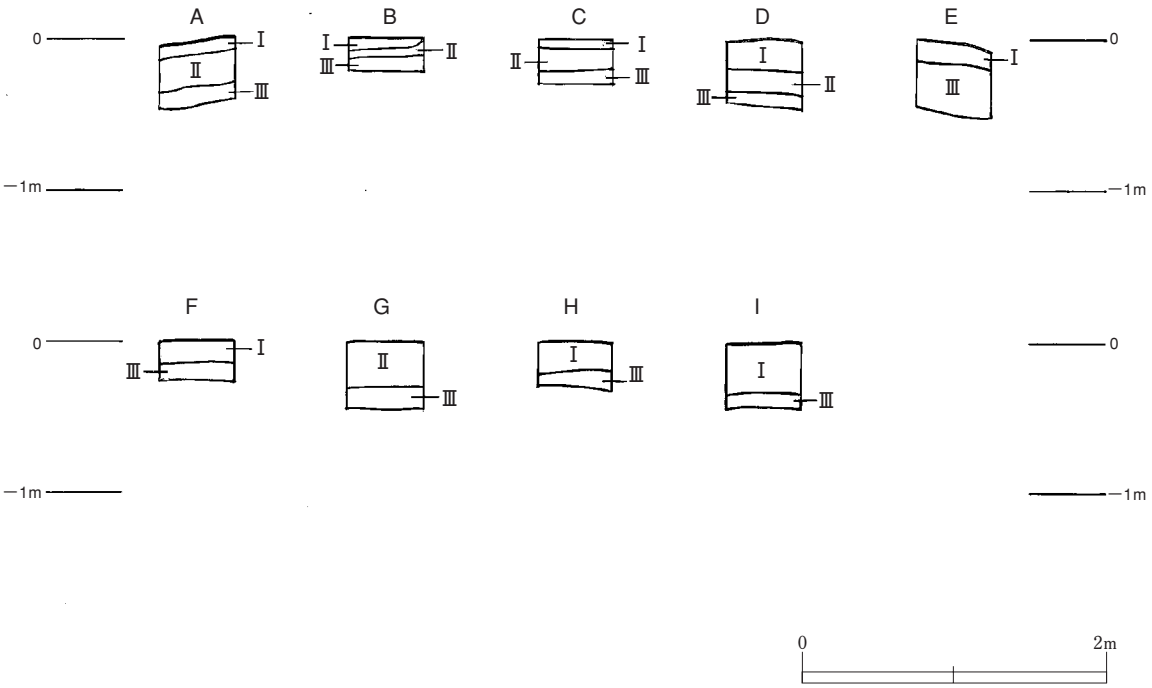
第77図　大沢Ⅰ遺跡位置図



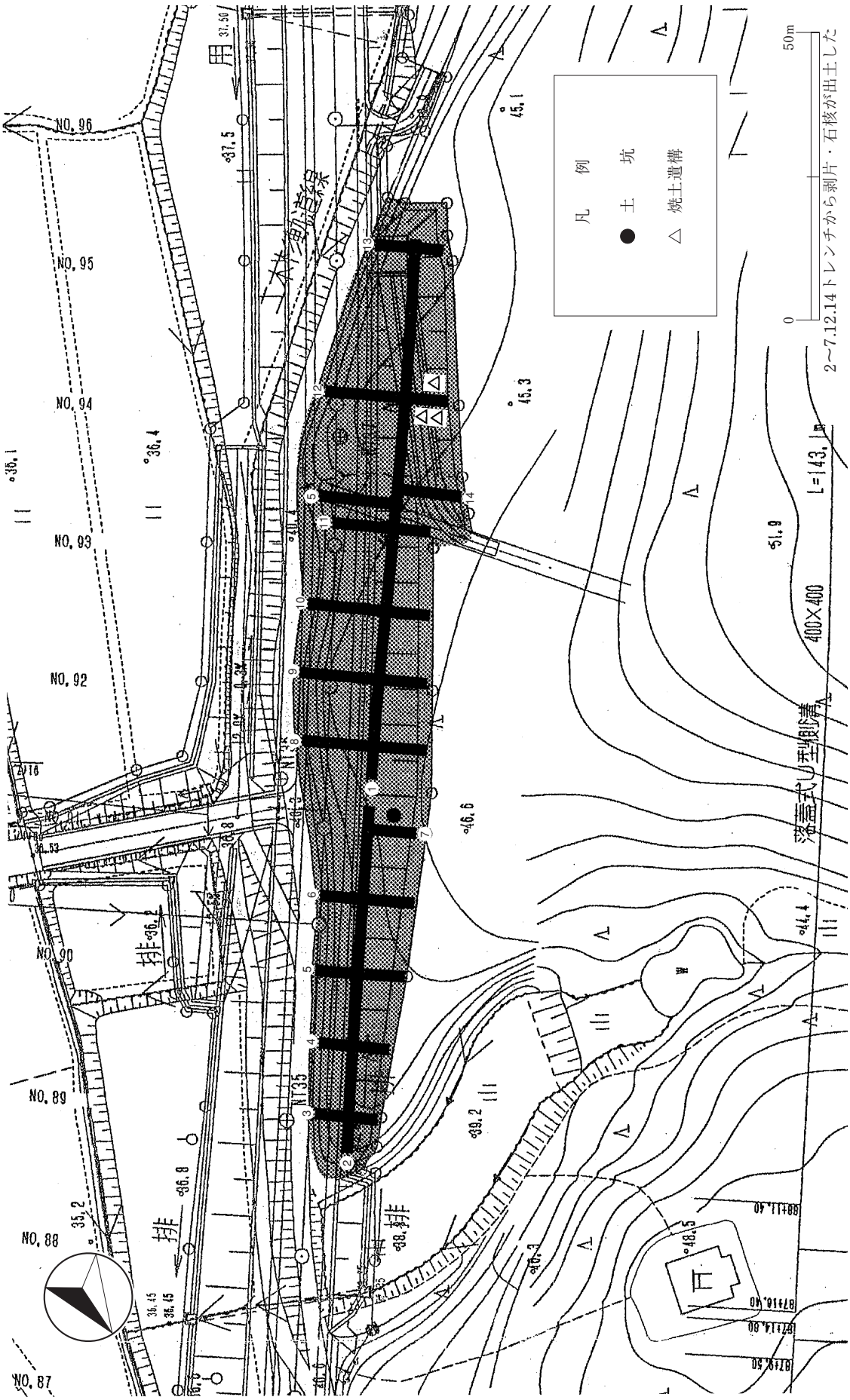
第78図　大沢Ⅰ遺跡推定範囲図



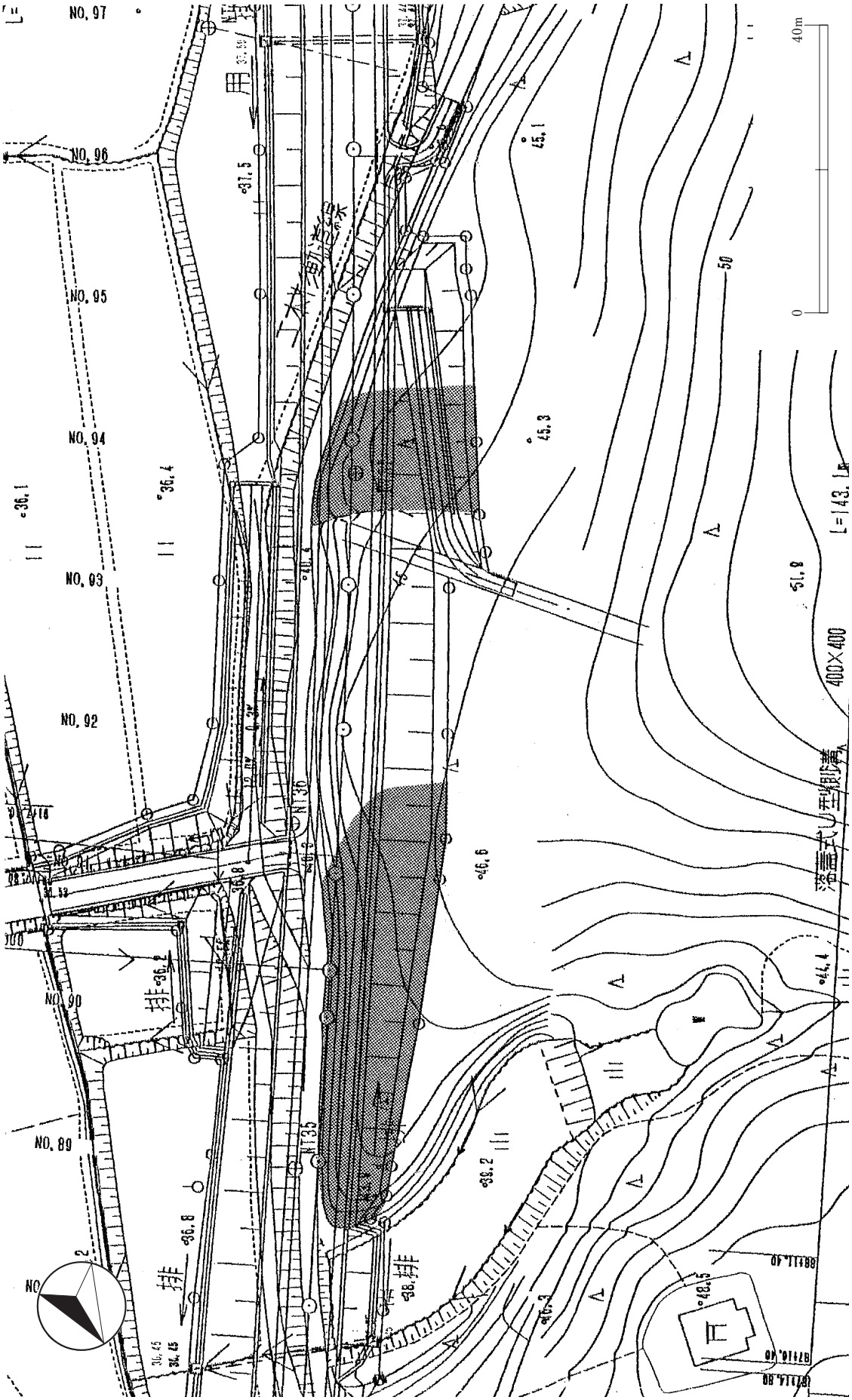
第79図　大沢Ⅰ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第80図　大沢Ⅰ遺跡基本層序図



第81図　大沢Ⅰ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第82図　大沢Ⅰ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡全景（北から）

第12トレンチ検出
焼土遺構半截状況
（東から）

第６トレンチ
遺物出土状況
（南東から）

⑦大沢（おおさわ）Ⅱ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡三種町上岩川字大沢105外

2　確認調査期間　　平成17年８月30日～９月１日

3　確認調査対象面積　　600㎡

4　工事区域内遺跡面積　　600㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線鹿渡駅の西約4.6㎞、琴丘町を北流し東部承水路を経て馬場目川（八郎潟調整池）に流入する二級河川三種川の支流、小又川の左岸丘陵縁辺部に位置する。調査区西側は丘陵本体が南北に延び、東側は水田を挟み小又川に面している。小又川の両岸は河岸段丘を形成しており、隣接する二本杉部落は右岸段丘面、水田は左岸段丘面上にある。

b　現況

松や杉などの針葉樹が生える山林であったが、既に伐採されており、枝が数か所に積み上げられていた。調査区西側にはかつての軌道が町道二本杉軌道線として残っており、調査区への進入路となっている。

6　確認調査の方法

工事用中心杭№98～100に相当する、丘陵縁辺部を調査区とした。調査は路線内に設けられた幅杭を基準に、路線と並行に１本、さらに調査区中央の台地中央部に、それと直行する東西方向に１本、幅１ｍのトレンチ計２本を設定した。トレンチは0.25バケットのバックホーを使って掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は60㎡で、調査対象面積の10％にあたる。

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と、モノクロ、リバーサルカラーを中心に、ネガカラーとデジタルカメラを補助として写真記録を行った。

7　確認調査の結果

a　層序

第１トレンチの土層観察から、遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	黒褐色土	（10ＹＲ2／2）	表土	層厚５～50㎝
第Ⅱ層	暗褐色土	（10ＹＲ3／4）	遺物包含層	層厚５～30㎝
第Ⅲ層	褐色土	（10ＹＲ4／4）	漸移層	層厚５～20㎝
第Ⅳ層	黄色土	（2.5Ｙ6／4）	粘土　地山	

Ⅲ層は粘土とシルトが混在する。Ⅳ層下部からは、女川層をなす硬質頁岩の層が現れる。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、第１トレンチ南端部で土坑４基、焼土遺構１基を検出した。土坑は長軸30～50㎝ほどの小型の円形プランである。出土遺物は縄文時代の石器（剥片）で、トレンチ全域で出土している。その出土量は中コンテナ（53×34×10㎝）で２箱ほどである。石器の石質は頁岩、硬質頁岩が主体であり、調査区近隣の露頭及び地山土から確認される女川層由来のものと考えられる。

8　所見

a　遺跡の種類

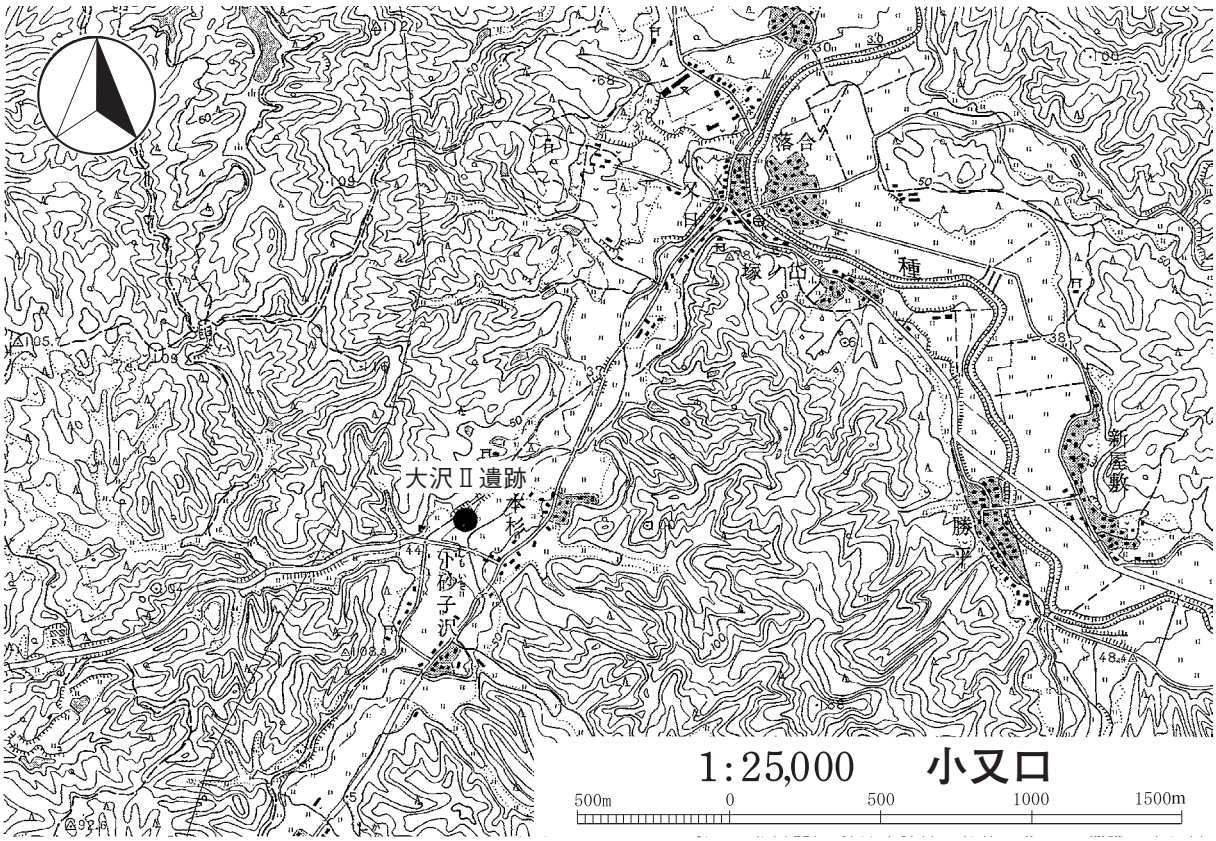
縄文時代の石器製作跡と考えられる。

b　遺跡の範囲と工事区域

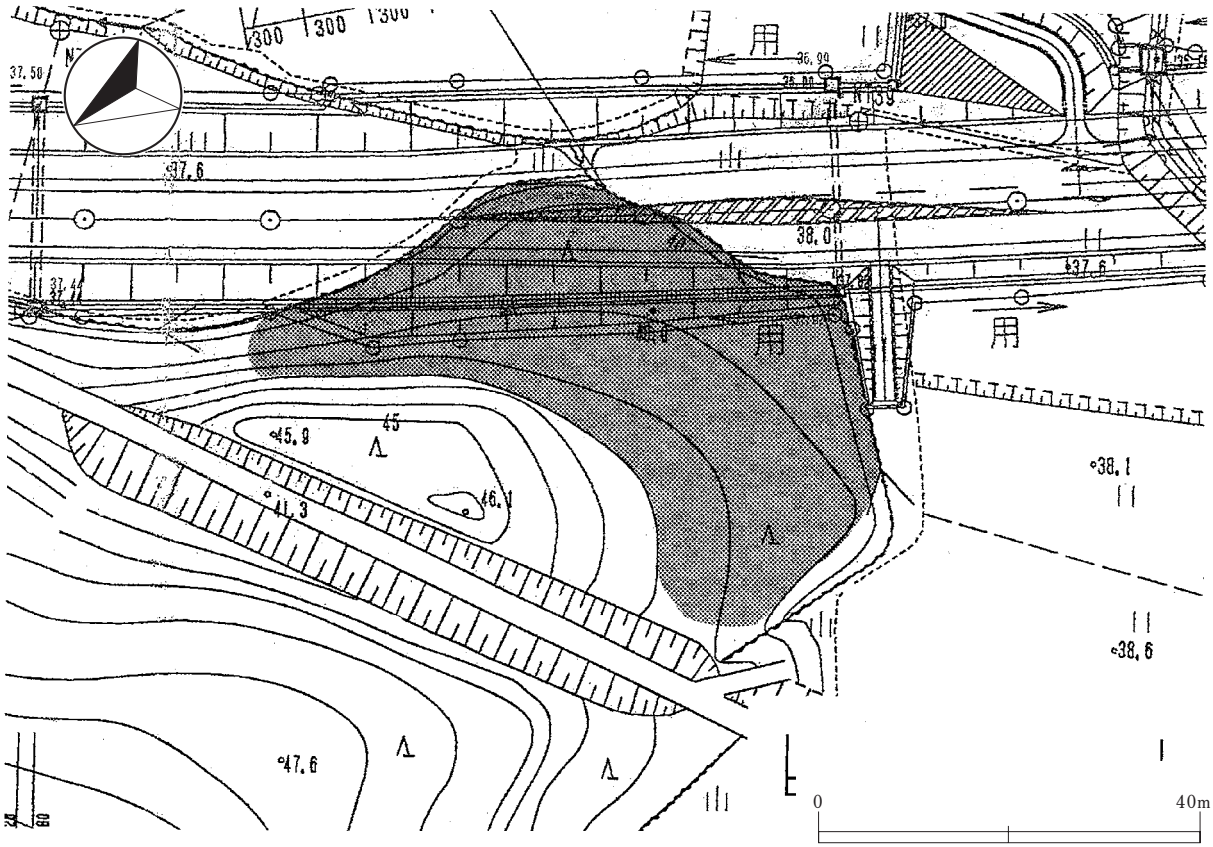
工事区域の遺跡範囲は、今回調査範囲とした 600 ㎡全域である。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

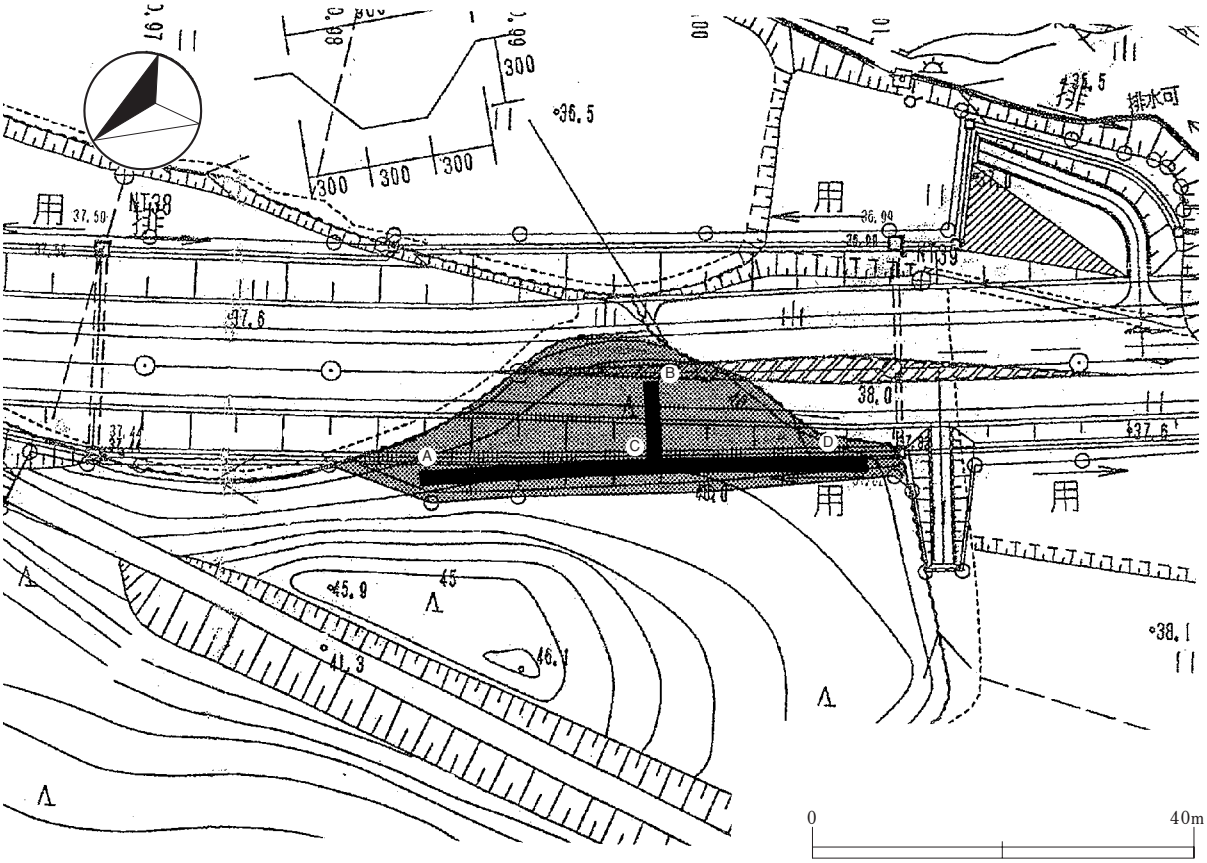
遺構は縄文時代の土坑、焼土遺構などの検出が考えられる。Ⅳ層下部から女川層由来の頁岩の礫が確認されていることから、原石採取のための土坑が検出することも予想される。遺物は、縄文時代の石器や土器が、中コンテナ換算で 30 箱前後出土するものと予想される。



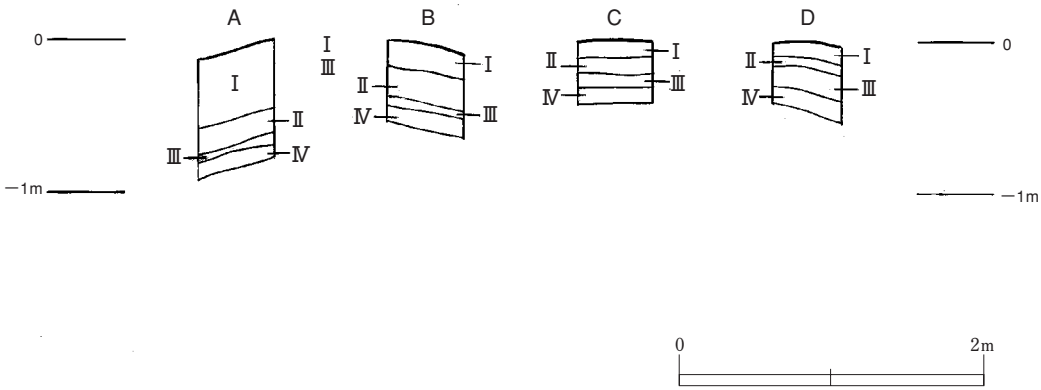
第83図　大沢Ⅱ遺跡位置図



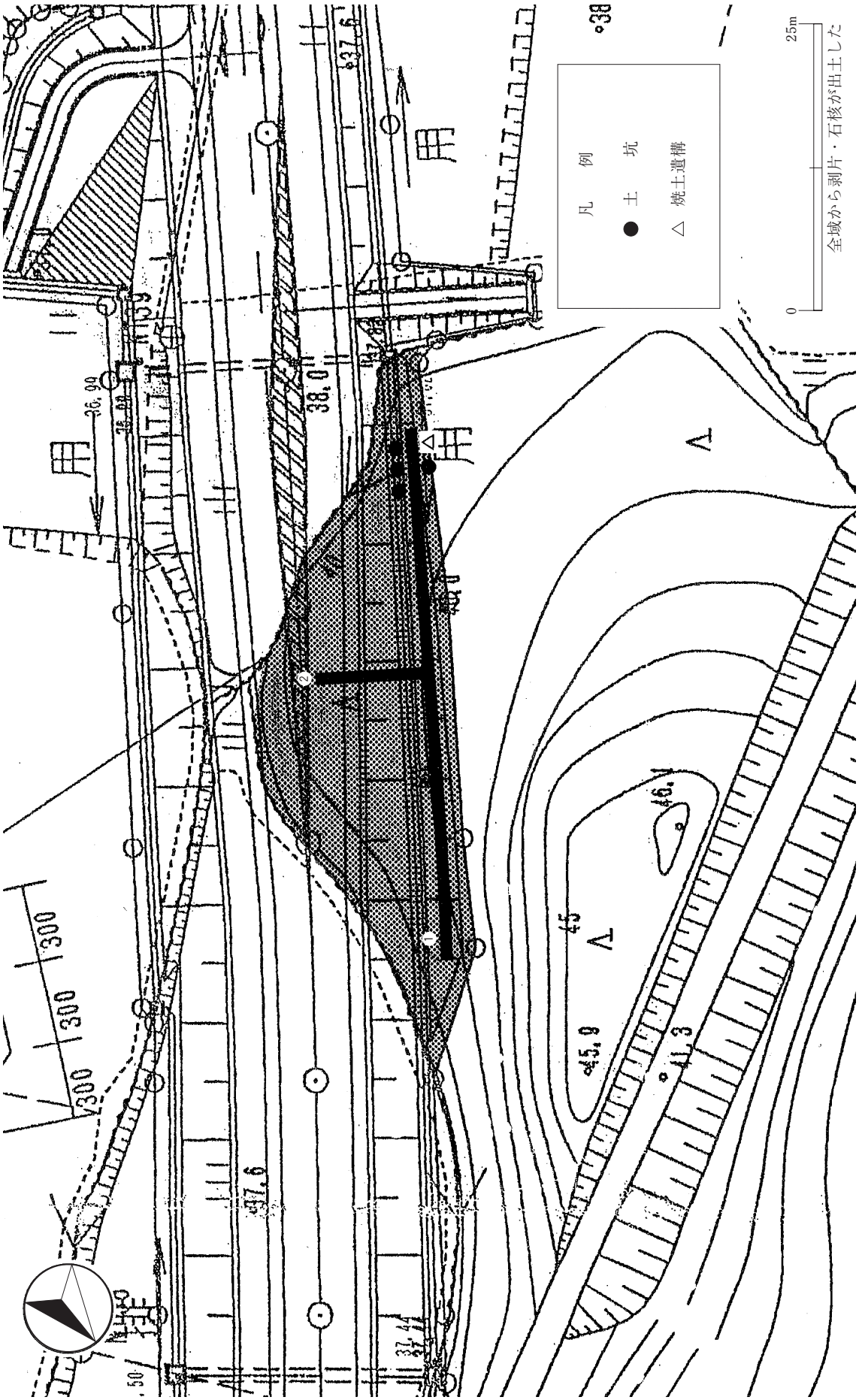
第84図　大沢Ⅱ遺跡推定範囲図



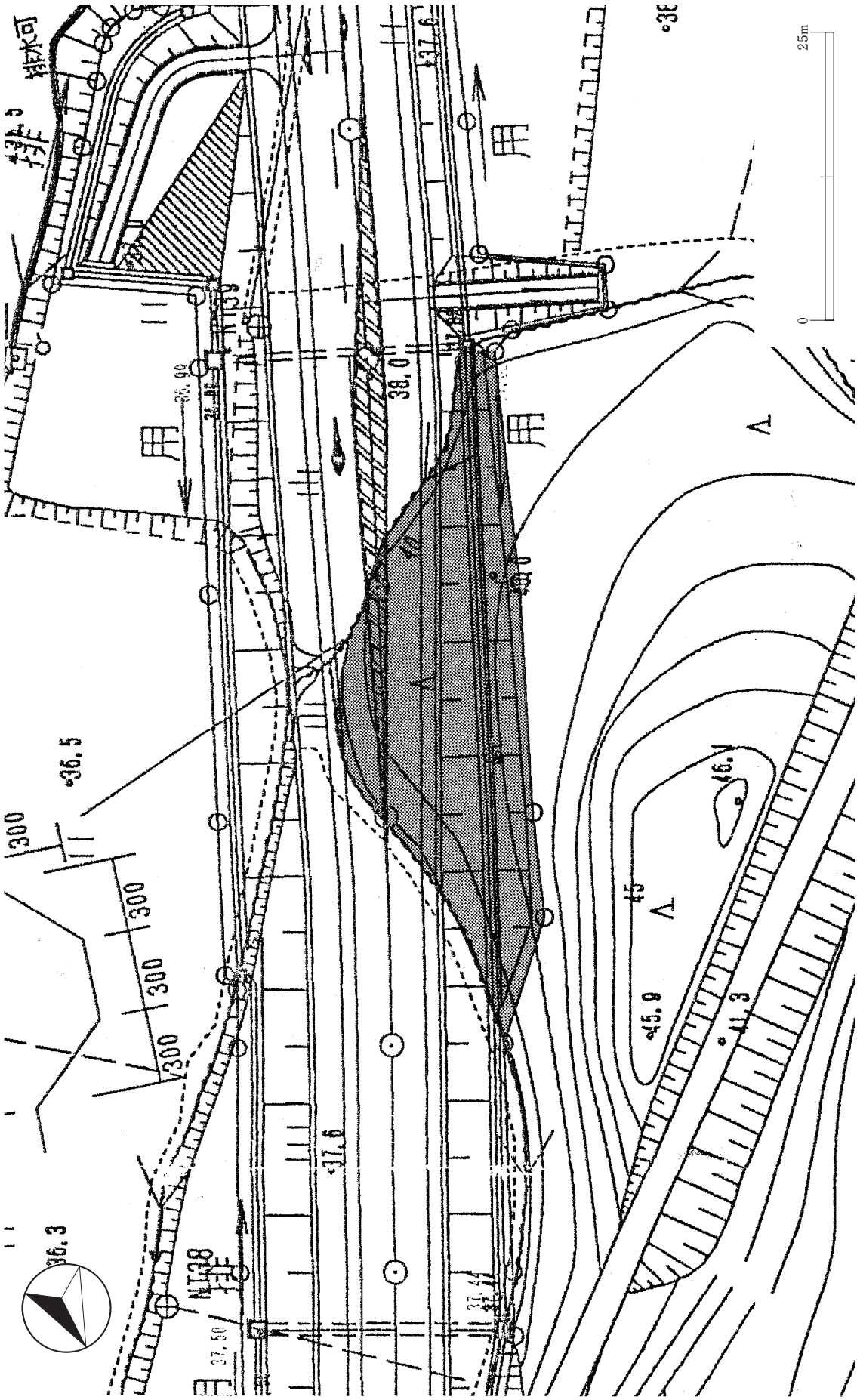
第85図　大沢Ⅱ遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第86図　大沢Ⅱ遺跡基本層序図



第87図　大沢Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第88図　大沢Ⅱ遺跡要本発掘調査範囲図

遺跡遠景
（南から）

遺跡全景
（南から）

第1トレンチ内焼土遺構
確認状況
（南から）

（４）一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

布田谷地（ぬのたやち）遺跡

１　遺跡所在地　　大仙市北楢岡字布田谷地112番地外

２　確認調査期間　　平成17年11月14日～12月2日

３　確認調査対象面積　　9,570㎡

４　工事区域内遺跡面積　　5,750㎡

５　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡はJR奥羽本線神宮寺駅より北西へ3.0㎞に位置し、西流する雄物川右岸に形成された標高21～23ｍの河岸段丘上に立地する。確認調査区域の北側には奥羽本線が走り、さらに北側には雄物川の残存湖である大浦沼が広がる。周辺は水田地帯であり、遺跡はその中の微高地上にある。

ｂ　現況

遺跡のほとんどは水田であるが、調査対象地は休耕田となっている。遺跡の中央部を南北に幅員3.5ｍの農道が通る。またこの農道西側に直交して東西に幅員3.5ｍの工事用道路が作られている。

６　確認調査の方法

調査は路線に設けられた20ｍ間隔の中心杭と幅杭を基準に、路線方向に５本とそれに直交する方向に25本の計30本を設定した。

トレンチの幅は約２ｍで、重機で掘り下げたのち、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチ内で出土した遺物については、位置と層位を記録して取り上げ、遺構プランは実測・写真撮影を行った。一部の遺構は土量を把握するため、半裁して断面を記録した。

確認調査における試掘面積は928㎡で、調査対象面積の約9.7％に相当する。

７　確認調査の結果

ａ　層序

各トレンチの土層観察から遺跡の基本層序は次の通りである。

第Ⅰ－ａ層	黒褐色土（10ＹＲ2/2）	耕作土	層厚10～15㎝
第Ⅰ－ｂ層	黒褐色土（10ＹＲ3/1）	土地区画整理時の造成土	層厚10～15㎝
第Ⅰ－ｃ層	黒褐色土（10ＹＲ3/2）	土地区画整理時の造成土	層厚10～15㎝
第Ⅱ層	黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）	平安時代の遺物包含層	層厚10～30㎝
第Ⅲ層	灰黄褐色土（10ＹＲ3/2）	漸移層	層厚10～20㎝
第Ⅳ層	灰色土（7.5Ｙ5/1）	地山	

第Ⅰ－ｂ層・第Ⅰ－ｃ層は礫が多く混入しており土地区画整理時の造成土と思われ、遺物も検出されなかった。調査区の西端には第Ⅰ－ｂ層・第Ⅰ－ｃ層があるが、東に向かうにつれて薄くなり無くなる。土師器は第Ⅱ層上面で出土した。遺構は第Ⅱ層より掘込まれているが、第Ⅱ層中ではプランの確認が難しい。慎重な遺構確認作業が必要と思われる。用水路東側の調査区は西側より１ｍほど低くなっていて、多数の暗渠が埋設されており、攪乱が著しかった。また、南東から北西方向にスクモ層を確認した。おそらく小さな川が流れていたものと思われる。

ｂ　検出遺構と出土遺物

遺構と遺物は調査対象範囲の微高地となっている用水路西側で確認された。検出された遺構は、土坑６基・溝跡２条・焼土遺構２基・カマド状遺構１基・柱穴様ピット 25 基である。カマド状遺構の周辺を精査し、住居跡のプランを検出しようとしたが確認できなかった。カマド状遺構の近辺で検出したピットは掘立柱建物跡になる可能性もある。

検出した溝跡は幅 40 ㎝、深さ 30 ㎝と幅 50 ㎝、深さ 40 ㎝の２条で、50 ㎝の間をあけて並行している。いずれもＵ字形で近くの用水路と並行していることが確認できた。

遺物は平安時代の土師器がカマド状遺構付近でまとまって出土した。また調査区南東部で検出した直径 1.5 ｍほどの土坑から古代の須恵器片が数点出土した。

８　所見

ａ　遺跡の種類

土師器の年代及びカマド状遺構の検出から平安時代の集落跡と推定される。

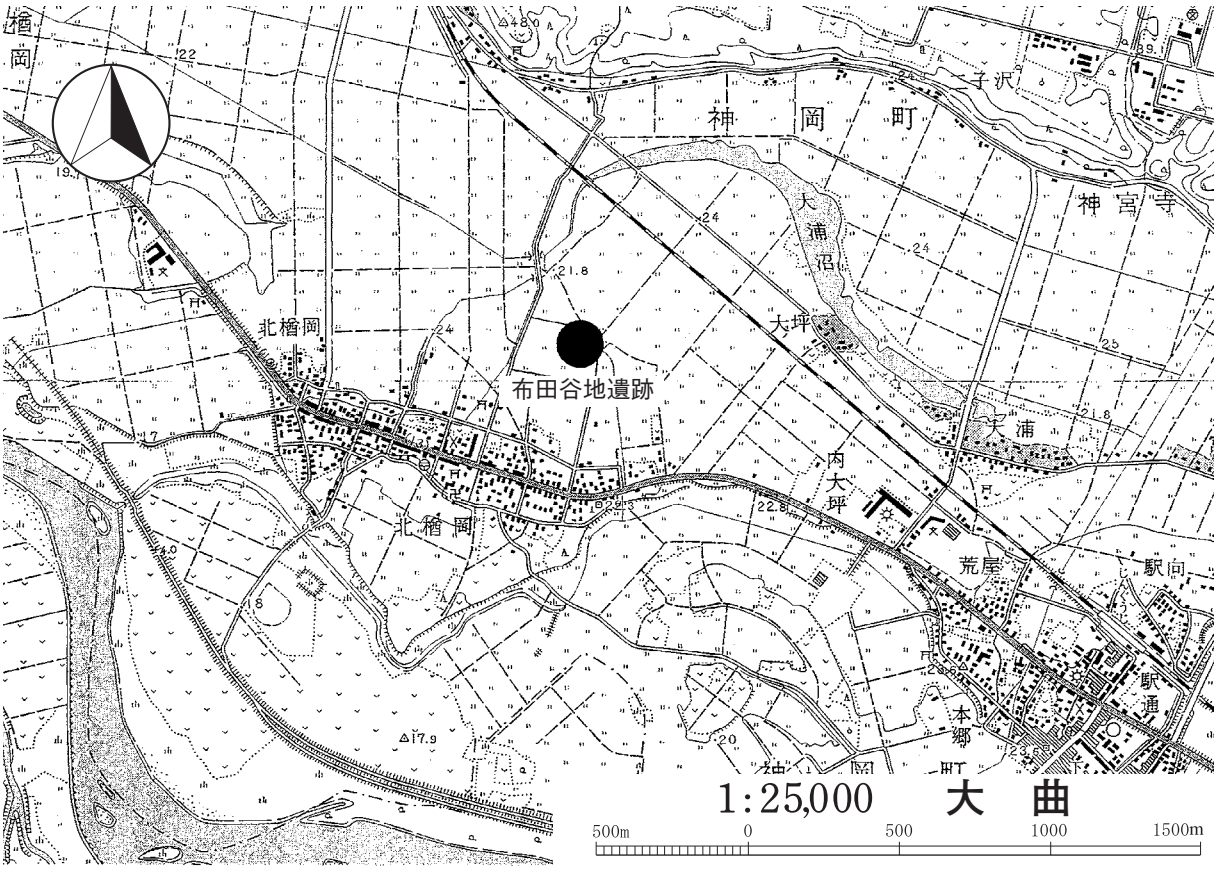
ｂ　遺跡の範囲と工事区域

工事区域内で発掘調査が必要な範囲は、用水路西側の微高地となっている5,750 ㎡である。工事区域内の用水路東側は土地区画整理や暗渠埋設により攪乱を受けた部分が多く、遺構も確認できなかったため発掘調査の対象範囲から除外した。

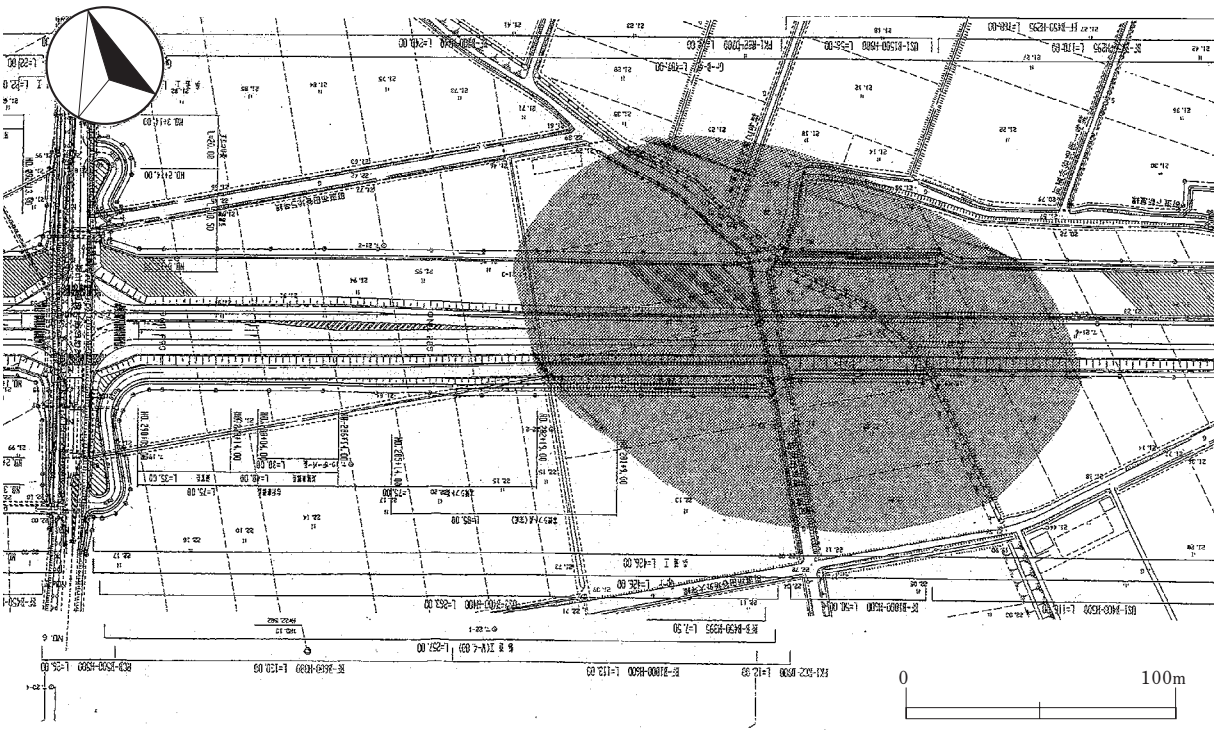
ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、平安時代の掘立柱建物跡・カマド状遺構・井戸跡・溝跡・土坑・柱穴様ピットなどが検出されると考えられる。

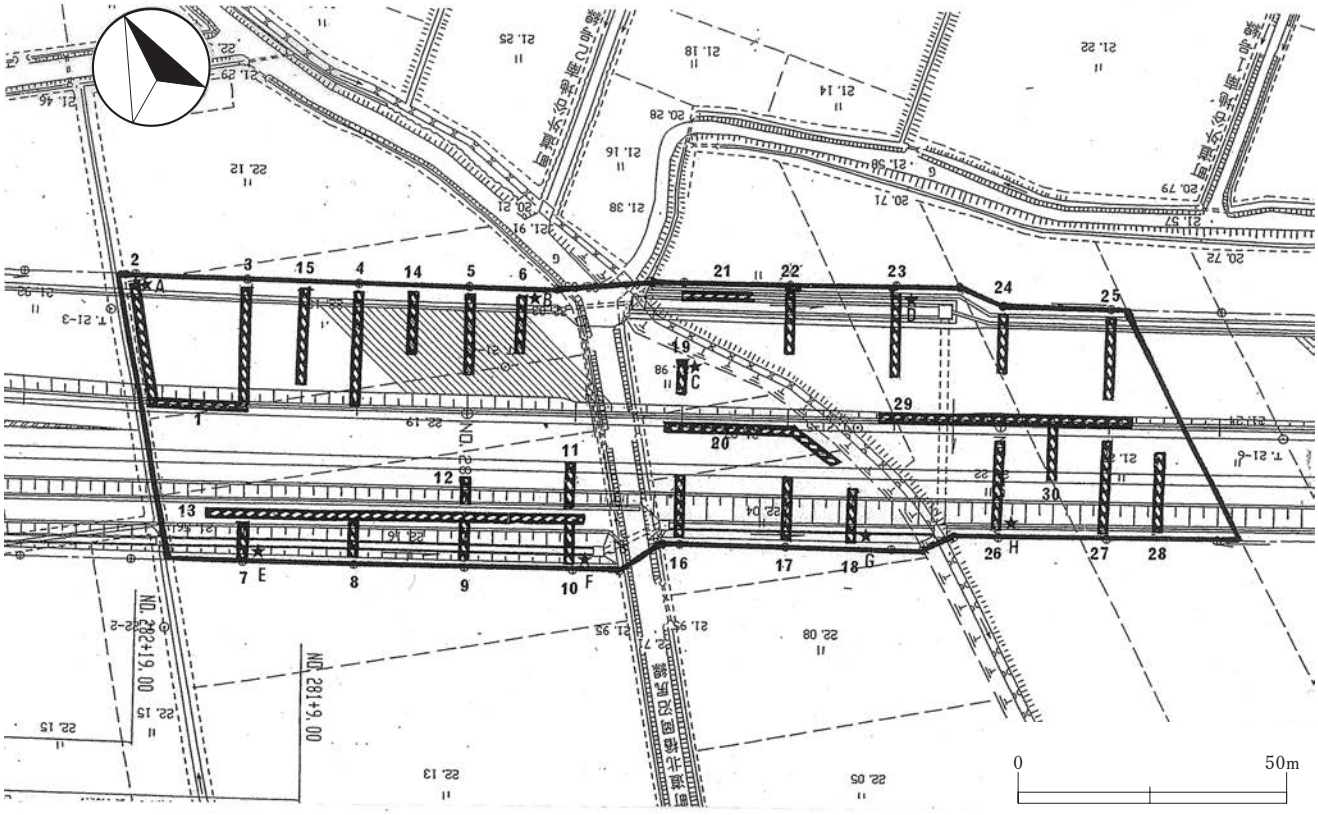
遺物は、平安時代の土師器・須恵器が中コンテナで 10 箱程度出土すると思われる。



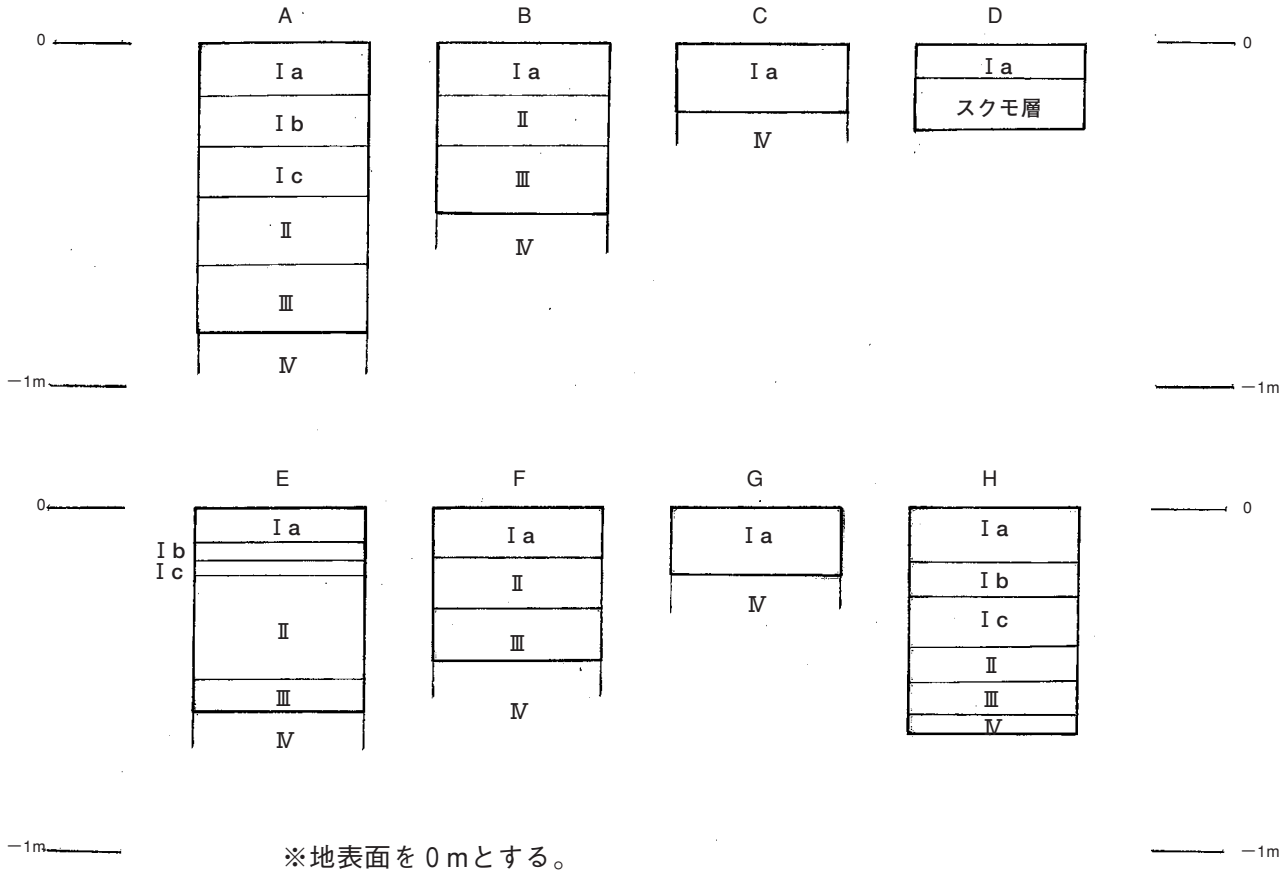
第89図　布田谷地遺跡位置図



第90図　布田谷地遺跡推定範囲図

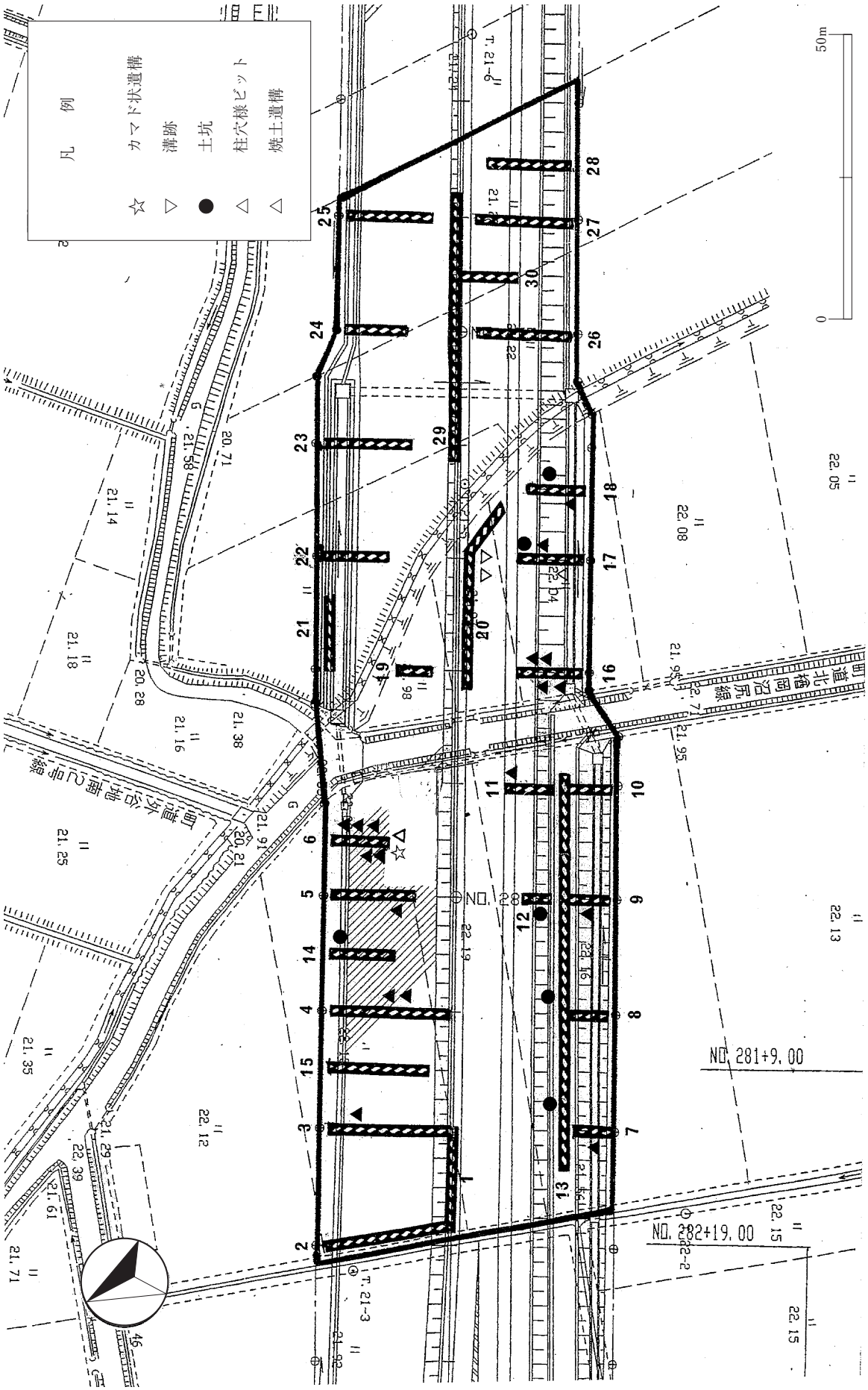


第91図　布田谷地遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図

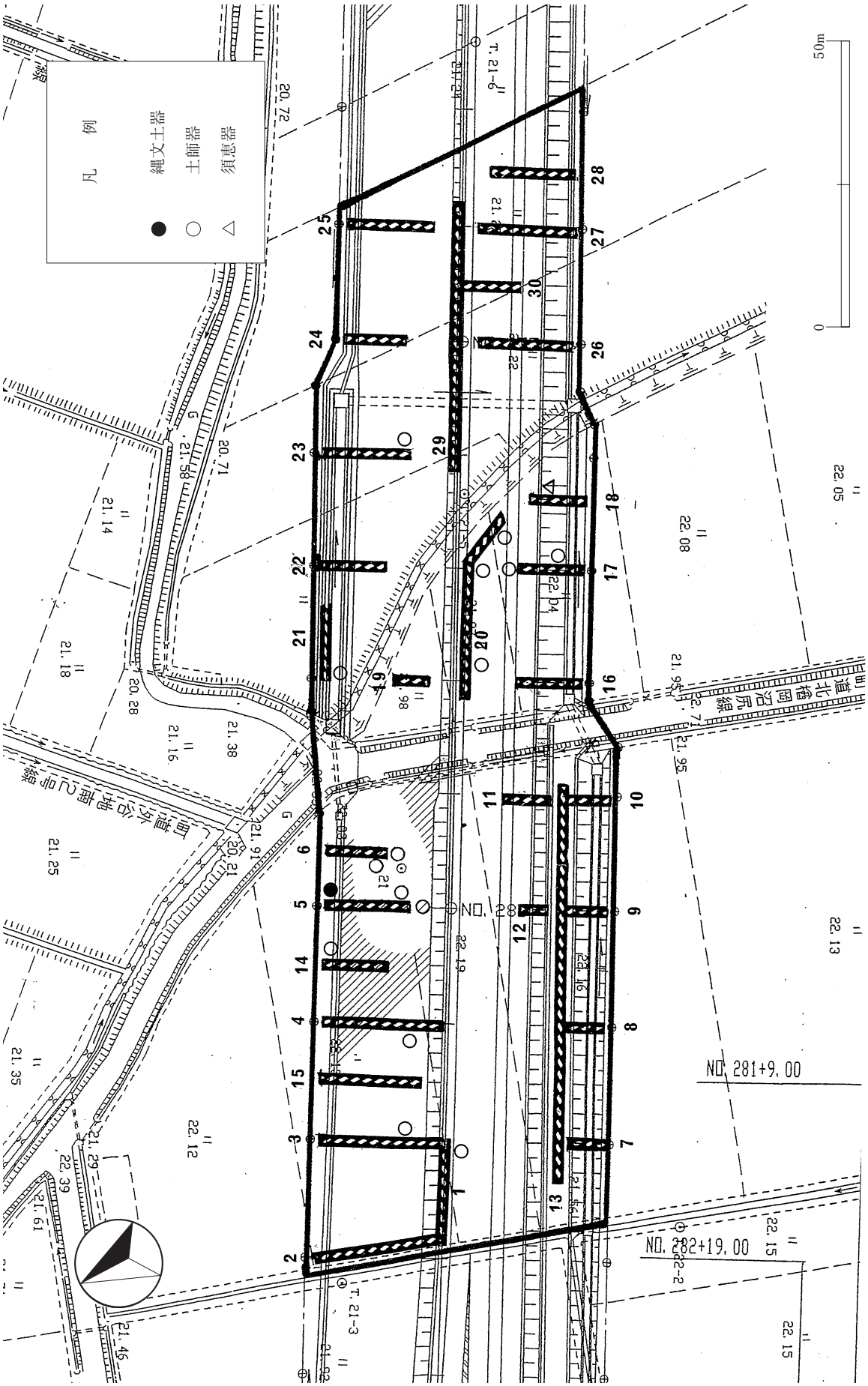


※地表面を０ｍとする。

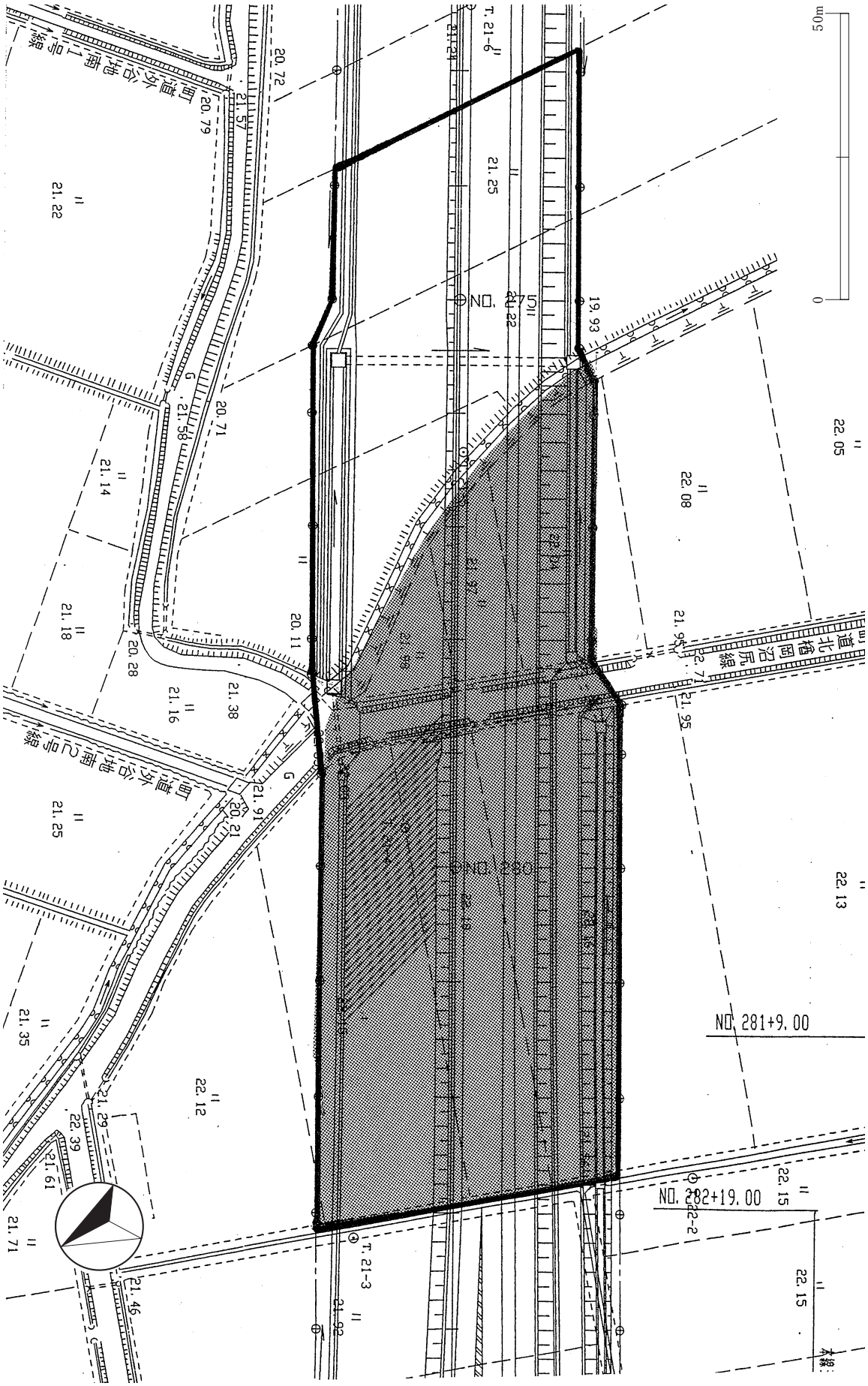
第92図　布田谷地遺跡基本層序図



第93図　布田谷地遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



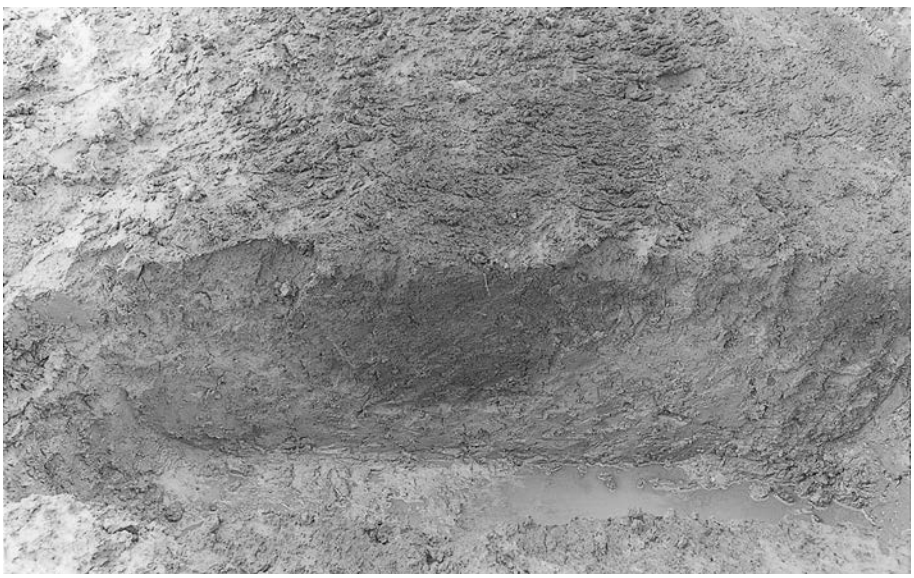
第94図　布田谷地遺跡確認調査結果図（遺物検出地点）



第95図　布田谷地遺跡要本発掘調査範囲図

布田谷地遺跡
第6トレンチ
土師器・カマド状遺構
検出状況（東から）

布田谷地遺跡
第18トレンチ
土坑検出状況
（東から）



布田谷地遺跡
第20トレンチ
溝跡検出状況
（東から）

秋田県文化財調査報告書第413集

遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行　平成18年3月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014－0802
大仙市払田字牛嶋20番地
電話（0187）69－3331
FAX（0187）69－3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010－8580
秋田市山王三丁目1番1号
電話（018）860－5193
印　　刷　有限会社　平鹿印刷